

令和6年度
日田市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

目 次

調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査内容	1
3. 調査結果の信頼性	1
4. 報告書の見方	2

調査結果概要

1. 男女平等に関する意識、慣習について	3
2. 家庭生活及び結婚・家庭観について	4
3. 仕事について	5
4. ワーク・ライフ・バランスについて	9
5. DVについて	10
6. 男女共同参画について	14

調査結果

1. あなたご自身のことやご家族について	17
2. 男女平等に関する意識、慣習について	21
3. 仕事について	37
4. ワーク・ライフ・バランスについて	42
5. 女性の活躍について	51
6. 地域の活動について	53
7. DVについて	57
8. 政策決定の場への女性の参画について	62
9. その他の意見・自由意見	72

調査概要

1. 調査目的

本調査は、第3期日田市男女共同参画基本計画の後期行動計画となる第二次行動計画の策定にあたり、市民の家庭生活・職場・社会活動等の様々な場面における男女の意識や実態を把握し、策定の基礎資料に活用することを目的として実施しました。

2. 調査内容

市民アンケート

- ① 調査対象：日田市内に居住する満 16 歳以上の市民（4月1日時点）1,700 人
- ② 調査方法：郵送配付、郵送/WEB 回収
- ③ 調査期間：令和6年7月10日（発送）～7月31日（回答締切）
- ④ 回収数：473 件（郵送 374 件/WEB99 件）
- ⑤ 回収率：27.8%

3. 調査結果の信頼性

①標本誤差と信頼度の概要

アンケート調査では、母集団（※1）から無作為に抽出した標本データ（※2）を元に、調査対象の全体を推計するため、得られた回答に誤差が生じる可能性があります。

その誤差は、標本誤差と呼ばれており、標本誤差の推定が 100 回のうち 95 回当たる、すなわちその度合いで正確さが保障できるという場合、信頼度 95%と呼びます。

通常のアンケート調査の場合は、信頼度 95%を用いるのが一般的であり、許容できる標本誤差の範囲は、5未満が望ましいとされています。

※1：今回の調査では、16 歳以上の日田市民である 52,802 人
（令和6年5月22日時点）

※2：今回の調査では、アンケート回収数である 473 人

②標本誤差の計算式

母集団が N 人、標本データが n 人、ある選択肢の回答値が P%とすると、信頼度 95%における、標本誤差 E の計算式は、以下の通りとなります。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}}$$

$\left\{ \begin{array}{l} N = \text{母集団の数} \\ n = \text{基数（サンプル数）} \\ P = \text{回答率} \end{array} \right.$

③標本誤差の計算式

本アンケート調査では、473 人からの回答が得られており、例えば、ある選択肢の回答値が 50%であった場合、標本誤差は約 4.6%（※3）となるため、母集団すなわち全市民の賛成率は、95%の確率で 45.4%（50%-4.6%）から 54.6%（50%+4.6%）の間にあると言えます。なお、標本誤差は、回答値が 50%の時に最も高く、回答率が 0%もしくは 100%に近づくほど減少します。

※3…標本誤差 $E = 1.96 \times \sqrt{\{50 \times (100 - 50) / 473\}} \approx 4.6$

以上より、本アンケート調査では、標本誤差が最大でも約 4.6%となり、許容できる標本誤差の範囲である 5%未満に収まるため、母集団に対し妥当な標本データ数を得ることができたと言えます。

4. 報告書の見方

- 四捨五入による有効数字の関係上、単数回答であっても合計値が 100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、有効回答者数に対して、それぞれの割合を示しています。
- グラフの値については、レイアウトの関係上省略することがあります。
- 各調査の値の参照データ
 - ・ 今回調査/全体：今回の調査における当該設問の回答者
 - ・ 前回調査：『男女共同参画に関する市民意識調査報告書（令和元年）』
 - ・ 県調査：『令和 4 年度男女共同参画社会づくりのための意識調査報告書』
 - ・ 内閣府調査：『男女共同参画に関する世論調査（令和 4 年 11 月調査）』
- 文中及び各図にある用語
 - ・ 若年層：16～39 歳
 - ・ 中年層：40～59 歳
 - ・ 高齢層：60 歳以上
- サンプル数が少ないものはグラフの掲載のみに留めます。

調査結果概要

1. 男女平等に関する意識、慣習について

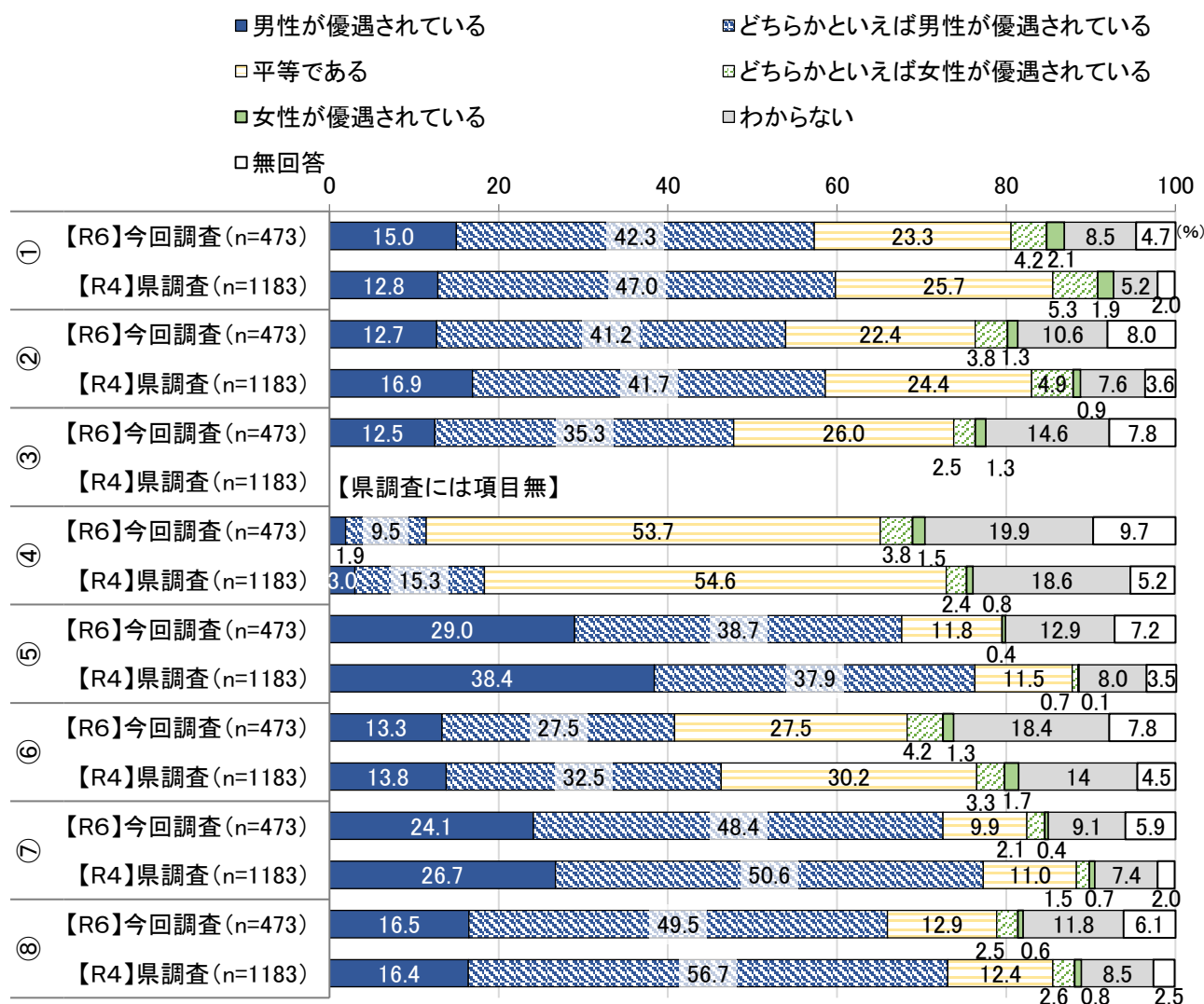
【各分野の男女平等の実現状況】

①～⑧の分野における男女の地位の平等感について、『男性優遇（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）』と『女性優遇（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）』をみると、『男性優遇』の割合は「社会通念・慣習・しきたり」が最も高く、次いで「政治の場」、「社会全体」となっています。一方、「平等である」は「学校教育」が最も高く、次いで「法律や制度」、「地域」なっています。

県調査と比較すると、いずれの分野においても同様の傾向がみられ、多くの場面で男性優遇とを感じる人の割合が高く、性別による不平等感は依然として高いことが伺えます。

①：家庭生活 ②職場 ③：地域 ④：学校教育 ⑤：政治の場 ⑥：法律や制度
⑦：社会通念・慣習・しきたり ⑧：社会全体

男女の地位の平等感 [問 8]



※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

2. 家庭生活及び結婚・家庭観について

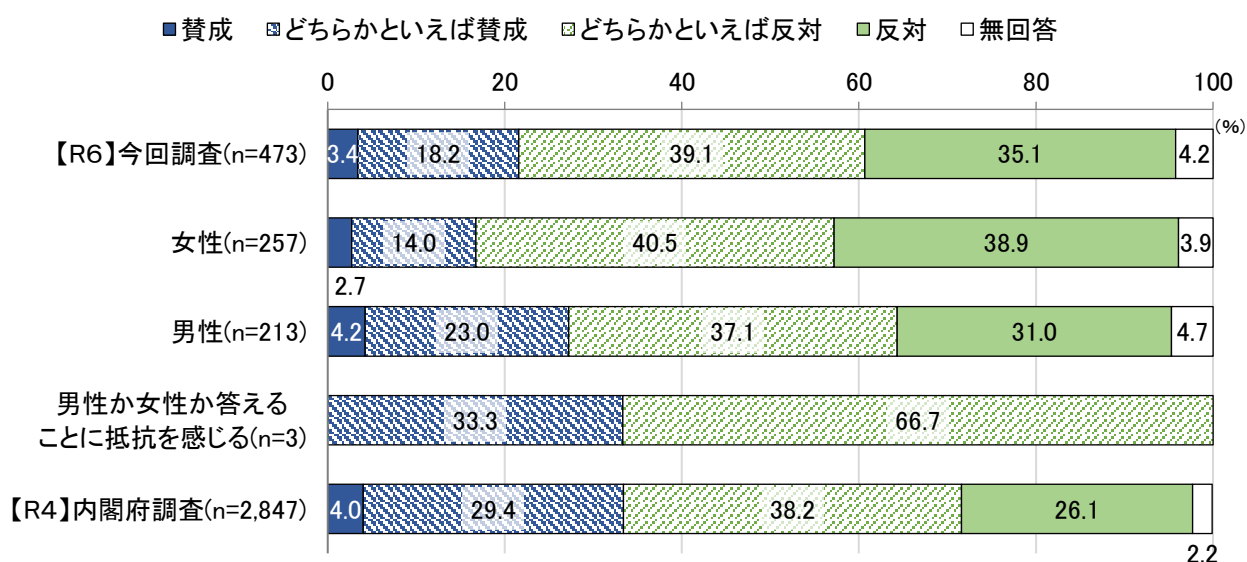
【固定的性別役割分担意識】

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といった性別によって役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）について、今回調査では『賛成意見（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）』より『反対意見（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）』の割合が高くなっており、性別でみると『反対意見』は女性の方が高くなっています。

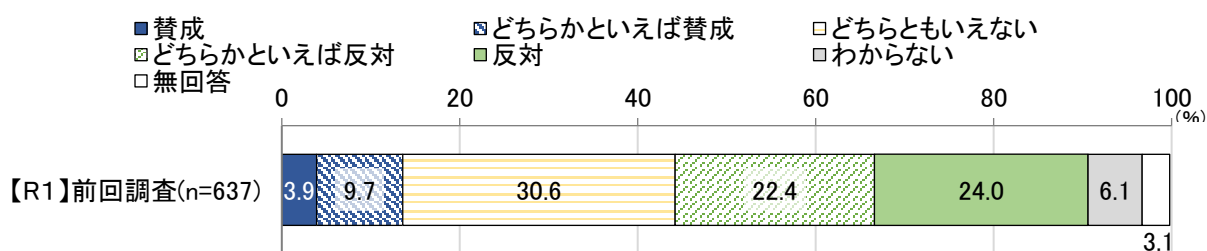
前回調査や県調査とは選択項目が異なるため、単純比較はできないものの、『反対意見』の割合は今回同様高くなっています。

内閣府調査と比較すると、本市の方が、固定的性別役割分担意識（賛成意見）は低く、地域や経済的な理由により、共働きに対して肯定感を持っており、固定的性別役割分担意識に対して否定的である可能性も考えられます。

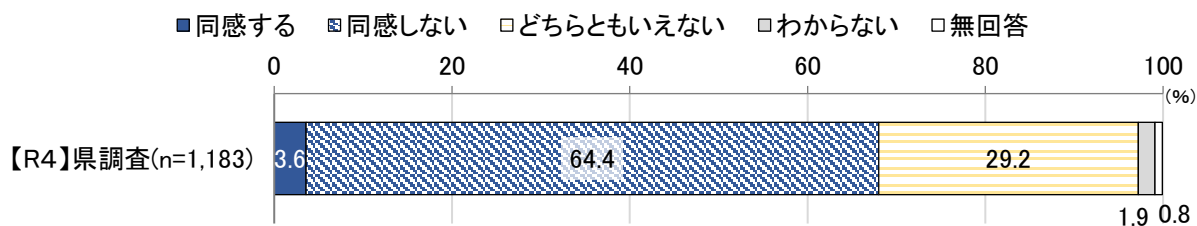
性別による役割の考え方〔問7〕



【参考】性別による役割の考え方（前回調査）



【参考】性別による役割の考え方（県調査）



※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

※内閣府調査結果：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和4年11月調査）」報告書より

3. 仕事について

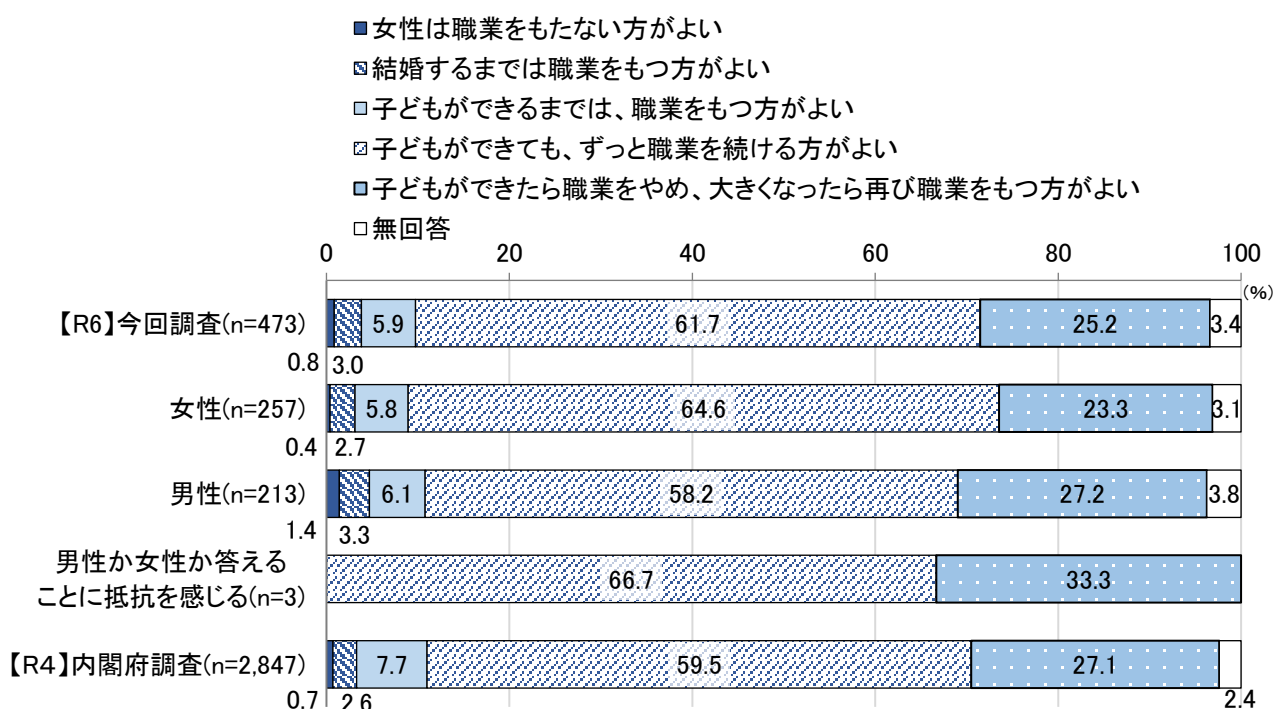
【女性が職業をもつことに対する意識】

女性が職業をもつことに対する意識について、全体でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」となっています。

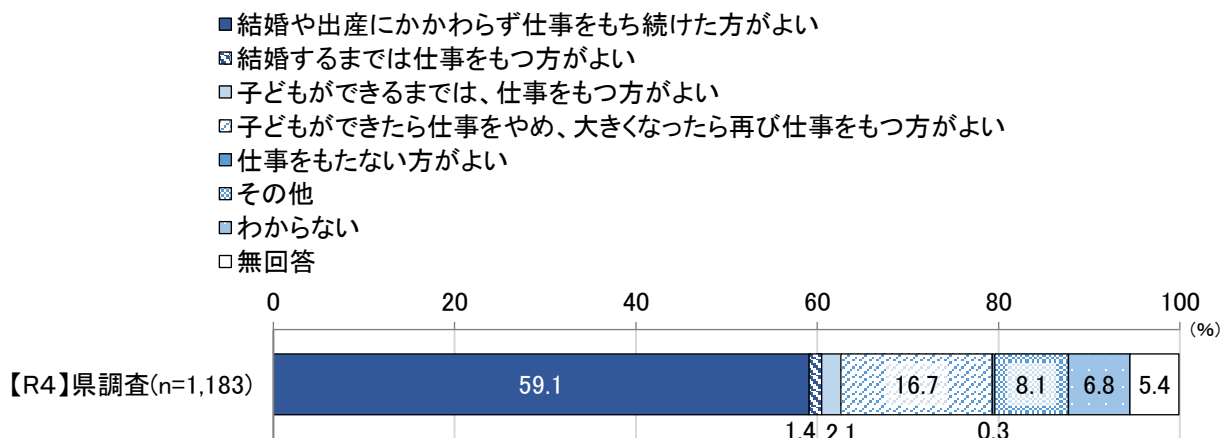
性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は、男性に比べ、女性の方が高くなっており、国と同様の結果となっています。

女性が結婚・出産に関わらず仕事を継続するという考え方は、主流になりつつあることが伺えますが、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の回答が全体の約4分の1を占めていることから、現状として男女ともに「子育て」は女性という認識が伺えます。

女性が職業をもつことについて [問 20]



【参考】女性が職業をもつことについて（県調査）



※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

※内閣府調査結果：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和4年11月調査）」報告書より

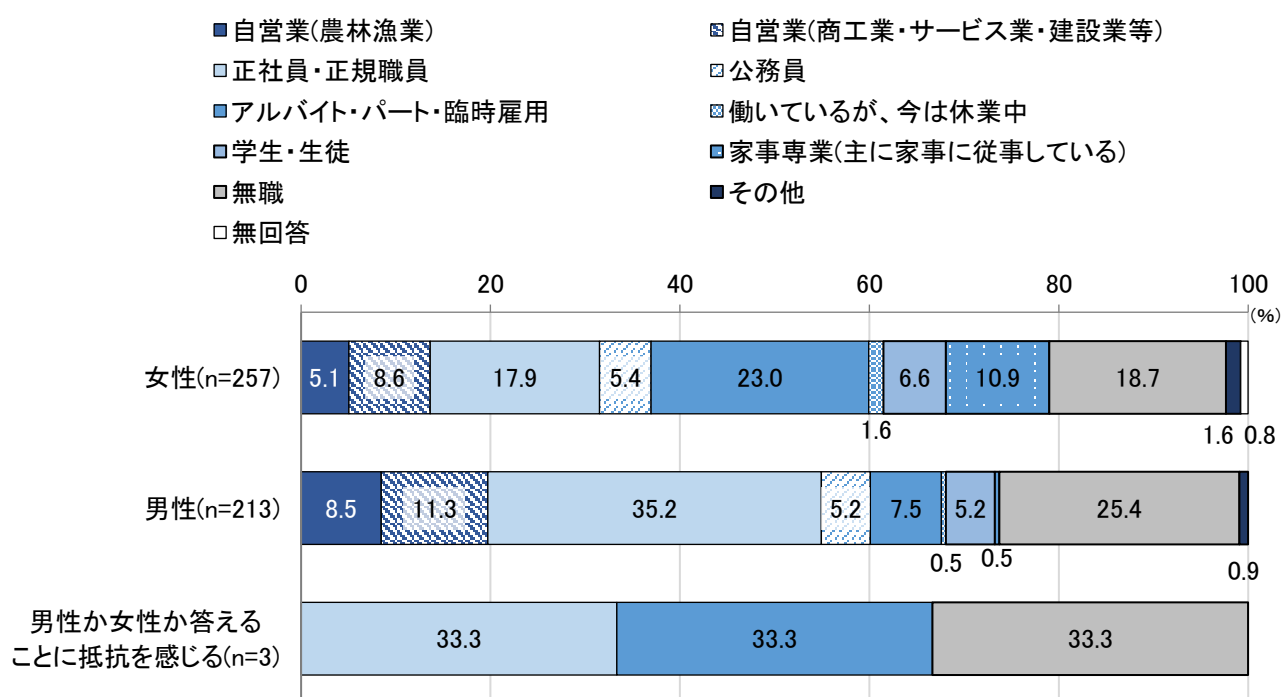
【雇用形態・就労環境】

職業について、性別でみると、「正社員・正規職員」では女性より男性の割合が高く、「アルバイト・パート・臨時雇用」、「家事専業」では男性より女性の割合が高いことから、女性と男性で雇用形態に大きく違いがあります。

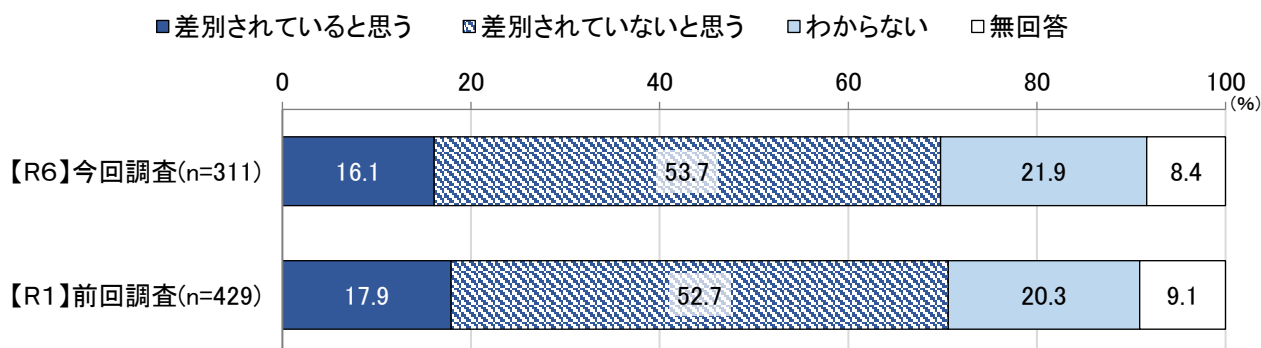
また、「家事専業」の割合は、男性に比べ女性が圧倒的に高いことから、家事・育児等と仕事の両立がしやすいという理由で、女性が非正規雇用を選択している可能性も考えられます。

職場での女性の就労環境について、「差別されていないと思う」と回答した割合が最も高いものの、「差別されていると思う」と回答した方も前回調査同様みられ、職場における女性への冷遇が一定数存在していることがわかります。

職業 [問 4]



女性に対する職場での差別の有無 [問 12]



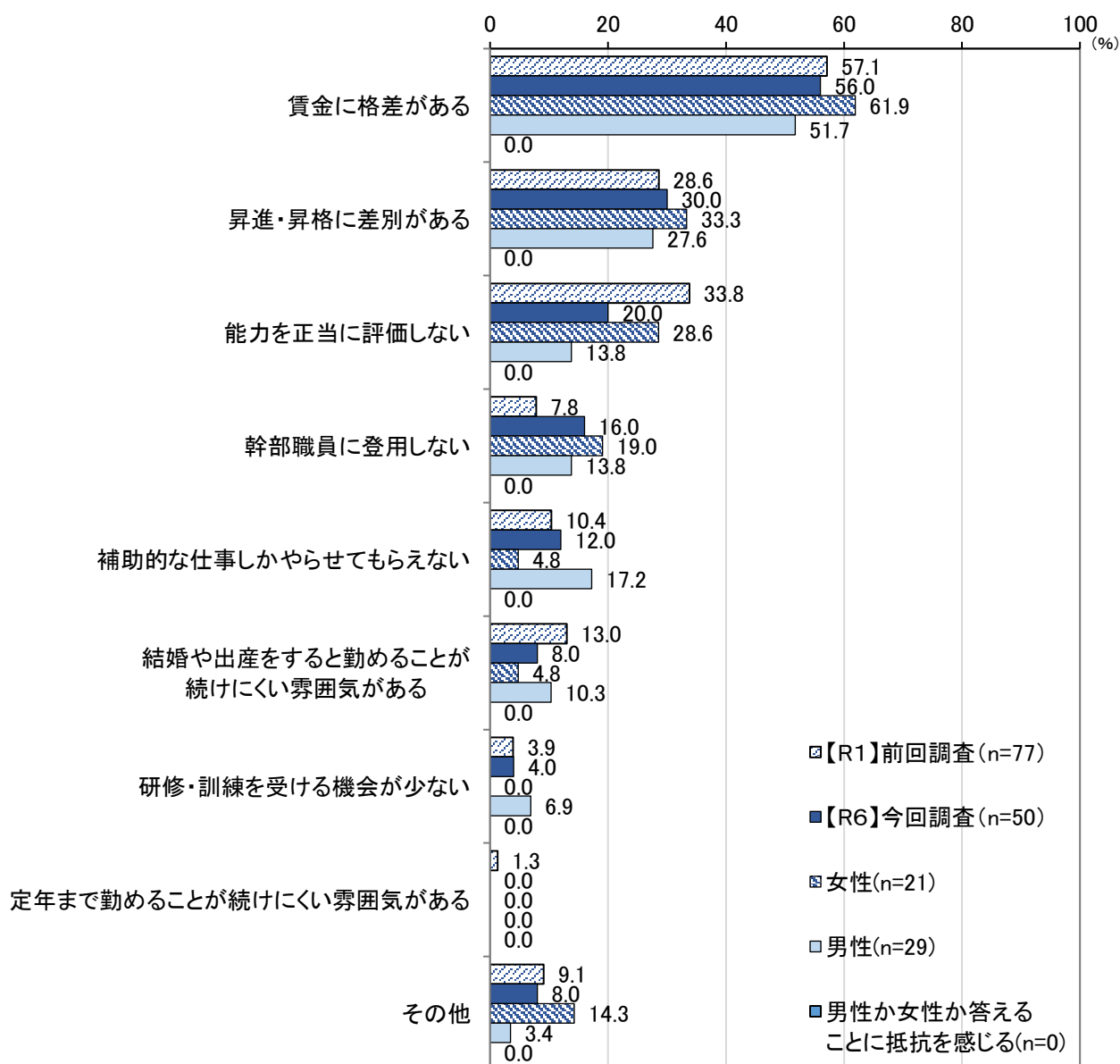
職場環境の冷遇の状況について、前回調査及び今回調査ともに「賃金に格差がある」が最も高くなっています。

性別でみると、女性の回答が男性を上回っている項目として「賃金に格差がある」、「昇進・昇格に差別がある」、「能力を正当に評価しない」、「幹部職員に登用しない」があげられます。

冷遇の状況について、最も高い割合である「賃金に格差がある」について、労働に対する賃金は個人の資質や能力を評価する側面も持つことから、性別による格差が生じている状況は早急に改善する必要があると考えられます。

また、「分野別男女の地位の平等感」のうち、職場における男女の地位の平等感においても、半数以上が『男性優遇』と感じているように、昇進や昇格、幹部職員への登用などにおいても、男性中心の考え方が浸透している職場が依然としてあることが伺え、男性も女性も働きやすい職場環境を整えていく必要があると考えられます。

職場での差別の内容 [問 12-1]

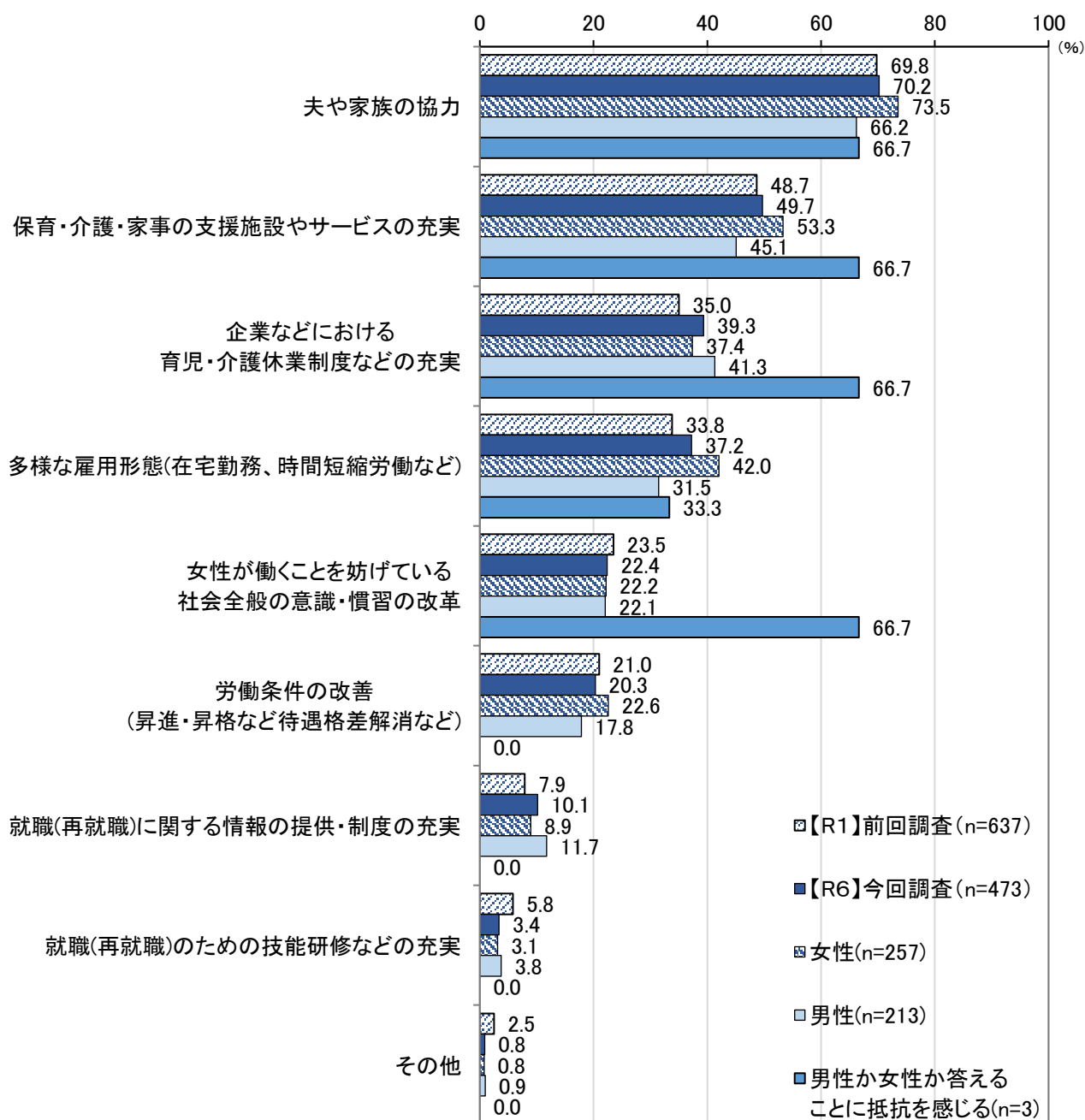


【女性が生涯にわたり働き続けるための環境】

女性が生涯にわたり仕事を続けるために必要な支援や改善について、全体でみると、今回調査では「夫や家族の協力」が最も高く、次いで「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」、「企業などにおける育児・介護休業制度などの充実」となっています。

女性が結婚・出産に関わらず働き続けるという考え方が主流となっても、女性自身の働きたいという意思を尊重することができる夫や家族、職場環境がなければ、女性が生涯にわたり働き続けることは困難であるため、市民や企業に広く啓発していくことが求められます。

女性が生涯にわたり仕事を続けるために必要な支援や改善 [問 21]



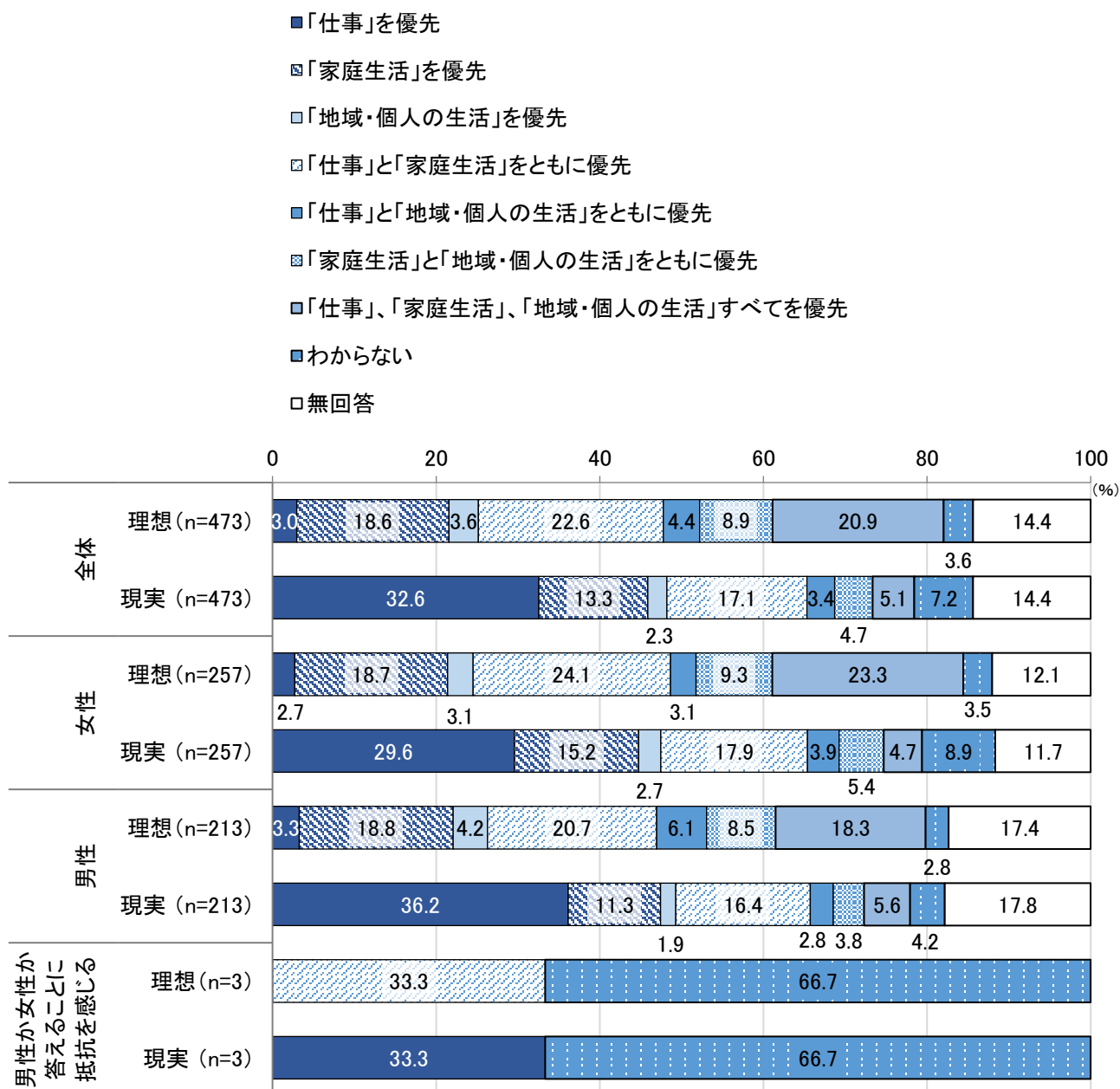
4. ワーク・ライフ・バランスについて

【仕事と家庭生活、地域・個人の生活に関する考え方】

優先したいものの理想と現実について全体でみると、現実では『「仕事」を優先』が最も高く、理想では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。

性別でみると、現実では『「仕事」を優先』は女性よりも男性の方が高く、『「家庭生活」を優先』は男性より女性の方が高くなっています。理想では、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の割合が最も高く、ワーク・ライフ・バランスを重視する考え方が浸透しつつあることが伺えますが、現実では仕事を優先せざるを得ない状況が伺え、現実と理想が乖離していることがわかります。

生活の中で優先したいものについての理想と現実 [問 14]



5. DVについて

【経験の有無】

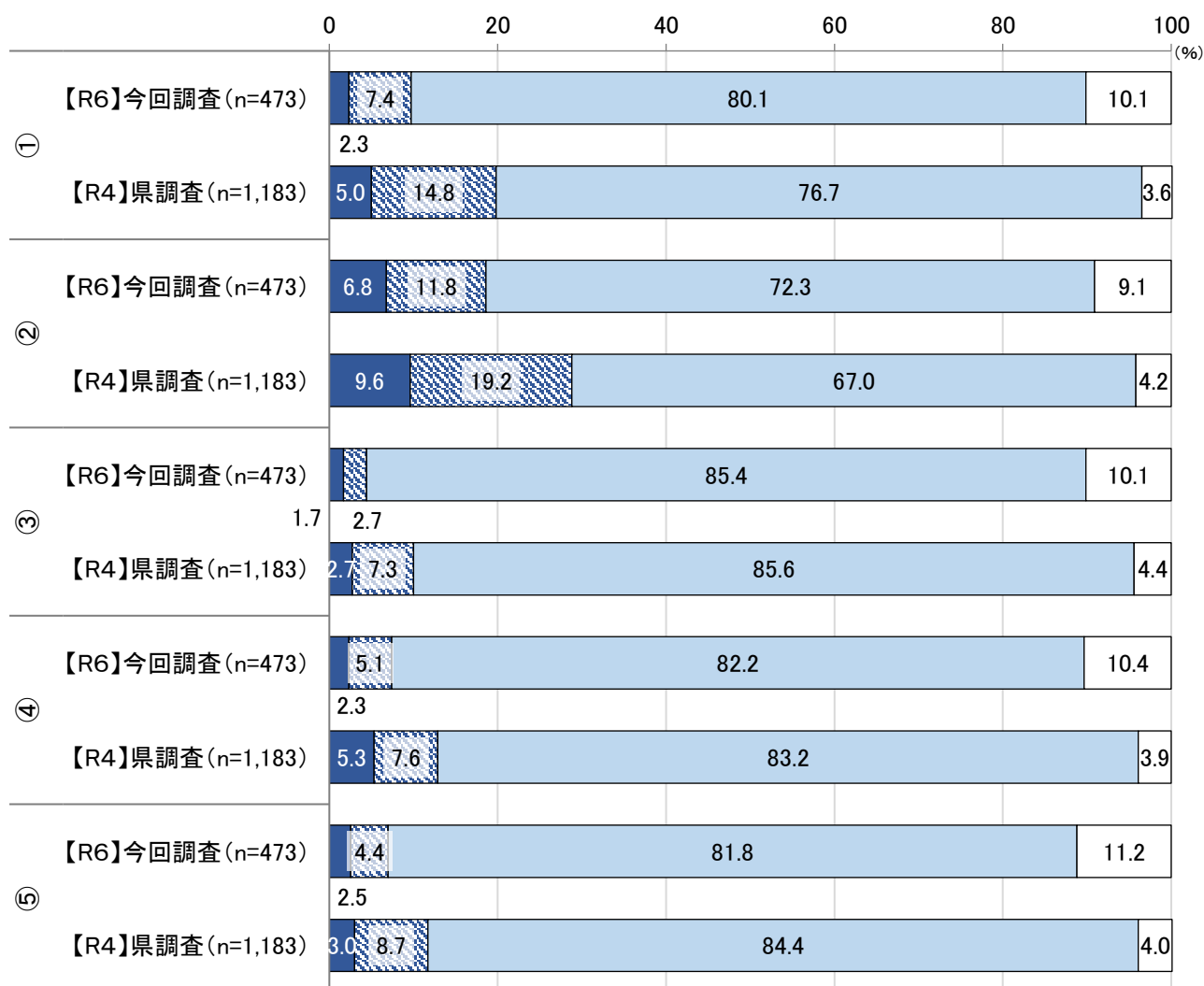
DV 経験の有無について、『あった（「何度もあった」と「1，2度あった」の合計）』は「精神的暴力」が最も高く、他の項目より高い割合となっています。

県調査と比較すると、『あった』の割合は、本市の方が低くなっているものの、いずれの項目においても一定数のDV 経験があることがわかります。

①：身体的暴力 ②：精神的暴力 ③：性的暴力 ④：経済的暴力 ⑤：社会的暴力

DV を受けた経験の有無 [問 24]

■何度もあった ■1, 2度あった ■まったくない □無回答



※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

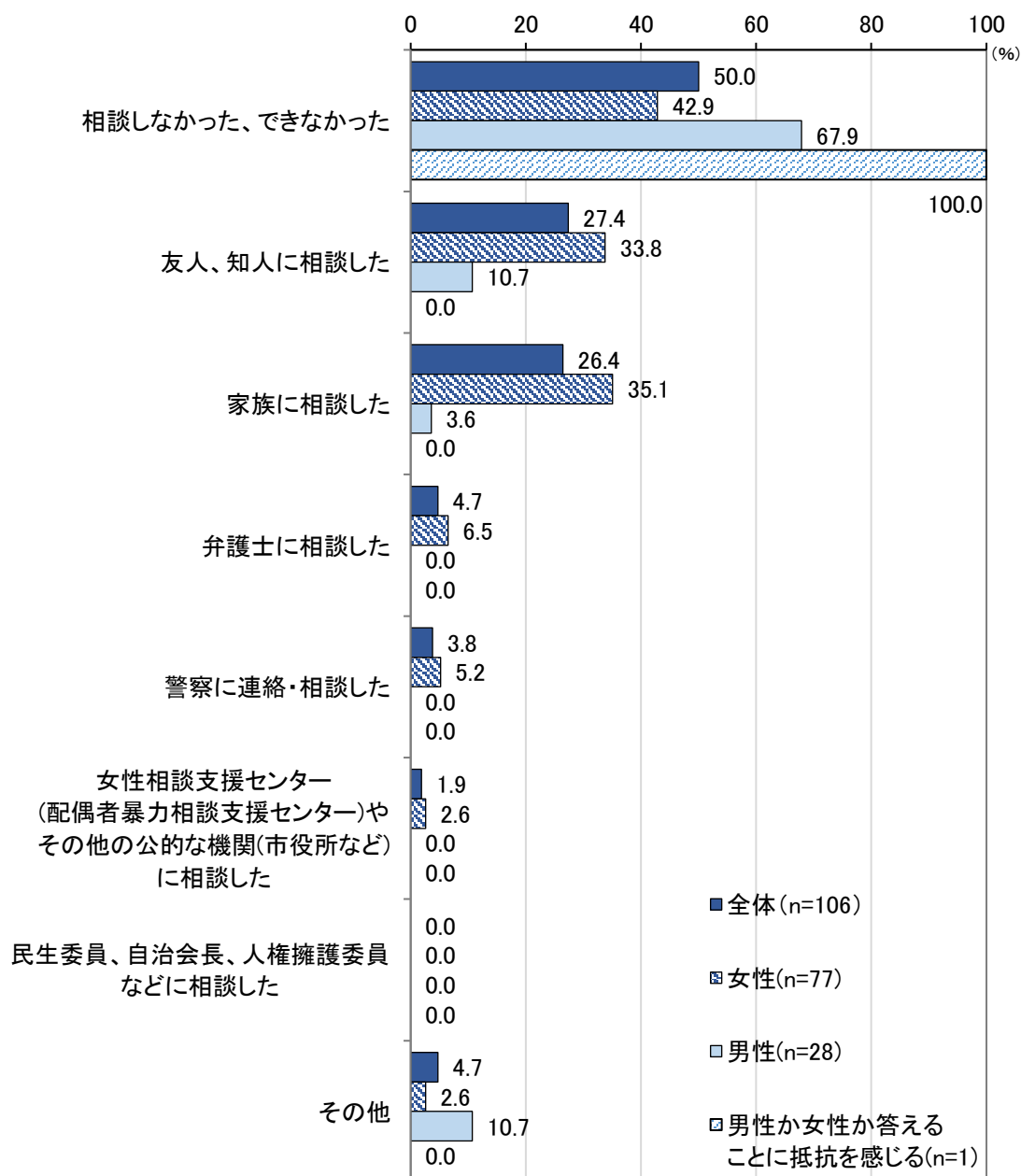
【DV についての相談状況】

DV についての相談状況について全体でみると、今回調査では「相談しなかった、できなかった」が最も高く、次いで「友人、知人に相談した」、「家族に相談した」となっています。

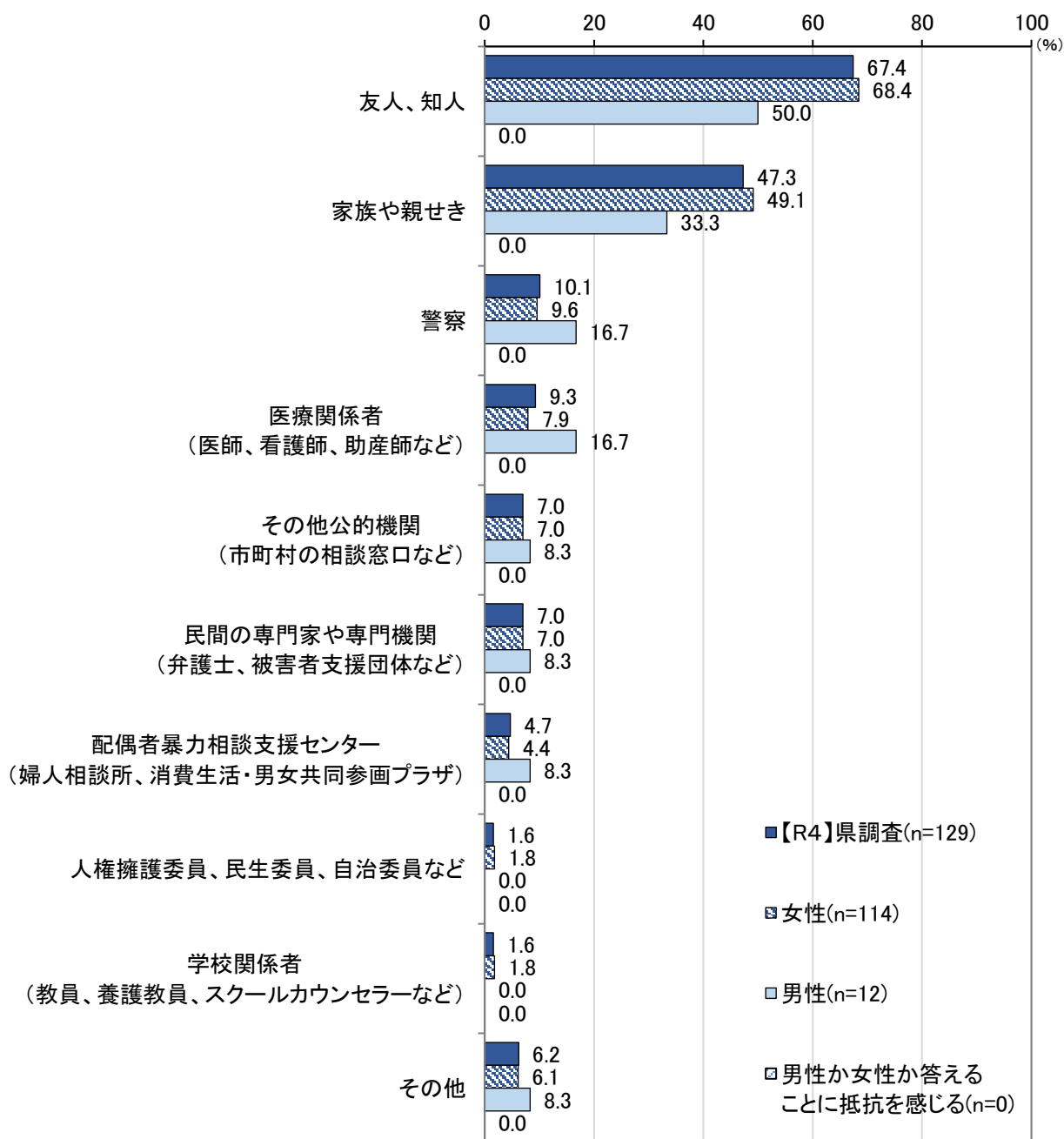
性別でみると、「相談しなかった、できなかった」では女性に比べて男性の方が高く、「友人、知人に相談した」、「家族に相談した」では男性に比べて女性の方が高くなっています。

相談先については、友人、知人や家族の割合が高くなっており、公的な機関よりも身近な人への相談が多い状況が伺えます。

DV についての相談状況 [問 24-1]



【参考】DV についての相談先（県調査）



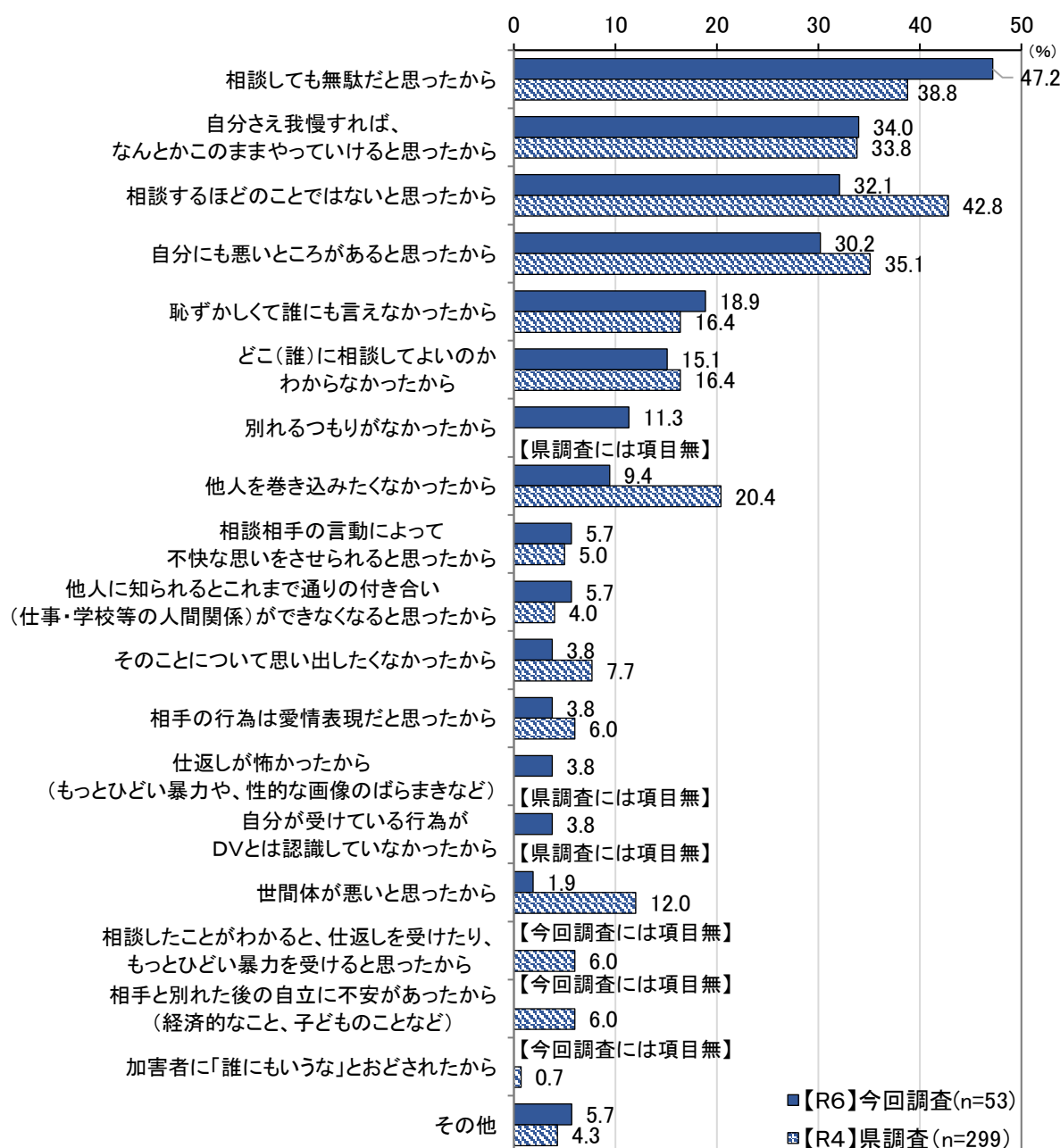
※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

【相談しなかった理由】

相談しなかった理由について、今回調査では「相談しても無駄だと思ったから」が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」となっています。「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」の割合も一定数みられ、相談窓口の周知が必要です。

県調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」の割合は本市の方が高くなっており、DV被害を受けても諦めや無力感、自責感から誰にも相談せずに被害を抱え込んでいる人が多い状況が伺えます。

相談しなかった理由 [問 24-2]



※県調査結果：大分県「令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査」報告書より

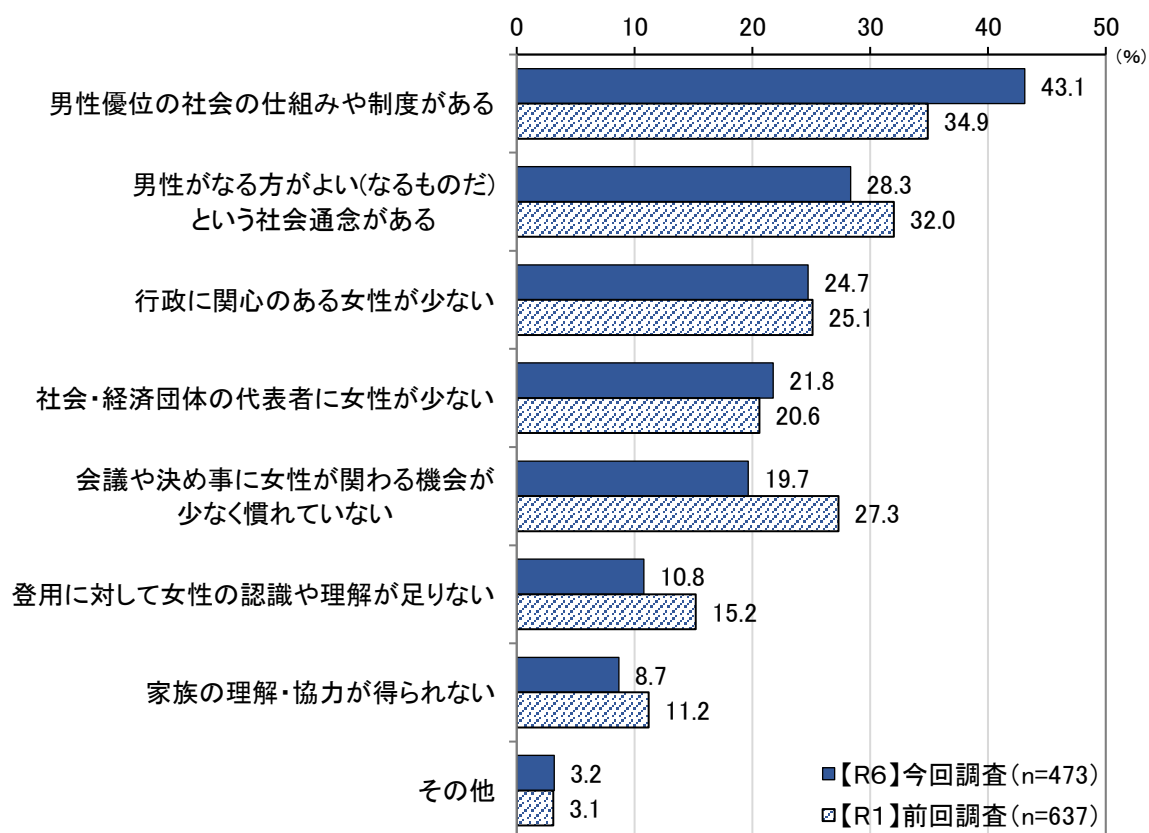
6. 男女共同参画について

【審議会等の女性委員の登用について】

審議会等に女性委員が少ない理由について、今回調査では「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く、次いで「男性になる方がよいという社会通念がある」、「行政に関心のある女性が少ない」となっています。前回調査と比較すると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」の割合が特に高くなっています。

女性の政治の場への参画を促進するためには、男性優位といった固定的な社会通念や性別による役割の考え方を改め、女性の社会への参加をサポートする環境の整備が必要であると考えられます。

審議会等に女性委員が少ない理由 [問 28]

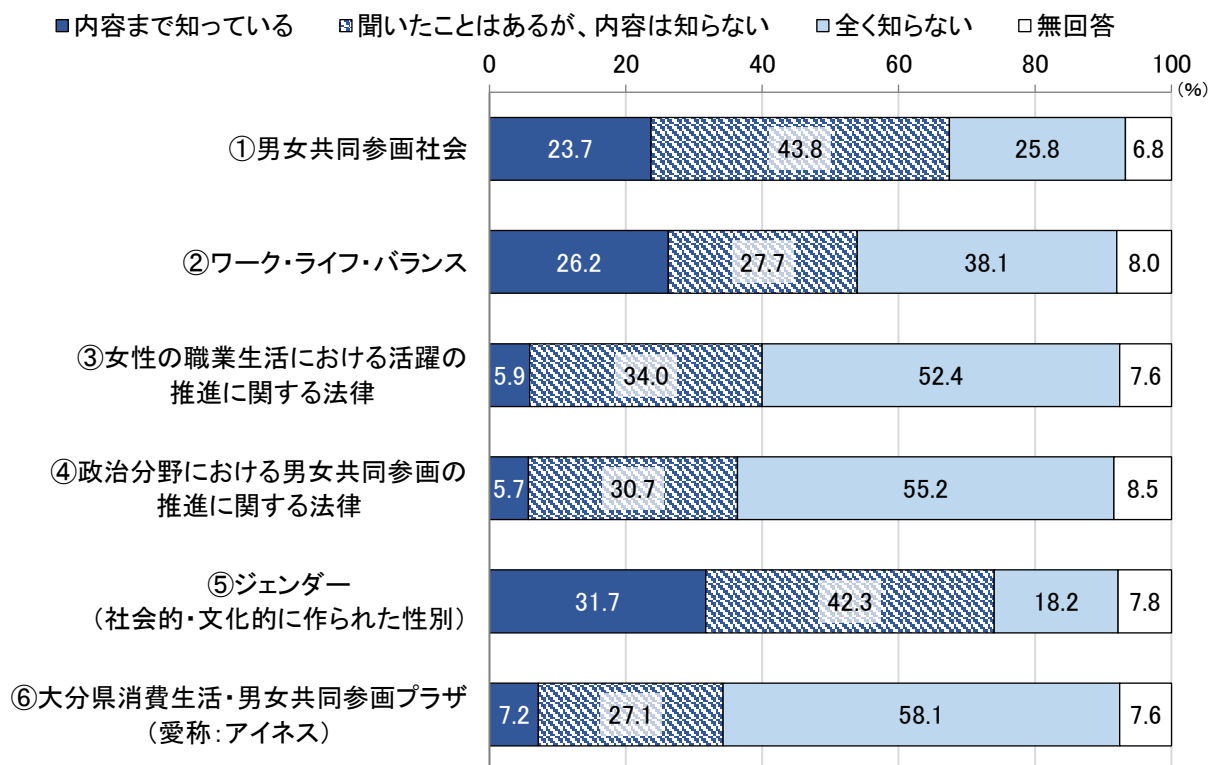


【各項目の認知状況について】

①～⑥の項目の認知状況について、「内容まで知っている」の割合が最も高いのは「⑤ジェンダー」、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が最も高いのは「①男女共同参画社会」となっています。一方で「全く知らない」の割合が最も高いのは「⑥大分県消費生活・男女共同参画プラザ」となっています。

これらのキーワードについて、言葉としての認知度を高めるだけでなく、各個人やそれぞれの生活とどのように関連しているのかといった内容まで認知することで社会的に広く定着することにつながると考えられます。

各項目について知っているか [問 29]



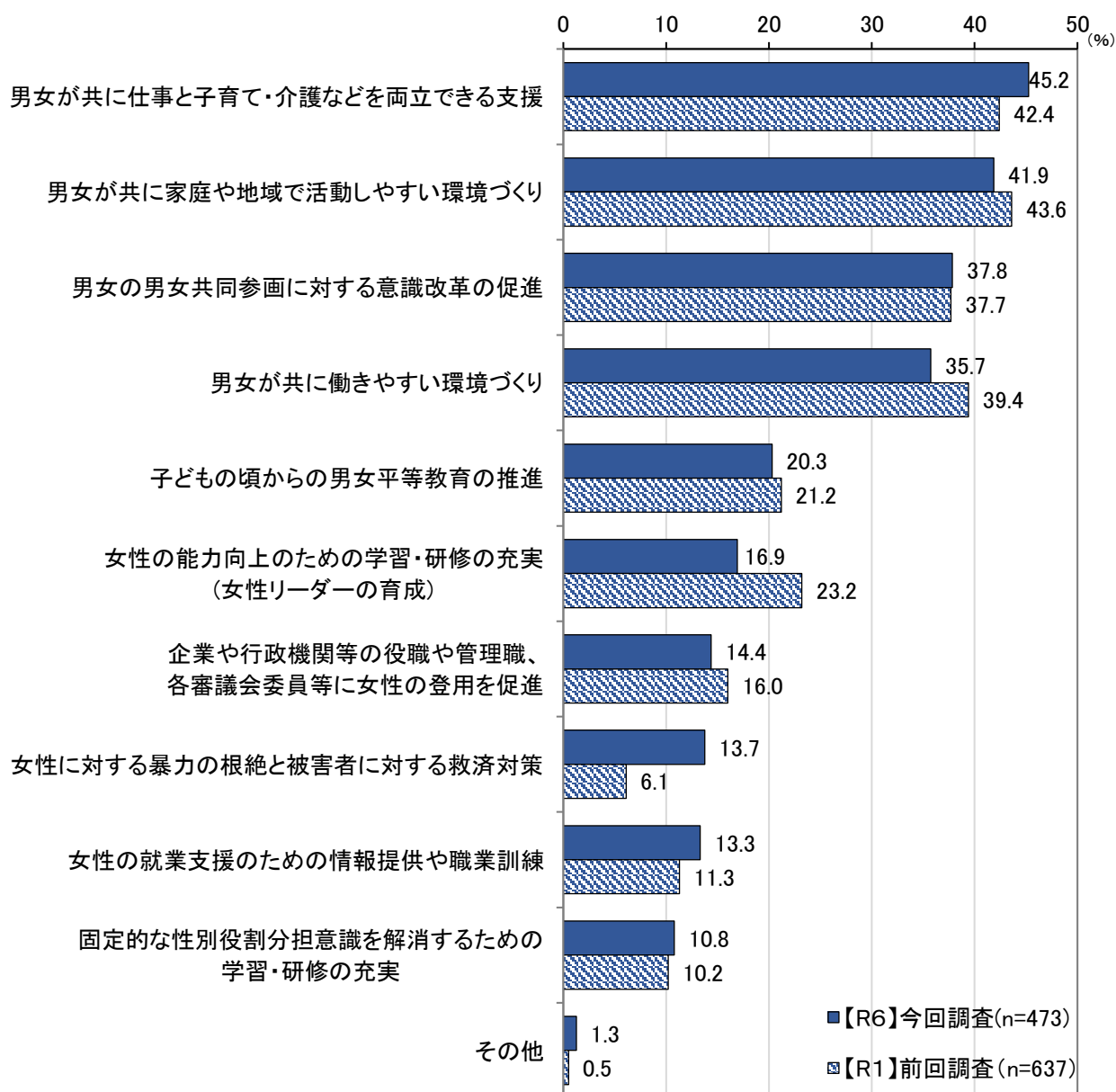
【男女共同参画社会の実現のために取り組むべきと思うもの】

男女共同参画社会の実現のために取り組むべきと思うものについて、今回調査では「男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援」が最も高く、次いで「男女が共に家庭や地域で活動しやすい環境づくり」、「男女の男女共同参画に対する意識改革の促進」となっています。

前回調査と比較すると、「男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援」、「女性に対する暴力の根絶と被害者に対する救済対策」、「女性の就業支援のための情報提供や職業訓練」の割合が高くなっています。

今後も女性の社会進出のためのワーク・ライフ・バランスを実現できる支援制度の拡充や環境の整備、教育等、性や年代に応じた多様な取組を進めていくことが求められています。

男女共同参画社会実現のために必要な取組 [問 30]



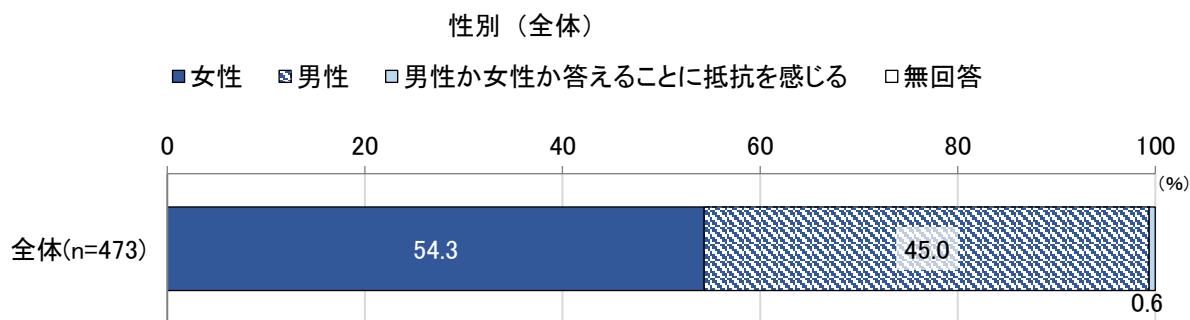
調査結果

1. あなたご自身のことやご家族について

問1 あなたの性別をおたずねします。

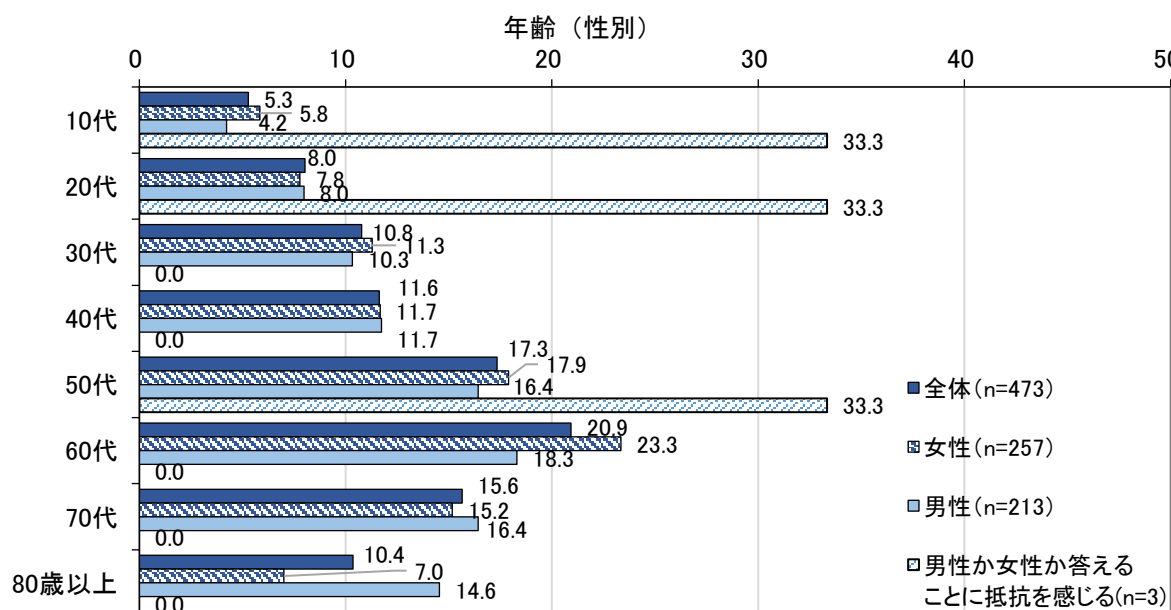
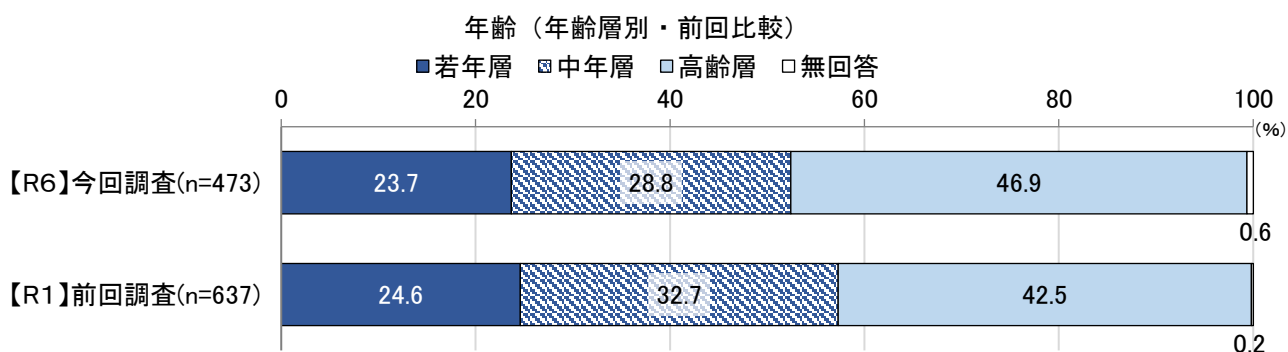
（自認する性別で構いません。また答えたくない場合は、無記入で構いません。○は1つ）

「女性」が54.3%、「男性」が45.0%、「男性か女性か答えることに抵抗を感じる」が0.6%となっています。



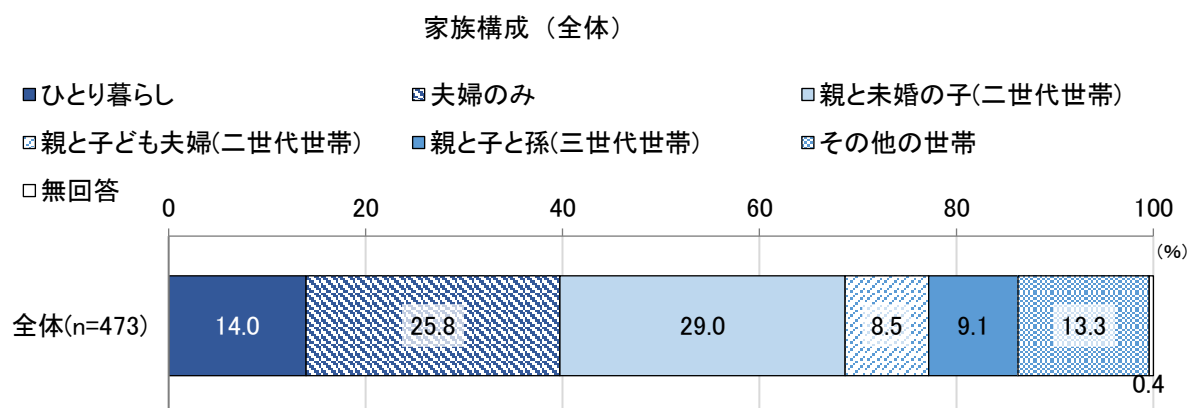
問2 あなたの年齢は次のどれに当たりますか。（○は1つ）

回答者の割合は、「若年層」が23.7%、「中年層」が28.8%、「高齢層」が46.9%となっています。



問3 あなたのご家族の構成は次のうちどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

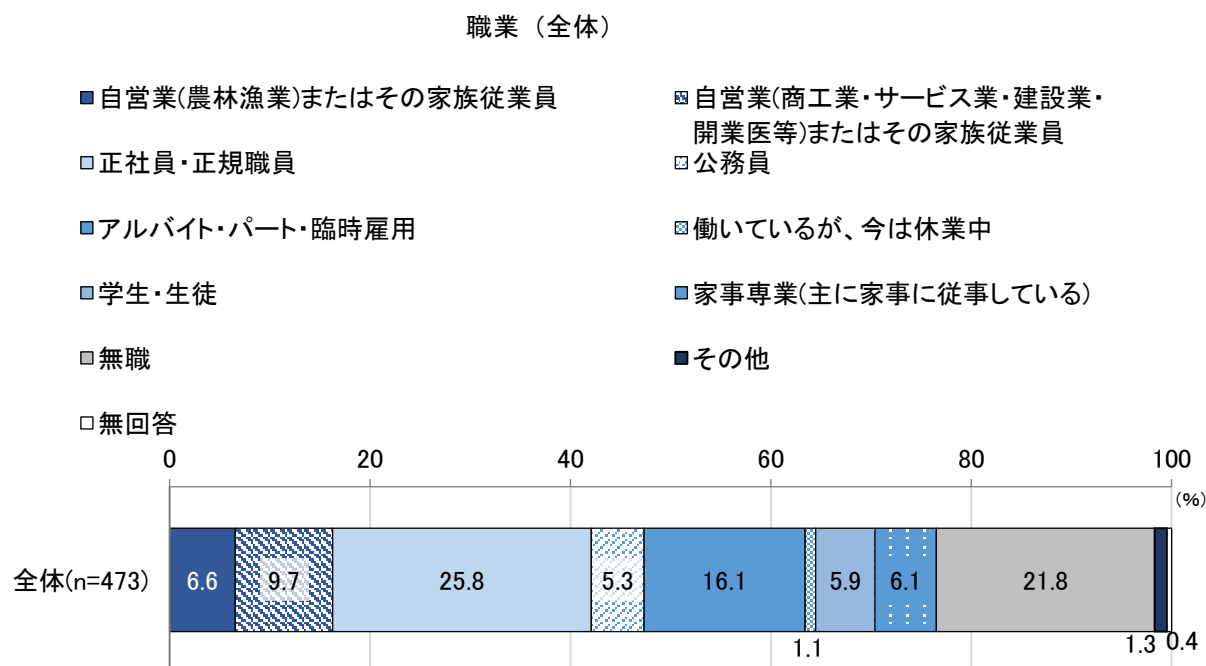
家族構成について、「親と未婚の子」が29.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が25.8%、「ひとり暮らし」が14.0%となっています。



問4 あなたの職業をおたずねします。(〇は1つ)

(出産、育児等で休業中の方は働いているものとみなします)

職業について、「正社員・正規職員」が25.8%と最も高く、次いで「無職」が21.8%、「アルバイト・パート・臨時雇用」が16.1%となっています。

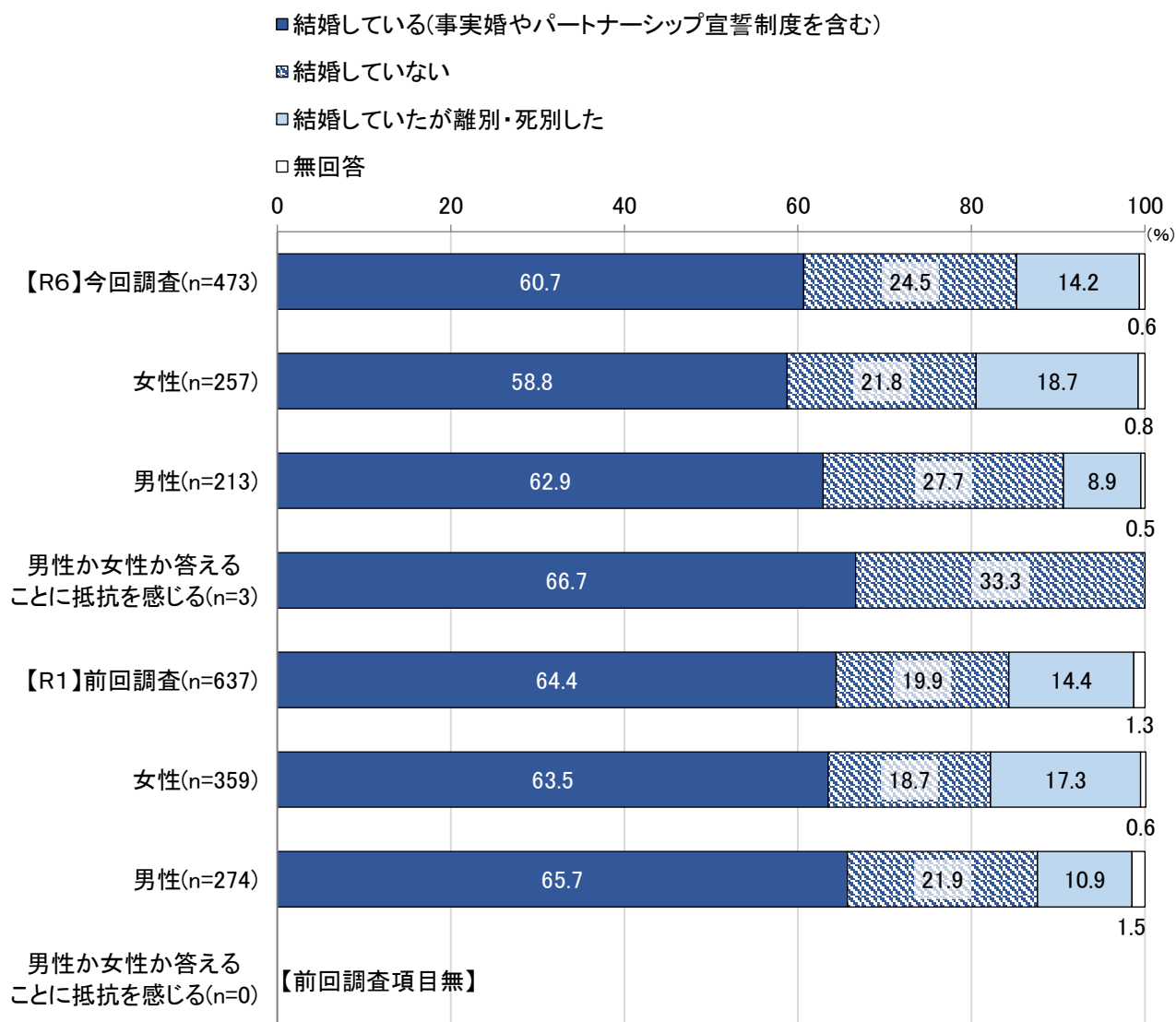


問5 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

結婚の状況について全体でみると、今回調査では「結婚している」が60.7%、「結婚していない」が24.5%、「結婚していたが、離別・死別した」が14.2%となっています。

前回調査と比較すると、全体では「結婚している」が3.7ポイント減少し、「結婚していない」が4.6ポイント増加しています。

結婚の状況（性別・前回比較）



＜問5で「結婚している(事実婚やパートナーシップ宣誓制度を含む)と回答した方へおたずねします＞

問6 あなたは共働き(夫婦とも収入の伴う仕事をしている)ですか。(○は1つ)

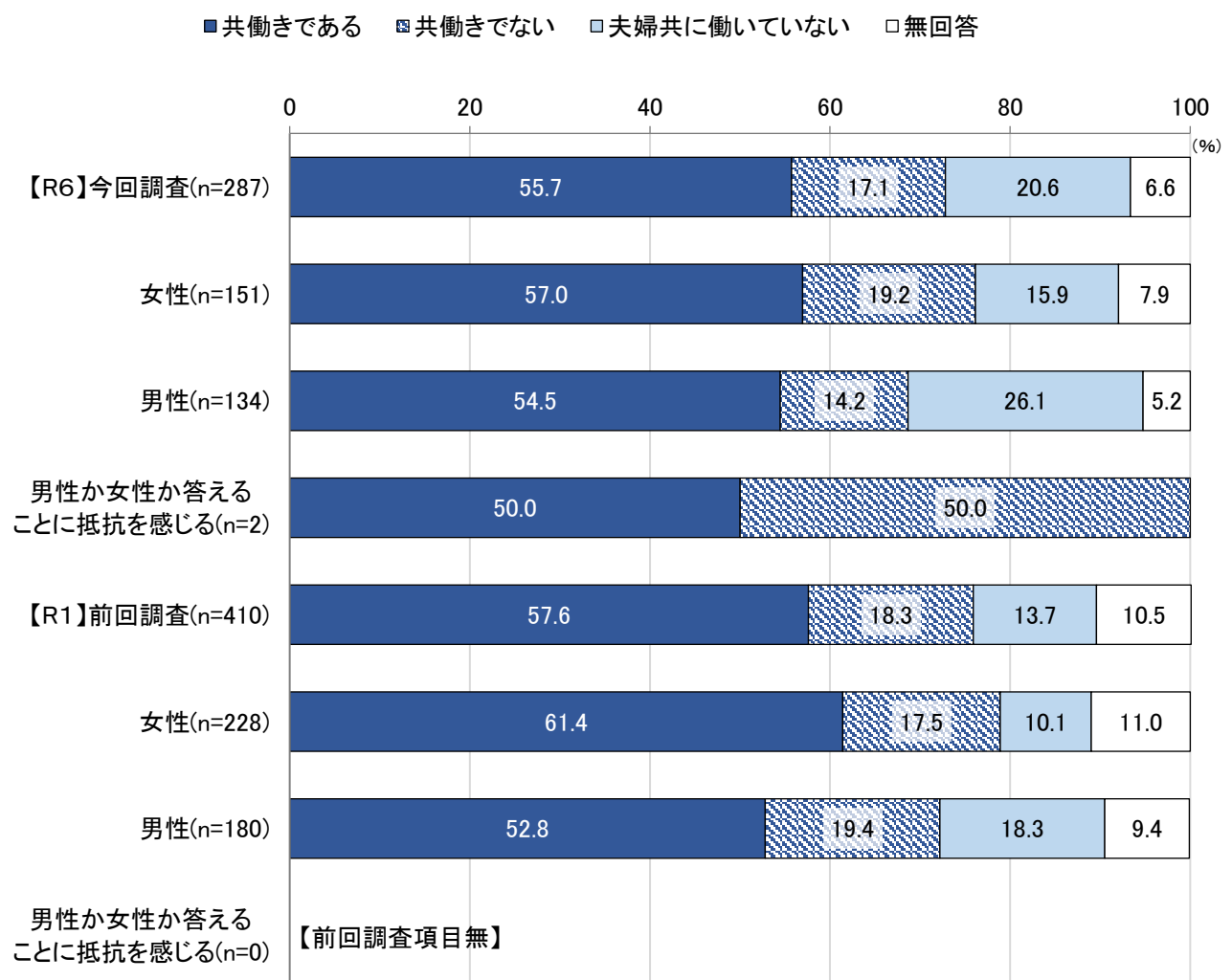
(出産、育児等で休業中の方は働いているものとみなします)

※共働きとは、夫婦とも収入の伴う仕事をしていることを言い、パート・アルバイトなどを含む。

共働きの状況について全体でみると、今回調査では「共働きである」が55.7%、「共働きでない」が17.1%、「夫婦共に働いていない」が20.6%となっています。

前回調査と比較すると、全体では「夫婦共に働いていない」が6.9ポイント増加しています。

共働きの状況（性別・前回比較）



2. 男女平等に関する意識、慣習について

問7 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

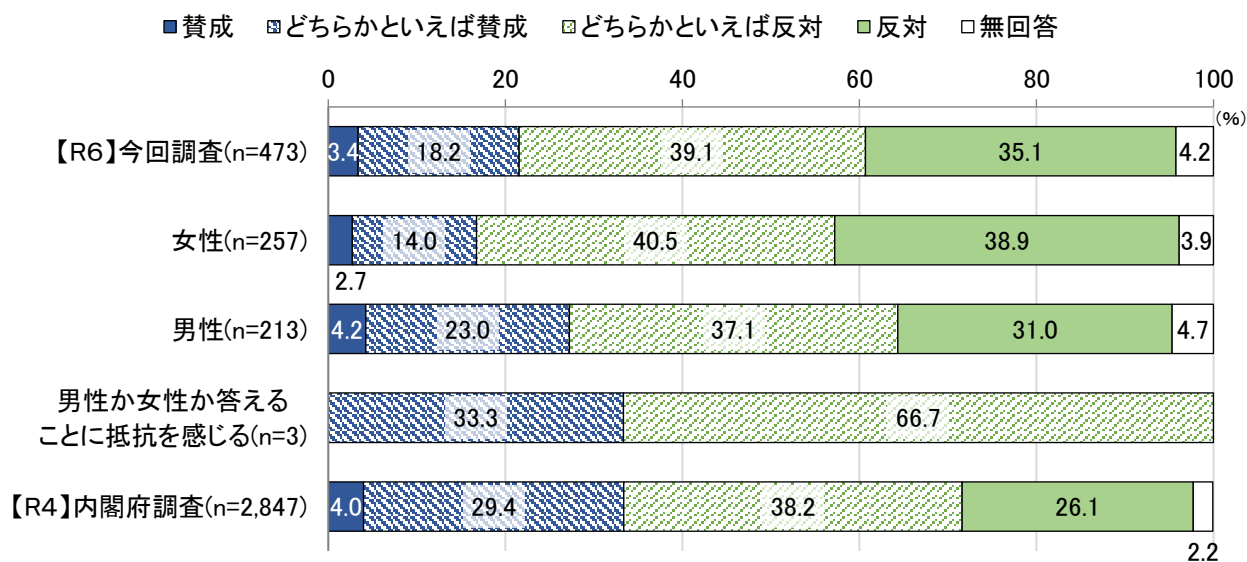
性別による役割の考え方について全体でみると、『賛成意見（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）』が21.6%、『反対意見（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）』が74.2%となっています。

性別でみると、『反対意見』は女性が79.4%、男性が68.1%で、女性の方が11.3ポイント高くなっています。

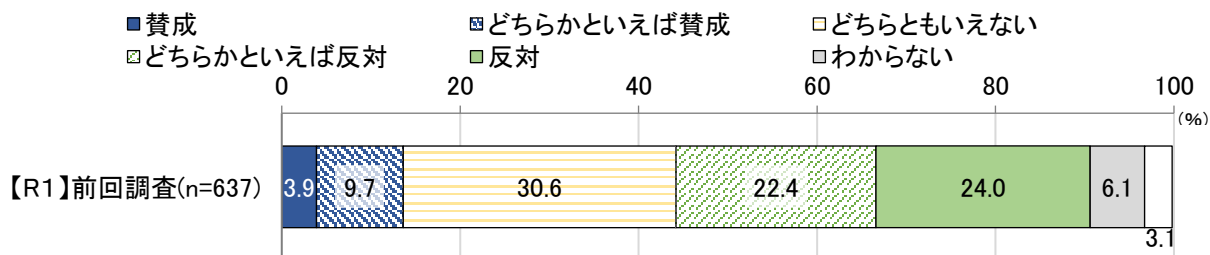
内閣府調査と比較すると、『賛成意見』は、日田市の方が11.8ポイント低くなっています。

前回調査とは選択項目が異なるため、単純比較はできないものの、『賛成意見』は今回調査の方が8.0ポイント高くなっています。

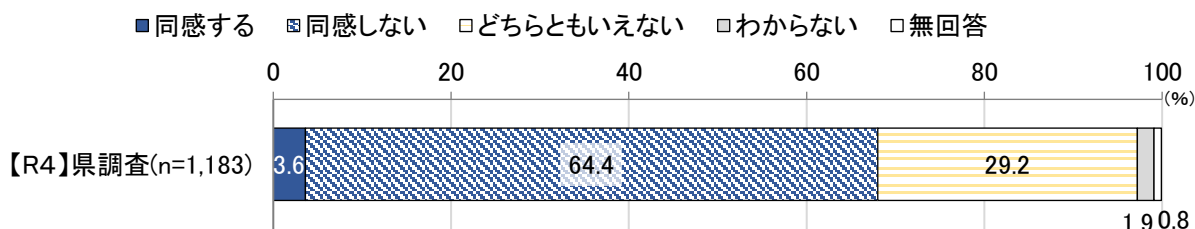
性別による役割の考え方（性別・内閣府）



【参考】性別による役割の考え方（前回調査）



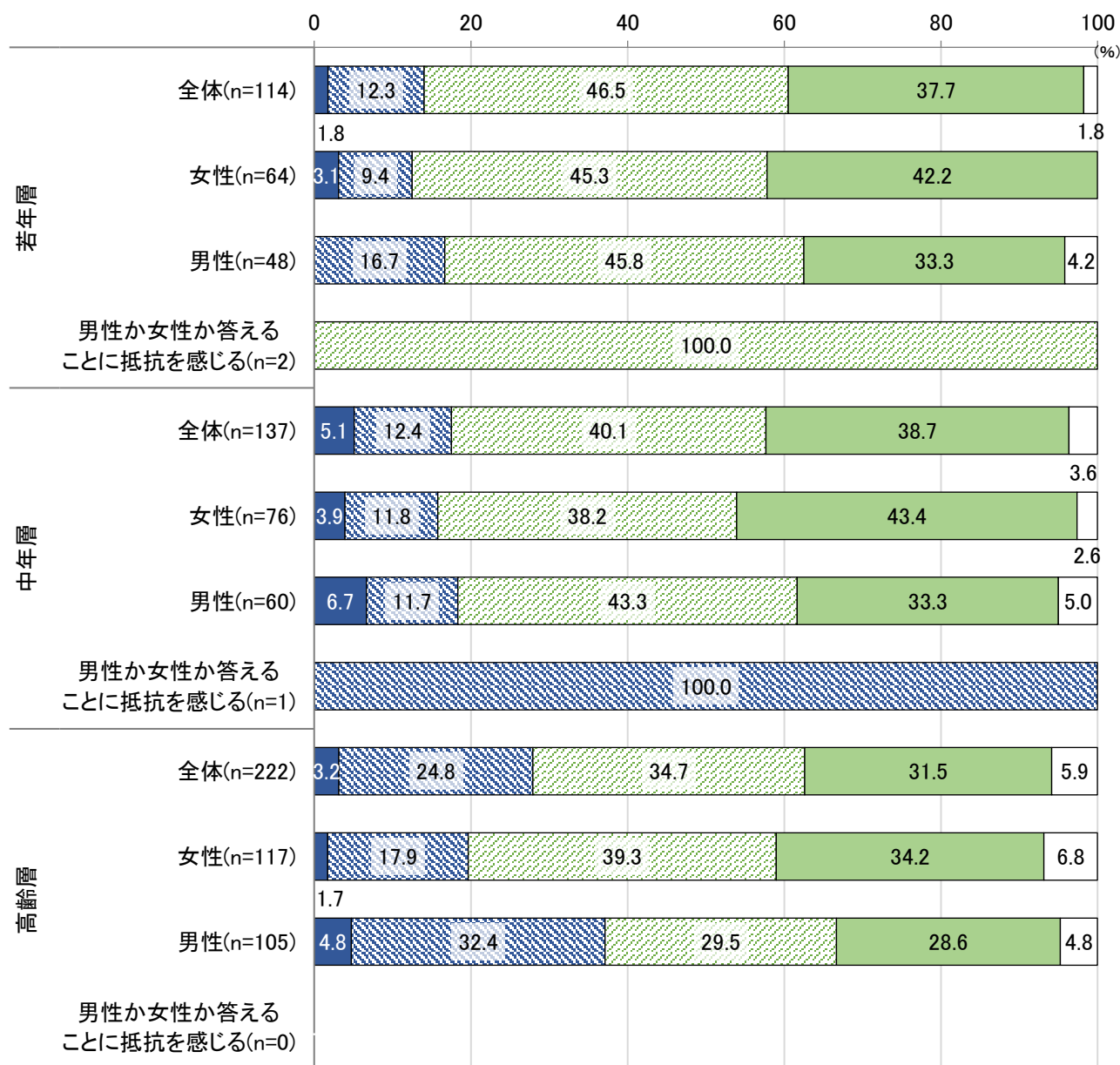
【参考】性別による役割の考え方（県調査）



年齢層別の回答状況をみると、どの年齢層においても「反対」の割合は男性より女性が高くなっています。『反対意見』は若年層が最も高くなっています。

性別による役割の考え方（性別・年齢層別）

■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 ■反対 □無回答

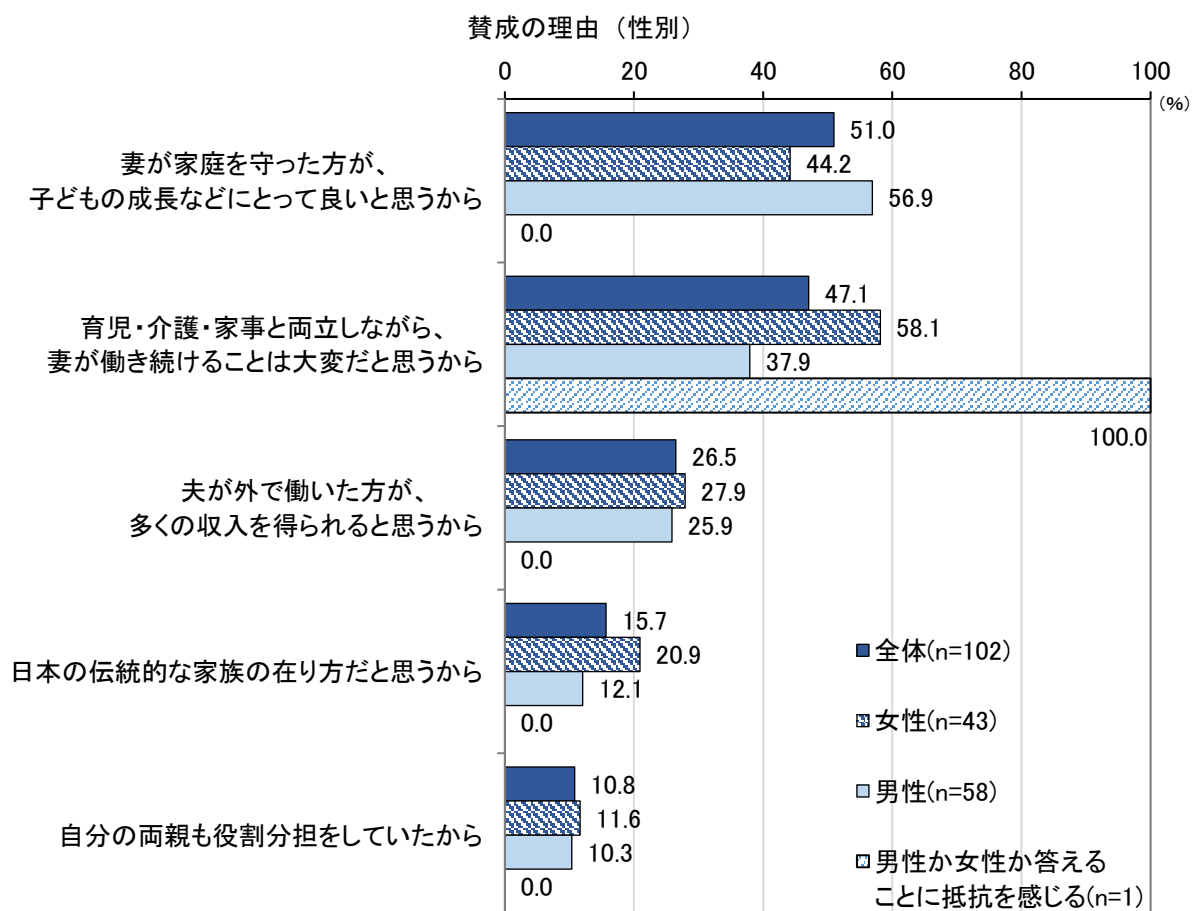


<問7で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方へおたずねします>

問7-1 賛成と思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

賛成と思う理由について、全体でみると「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が51.0%と最も高く、次いで「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が47.1%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が26.5%となっています。

性別でみると、女性では「育児・介護・家事と両立しながら妻が働き続けることは大変だと思うから」が58.1%と最も高く、男性では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が56.9%と最も高くなっています。

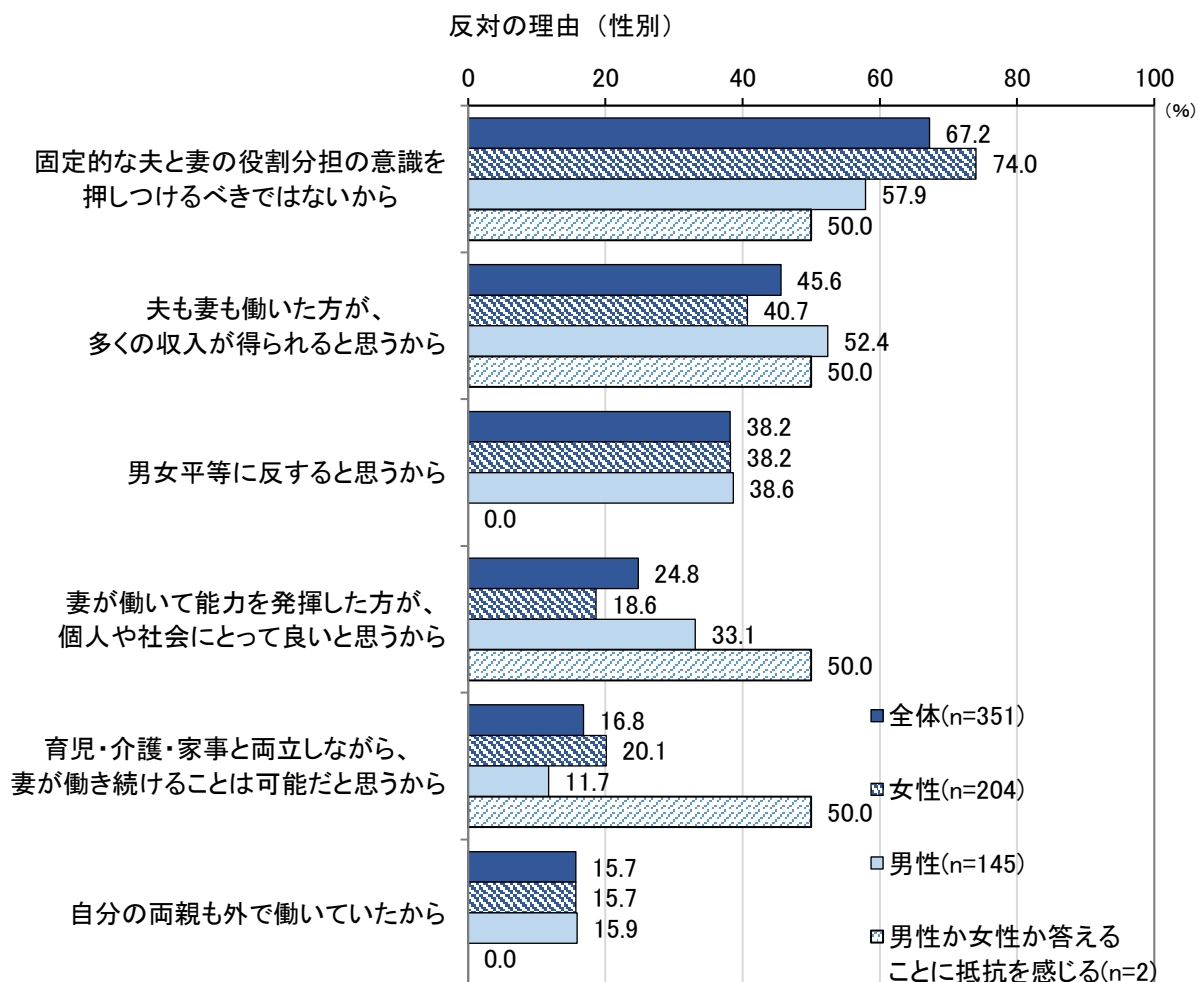


<問7で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方へおたずねします>

問7-2 反対と思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

反対と思う理由について、全体でみると「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が67.2%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が45.6%、「男女平等に反すると思うから」が38.2%となっています。

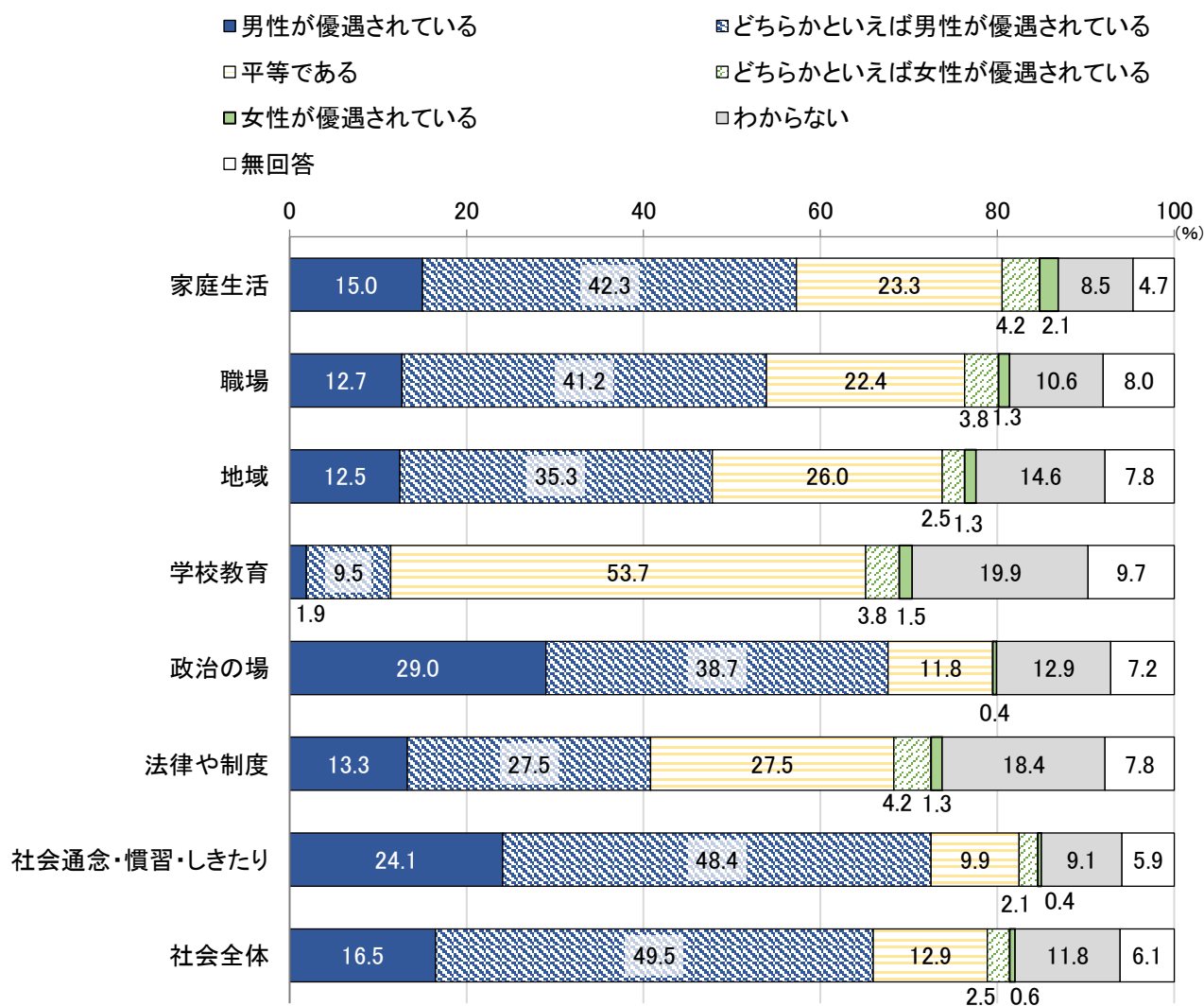
性別でみると、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が女性では74.0%、男性では57.9%と最も高くなっています。



問8 あなたは、次の分野において男女平等がどの程度、実現されていると思いますか。
それぞれについて、あなたはどのように思いますか。(各項目○は1つ)

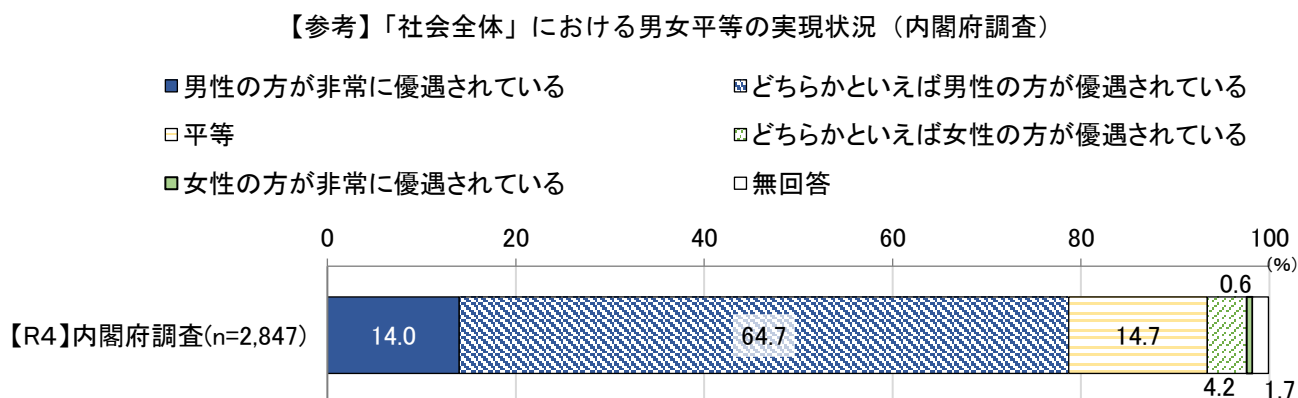
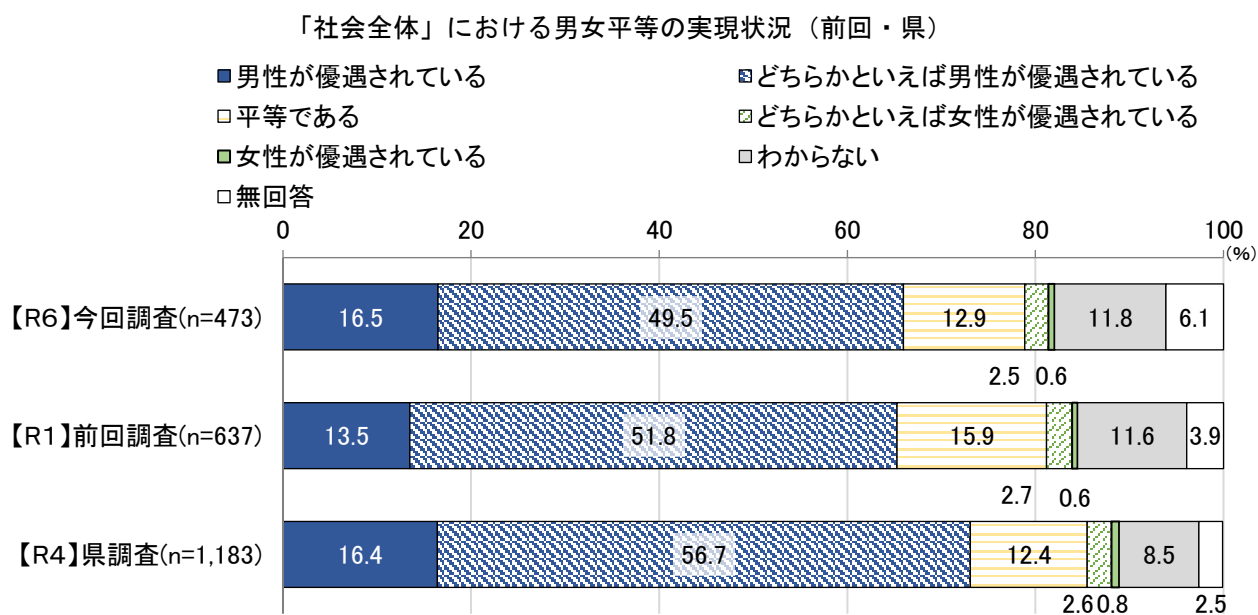
男女平等の実現状況について、いずれの項目においても、『女性優遇（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）』より『男性優遇（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）』の割合が高くなっています。「平等である」の割合は、「学校教育」が最も高くなっています。

男女平等の実現状況（全体）



「社会全体」における男女平等の実現状況について、前回調査と比較すると「男性が優遇されている」は3.0ポイント増加しています。

県調査と比較すると、『男性優遇』は日田市の方が7.1ポイント低くなっています。

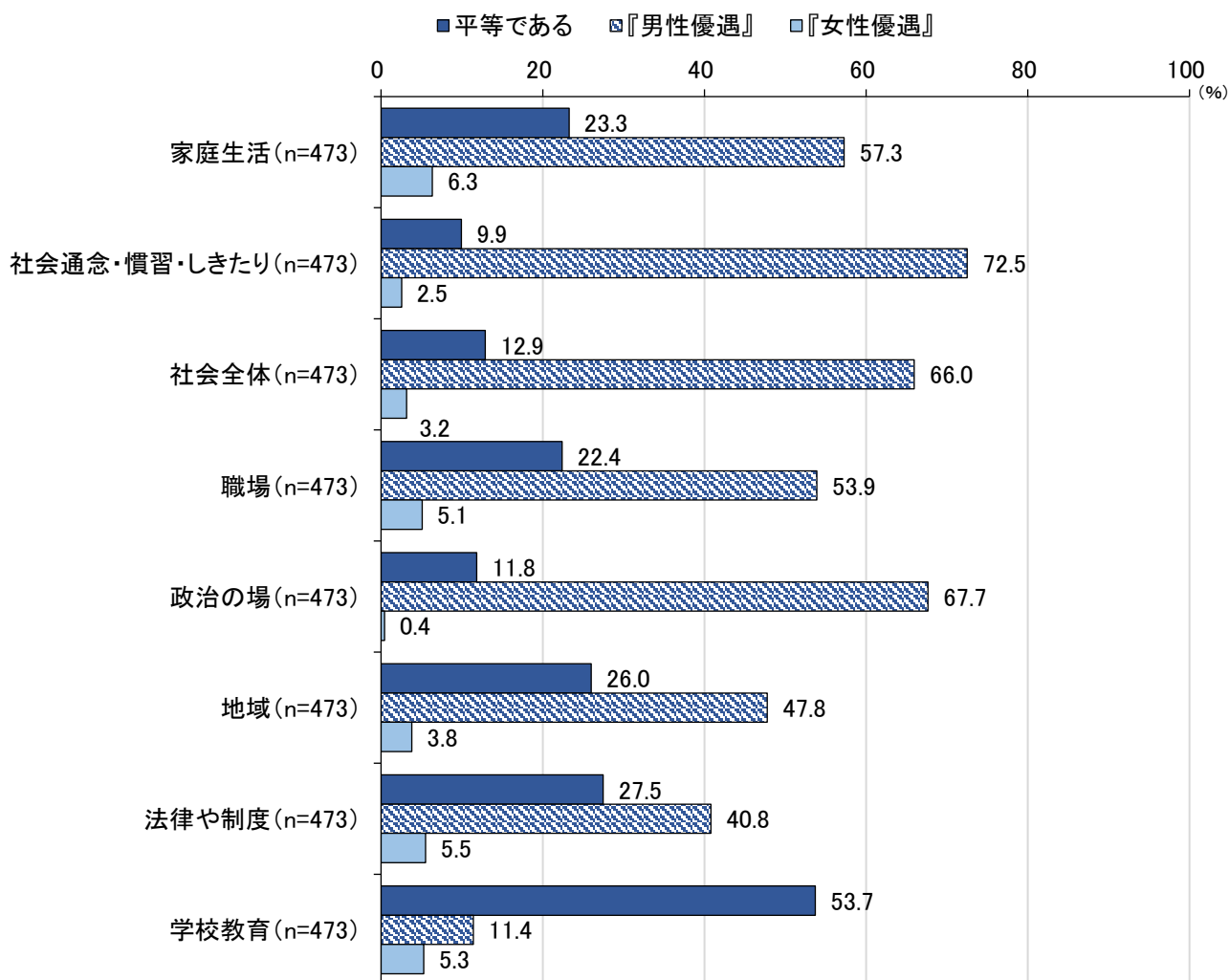


選択項目別にみると、「平等である」と回答された割合は「学校教育」が53.7%と最も高く、次いで「法律や制度」が27.5%、「地域」が26.0%となっています。

「男性が優遇されている」では「社会通念・慣習・しきたり」が72.5%と最も高く、次いで「政治の場」が67.7%、「社会全体」が66.0%となっています。

「女性が優遇されている」では「家庭生活」が6.3%と最も高く、次いで「法律や制度」が5.5%、「学校教育」が5.3%となっています。

男女平等の実現状況（選択項目別回答状況）

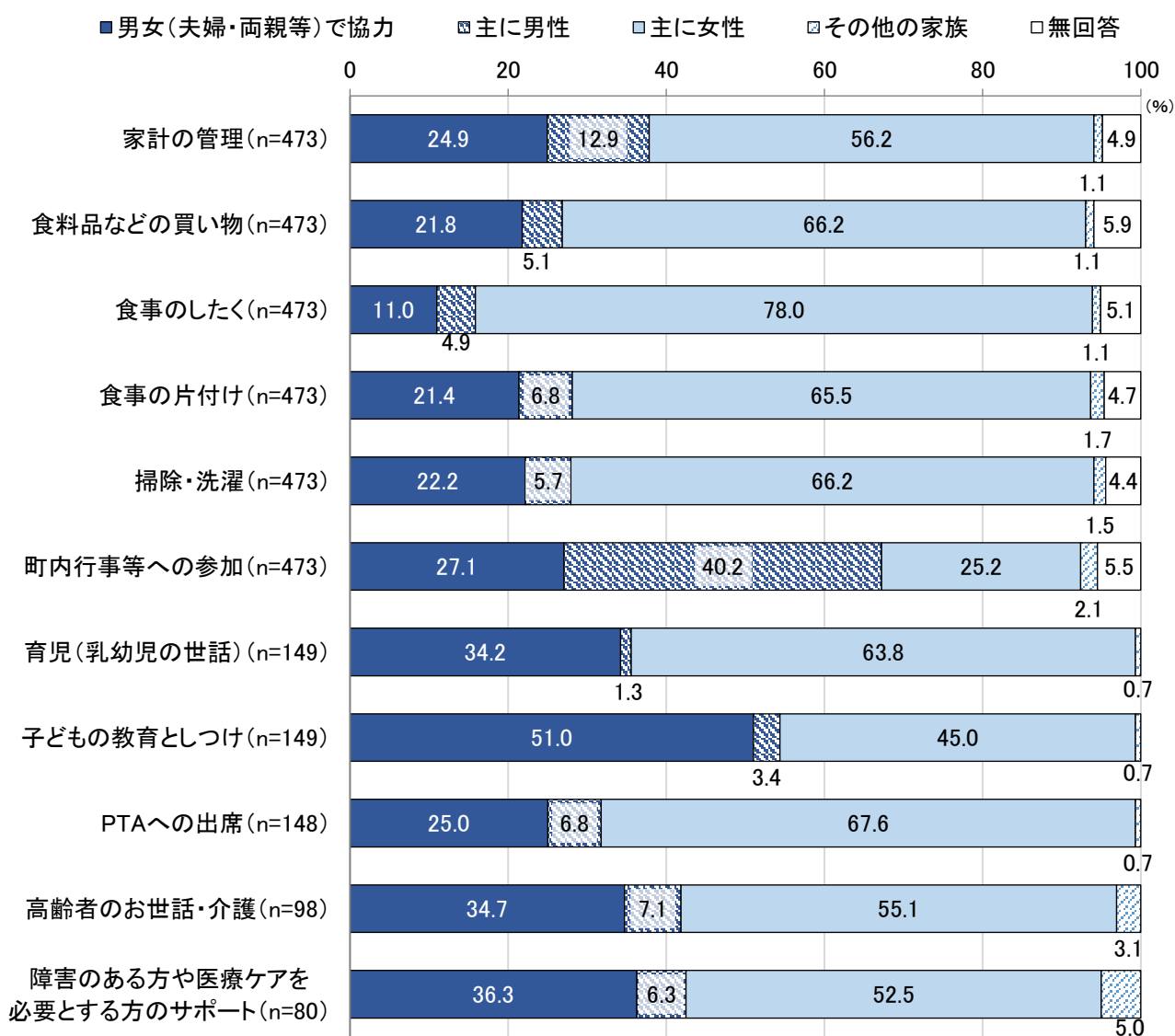


問9 あなたの家庭では、次の役割を主にどなたが行っていますか。

現実と理想について、それぞれお答えください。(各項目〇は1つ)

家庭での役割について、現実では「男女で協力」の割合が最も高いのは「子どもの教育としつけ」の51.0%となっています。また、「主に男性」の割合が最も高いのは「町内行事等への参加」の40.2%、「主に女性」の割合が最も高いのは「食事のしたく」の78.0%となっています。

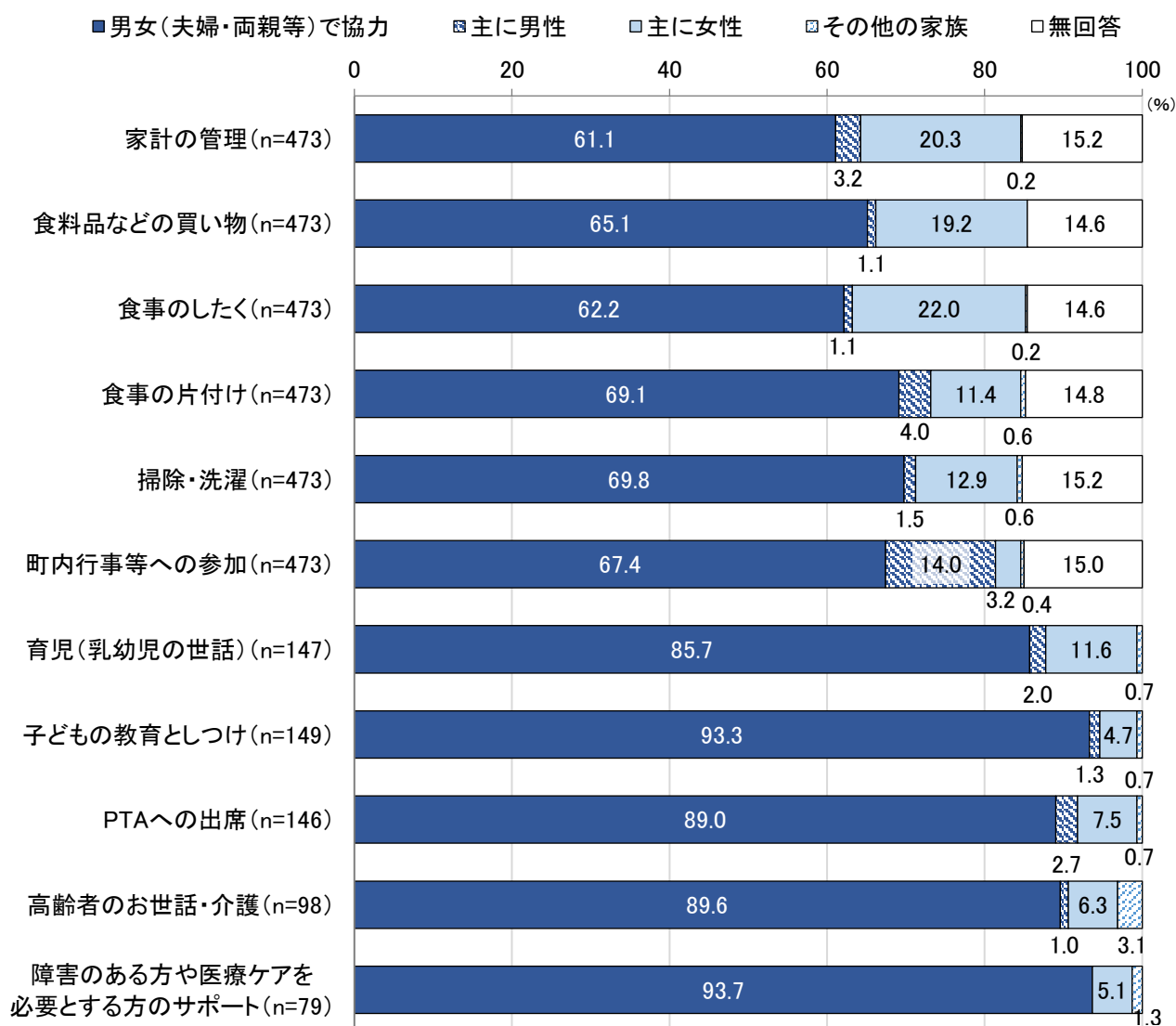
家庭での役割（全体：現実）



※「育児（乳幼児の世話）」、「子どもの教育としつけ」、「PTA会への出席」は子どもがいる方のみ、「高齢者のお世話・介護」、「障害のある方や医療ケアを必要とする方のサポート」は家庭に介護等を必要とする方がいる場合のみ回答のため、各項目の回答者を対象者としています。

理想ではいずれの項目においても「男女で協力」の割合が最も高くなっています。また、「町内行事等への参加」を除いた全ての項目で「主に男性」よりも「主に女性」の割合が高くなっています。

家庭での役割（全体：理想）

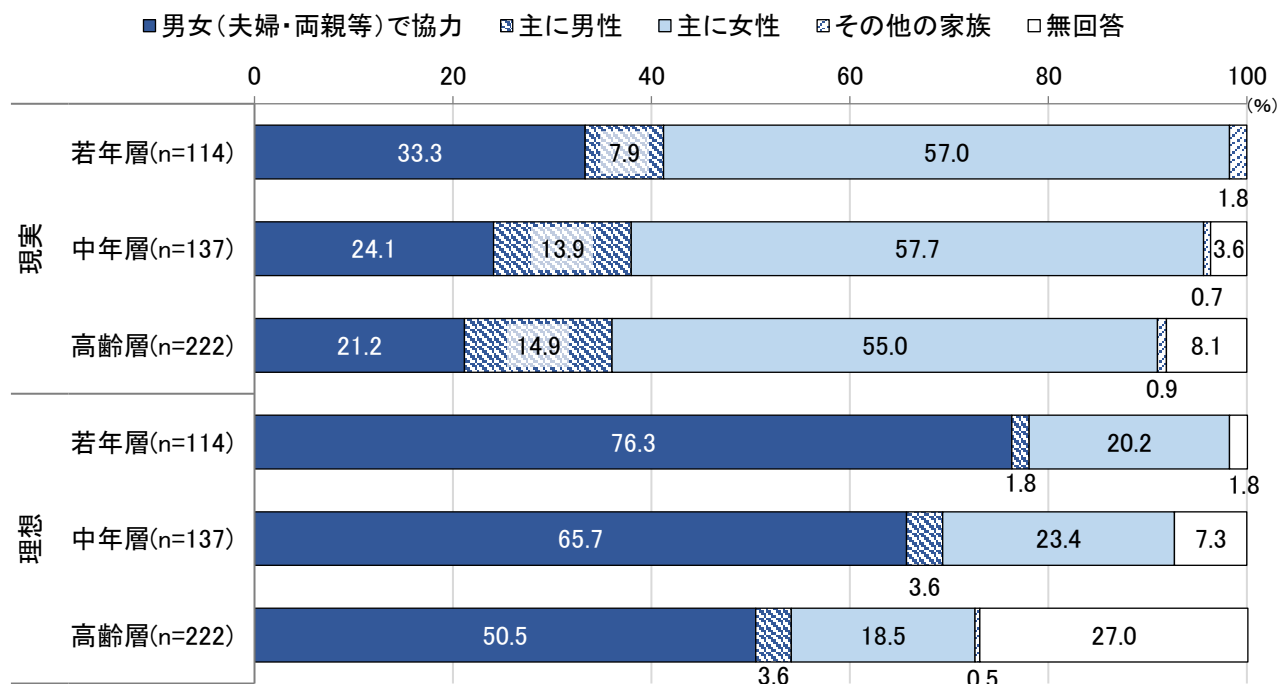


※「育児（乳幼児の世話）」、「子どもの教育としつけ」、「PTA 会への出席」は子どもがいる方のみ、「高齢者のお世話・介護」、「障害のある方や医療ケアを必要とする方のサポート」は家庭に介護等を必要とする方がいる場合のみ回答のため、各項目の回答者を対象者としています。

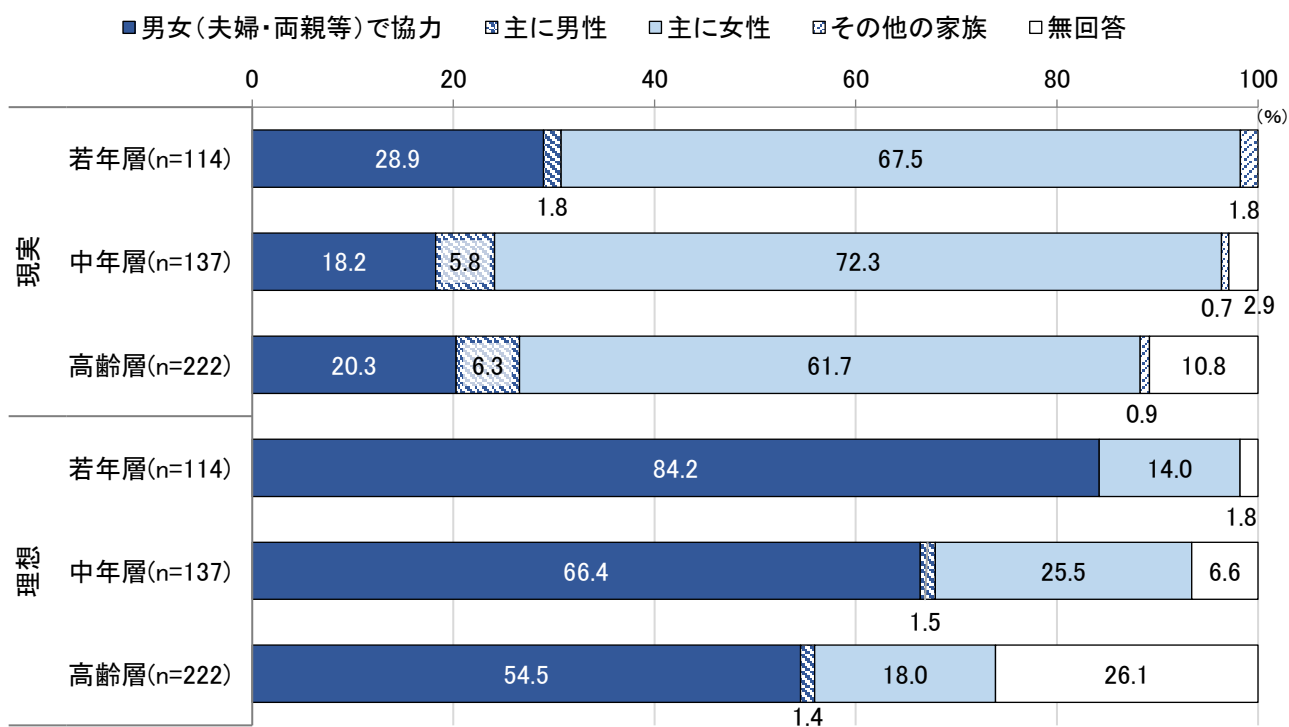
選択項目別に年齢層別でみると、現実では「町内行事等への参加」、「子どもの教育としつけ」、「高齢者のお世話・介護」を除いた全ての項目において、どの年齢層でも「主に女性」の割合が最も高くなっています。

理想では、いずれの項目においても年齢が下がるにつれて「男女で協力」の割合が高くなっています。

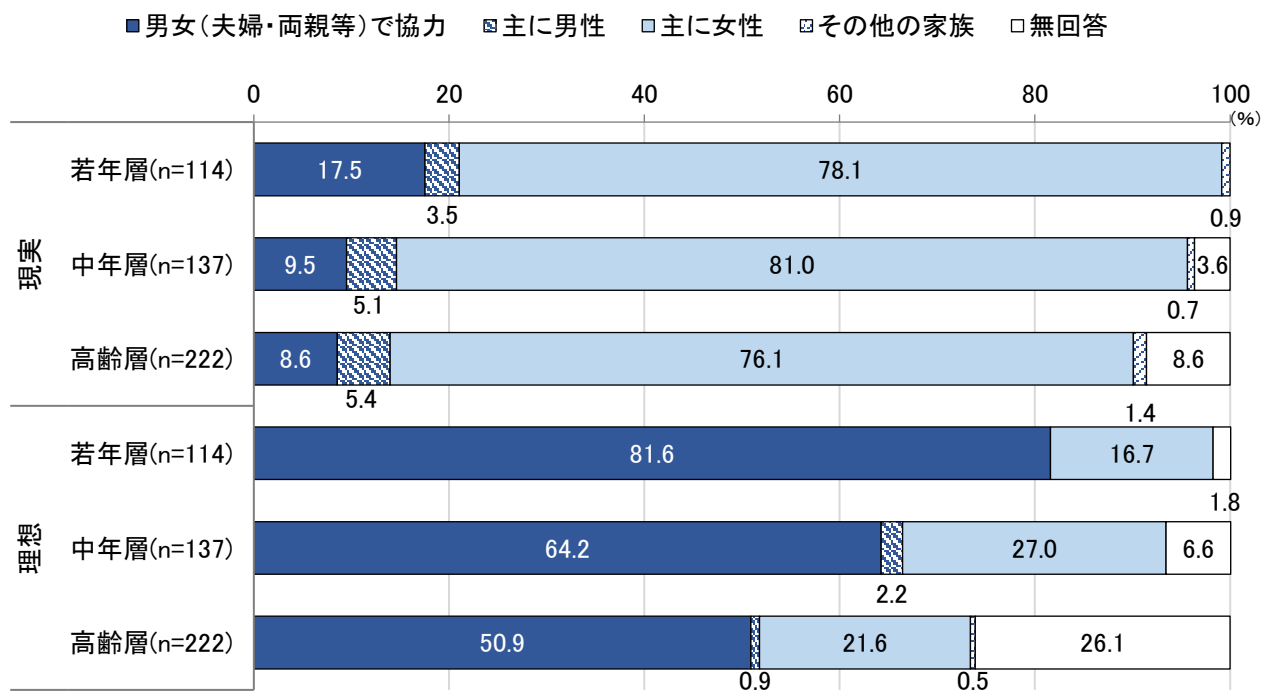
家計の管理（年齢層別の現実・理想）



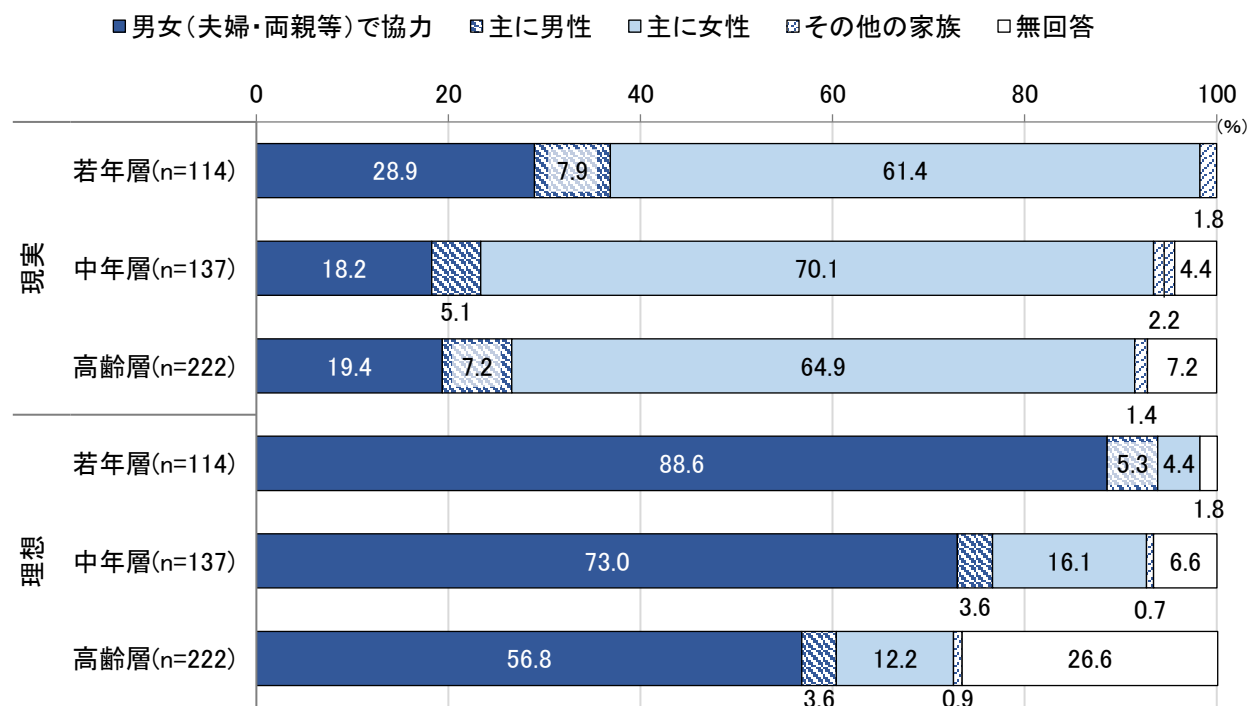
食料品などの買い物（年齢層別の現実・理想）



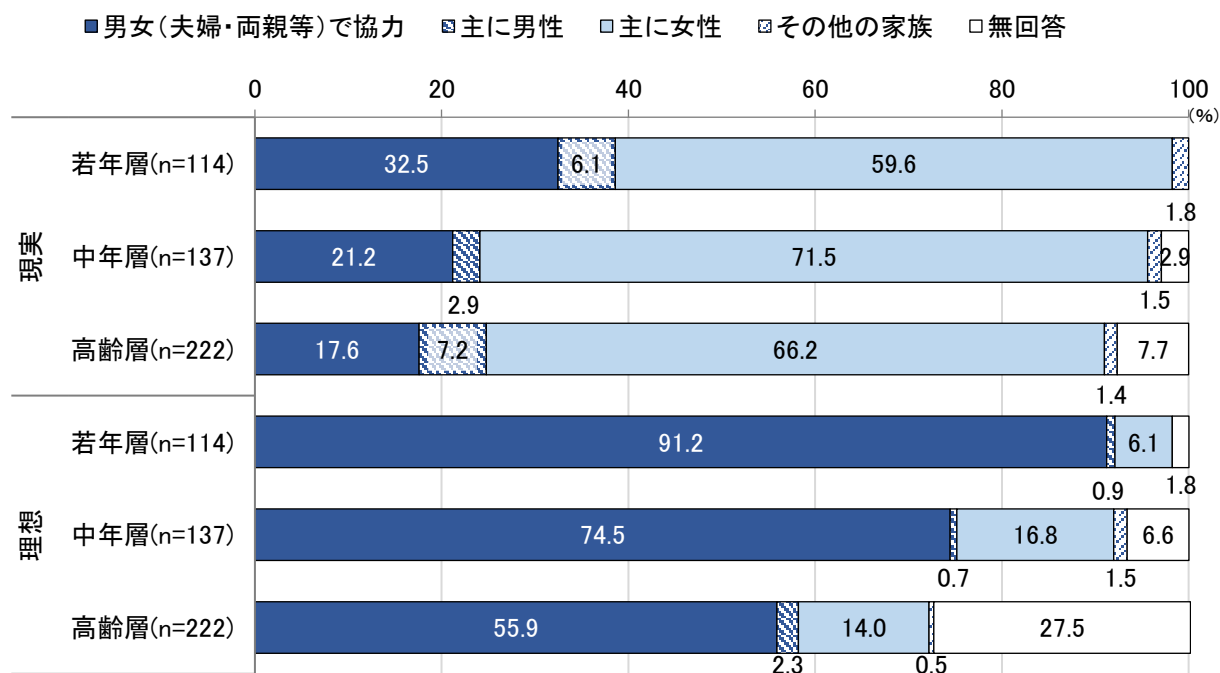
食事のしたく（年齢層別の現実・理想）



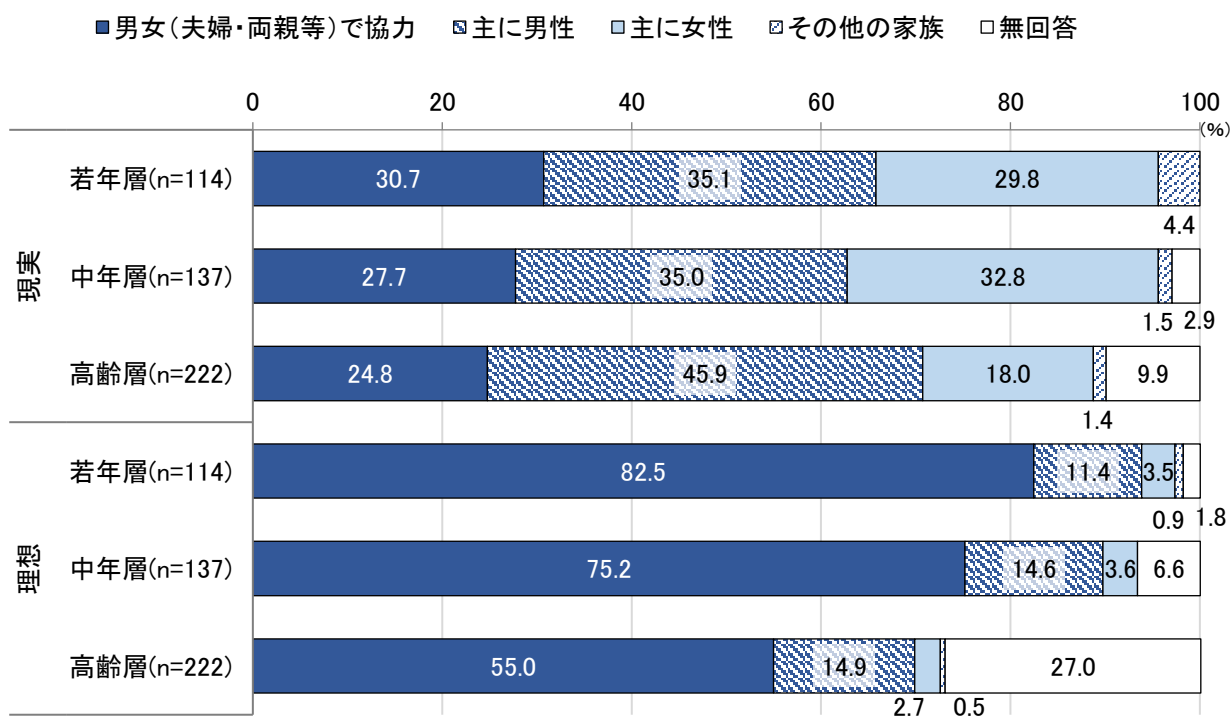
食事の片付け（年齢層別の現実・理想）



掃除・洗濯（年齢層別の現実・理想）

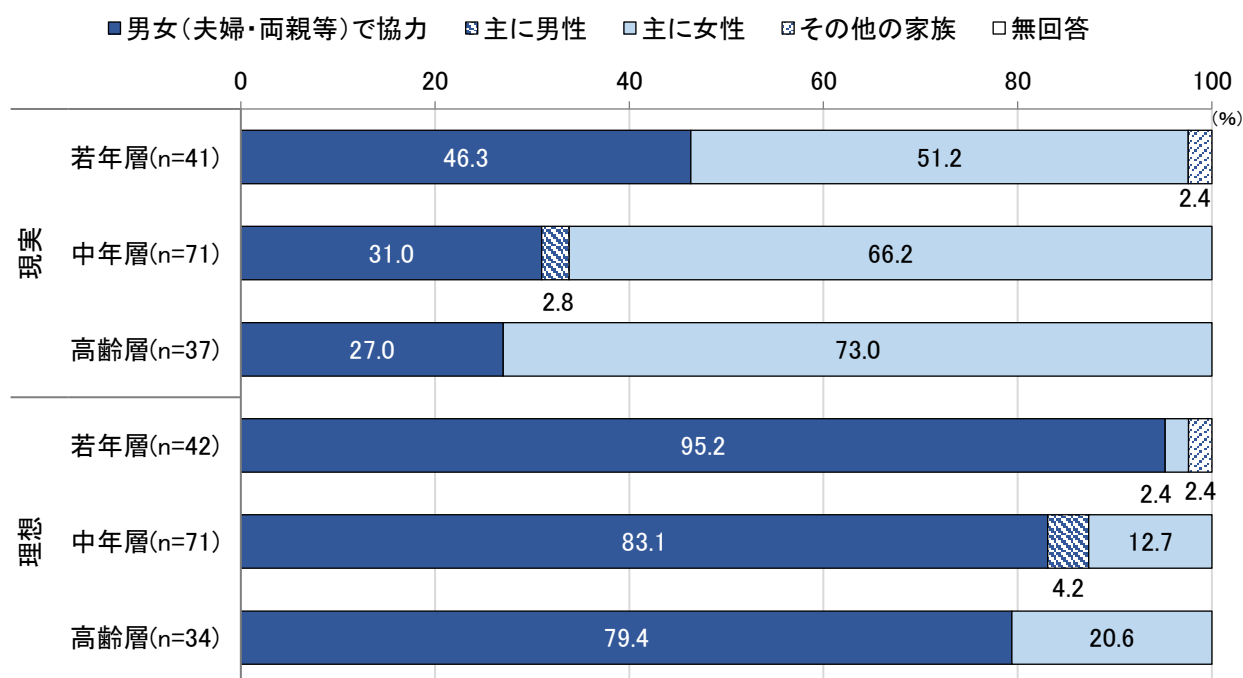


町内行事等への参加（年齢層別の現実・理想）



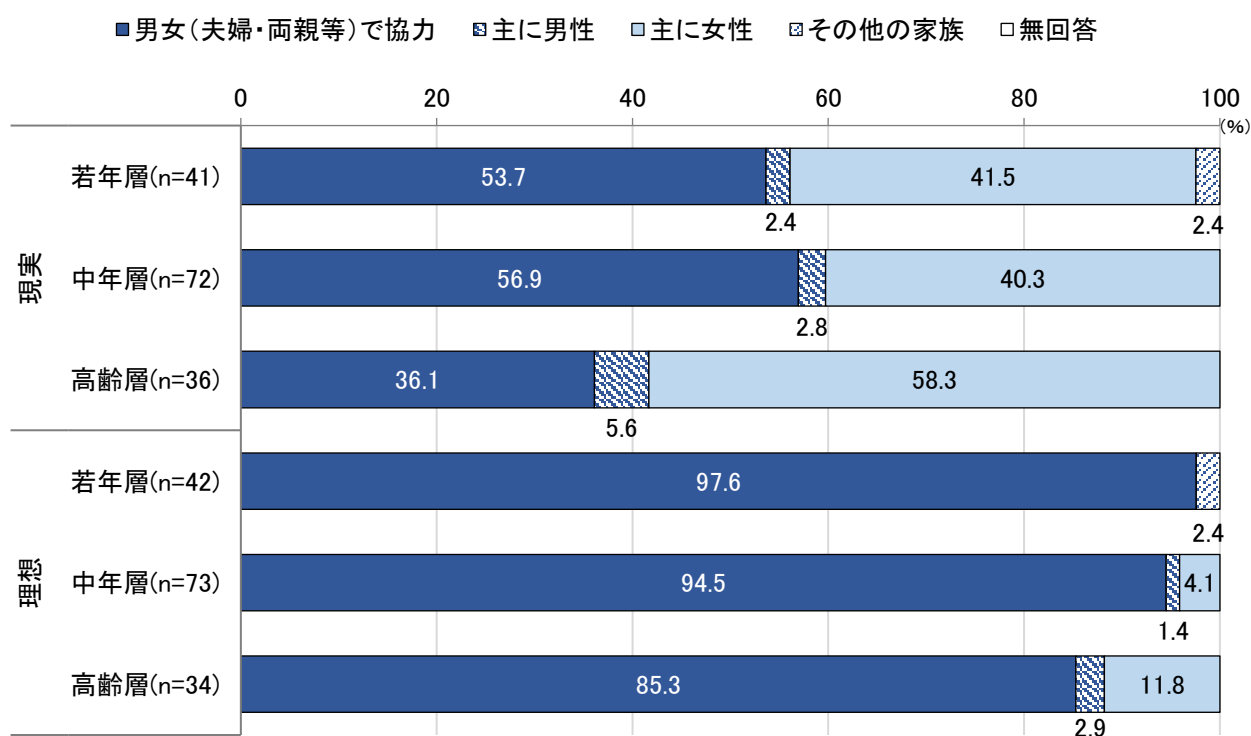
【子どもがいる方のみ】

育児〈乳幼児の世話〉（年齢層別の現実・理想）



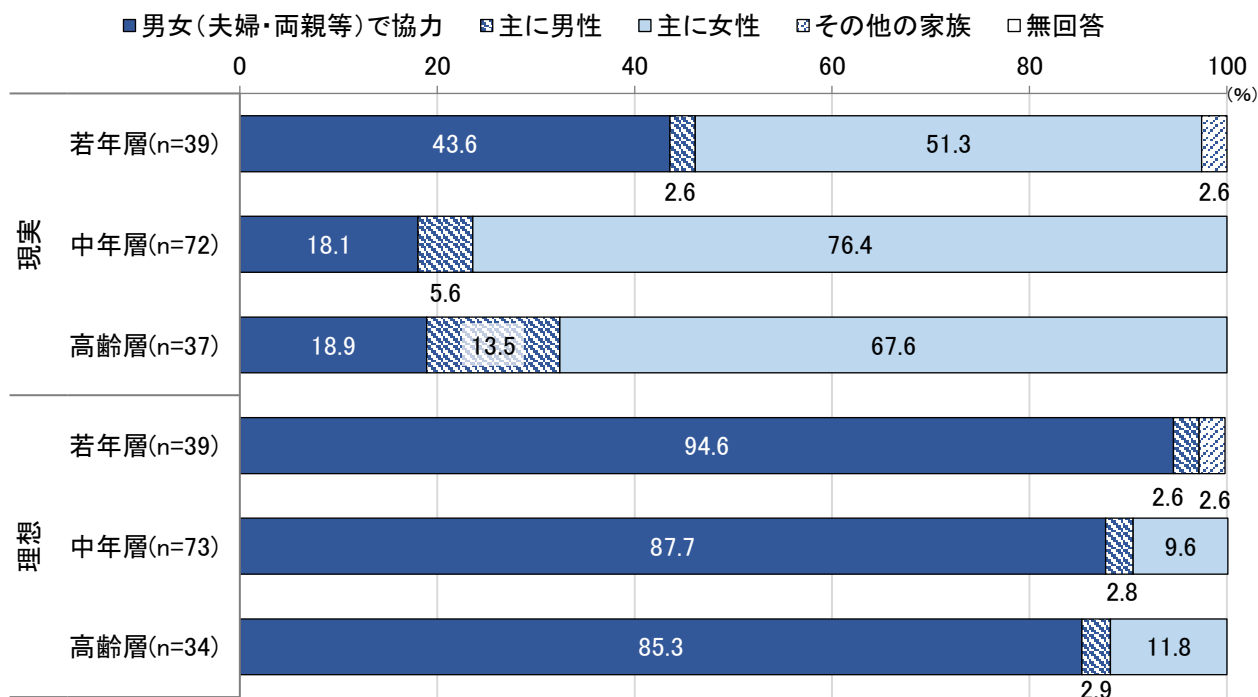
【子どもがいる方のみ】

子どもの教育としつけ（年齢層別の現実・理想）



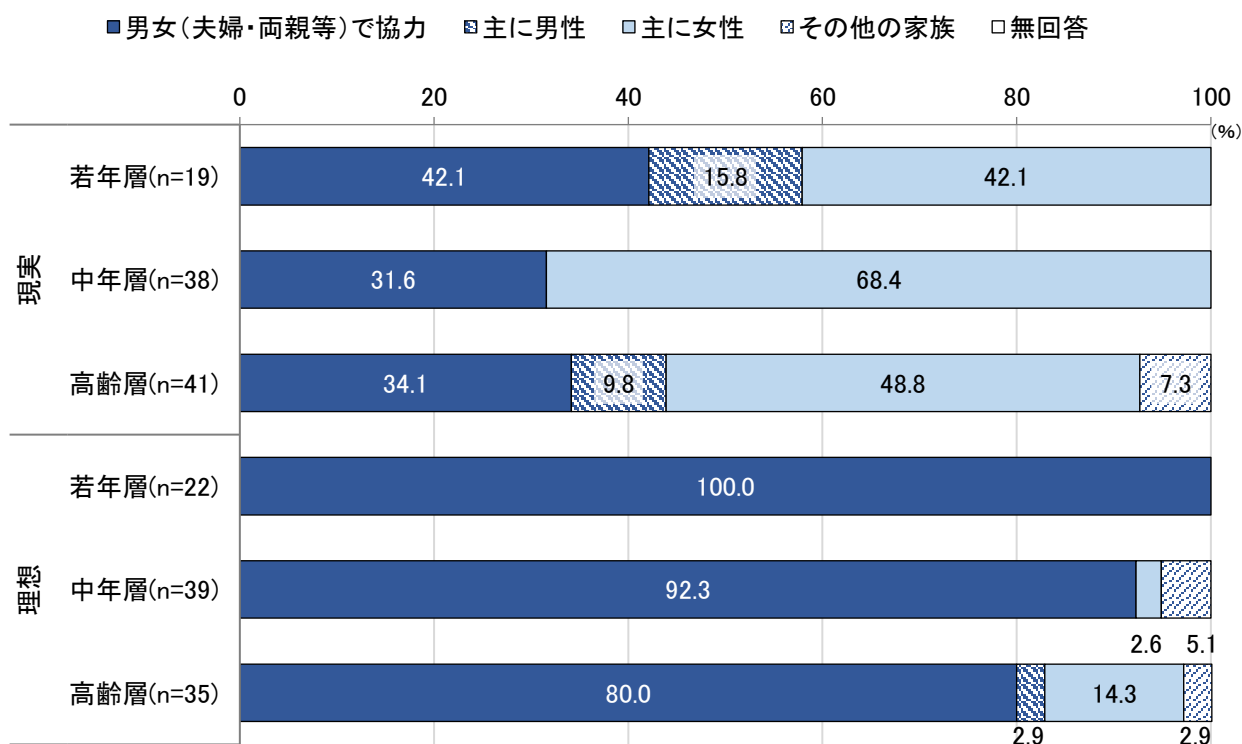
【子どもがいる方のみ】

PTA への出席（年齢層別の現実・理想）



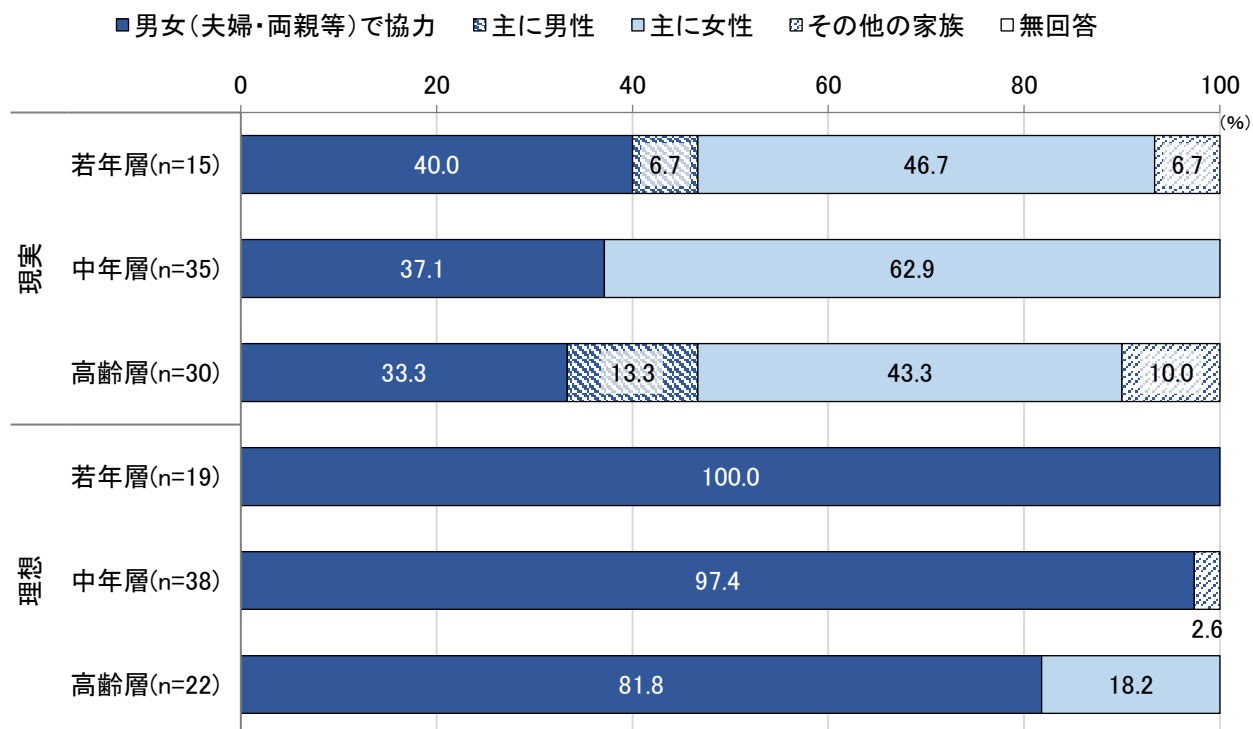
【家庭に介護等を必要とする方が居る場合のみ】

高齢者のお世話・介護（年齢層別の現実・理想）



【家庭に介護等を必要とする方が居る場合のみ】

障がいのある方や医療ケアを必要とする方のサポート（年齢層別の現実・理想）



問１０ 男性と女性が共に家事・育児・介護・地域活動等に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は２つまで）

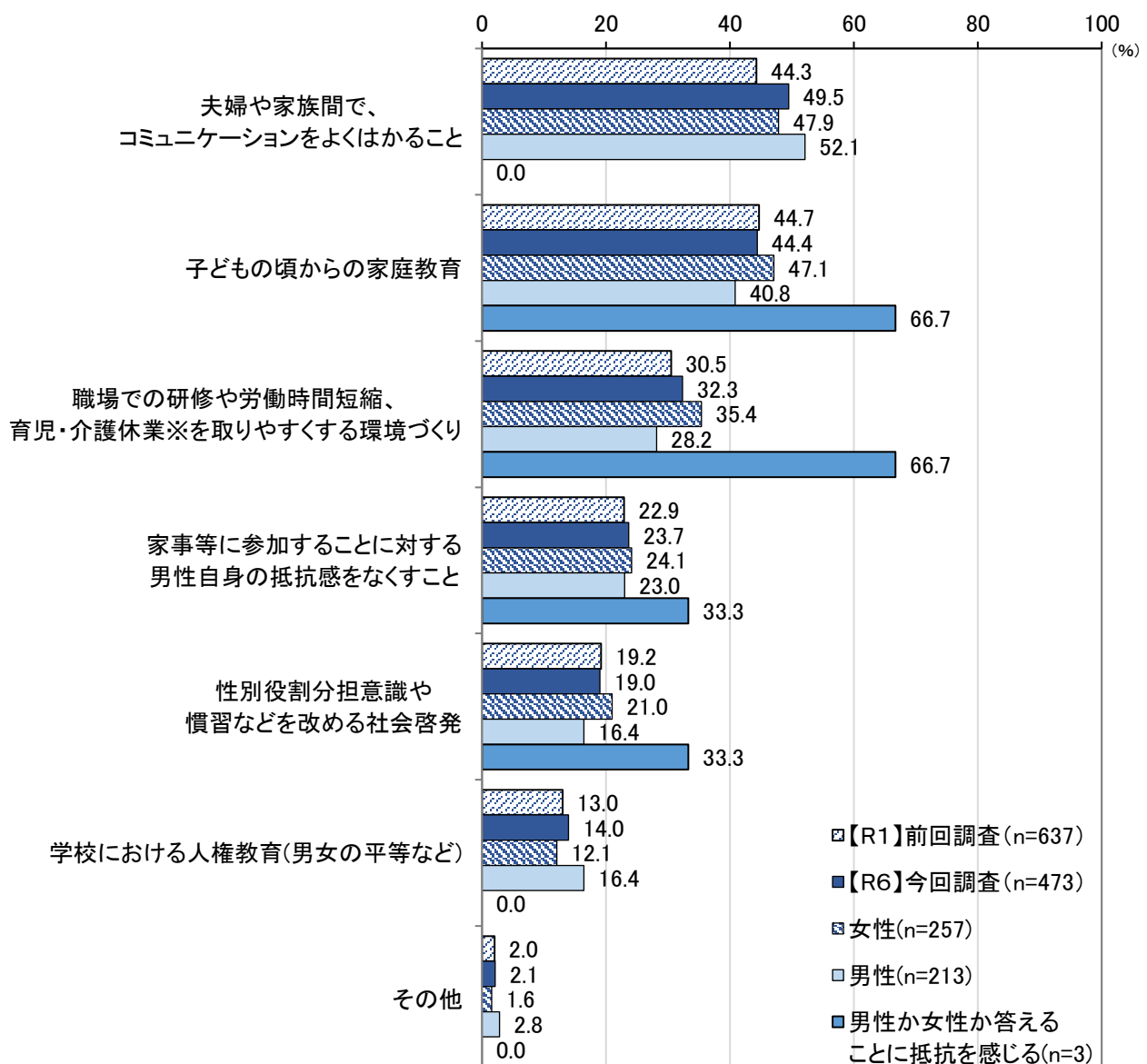
※育児・介護休業は、制度を利用した休みで、労働者の権利が守られており、権利を行使するための条件や各種給付金の受給資格制度などがあります。職場復帰も保障されています。

男女が共に家事等に参加するために必要だと思うことについて、全体でみると、今回調査では「夫婦や家族間で、コミュニケーションをよくはかること」が49.5%と最も高く、次いで「子どもの頃からの教育」が44.4%、「職場での研修や労働時間短縮、育児・介護休業を取りやすくする環境づくり」が32.3%となっています。

性別でみると、項目の順位に違いはありませんが、「職場での研修や労働時間短縮、育児・介護休業を取りやすくする環境づくり」では女性が35.4%、男性が28.2%と女性の方が7.2ポイント高く、「学校における人権教育」では女性が12.1%、男性が16.4%と、男性の方が4.3ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「夫婦や家族間で、コミュニケーションをよくはかること」が5.2ポイント高くなっています。

男女が共に家事等に参加するために必要だと思うこと（性別・前回比較）



3. 仕事について

<この章は、現在働いている方（育休・産休・療養等で休職中の方も含む）におたずねします>

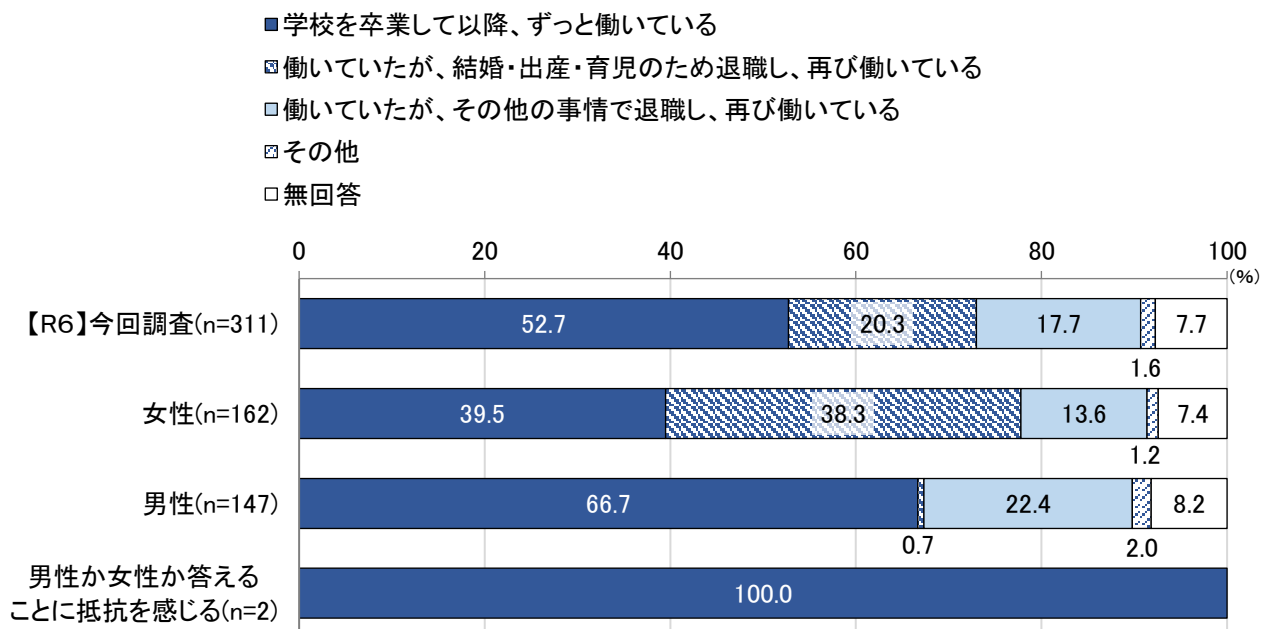
問11 あなたと仕事の関係は次のどれですか。（〇は1つ）

就労の状況について、全体でみると今回調査では「学校を卒業して以降、ずっと働いている」が52.7%と最も高く、次いで「働いていたが、結婚・出産・育児のため退職し、再び働いている」が20.3%、「働いていたが、その他の事情で退職し、再び働いている」が17.7%となっています。

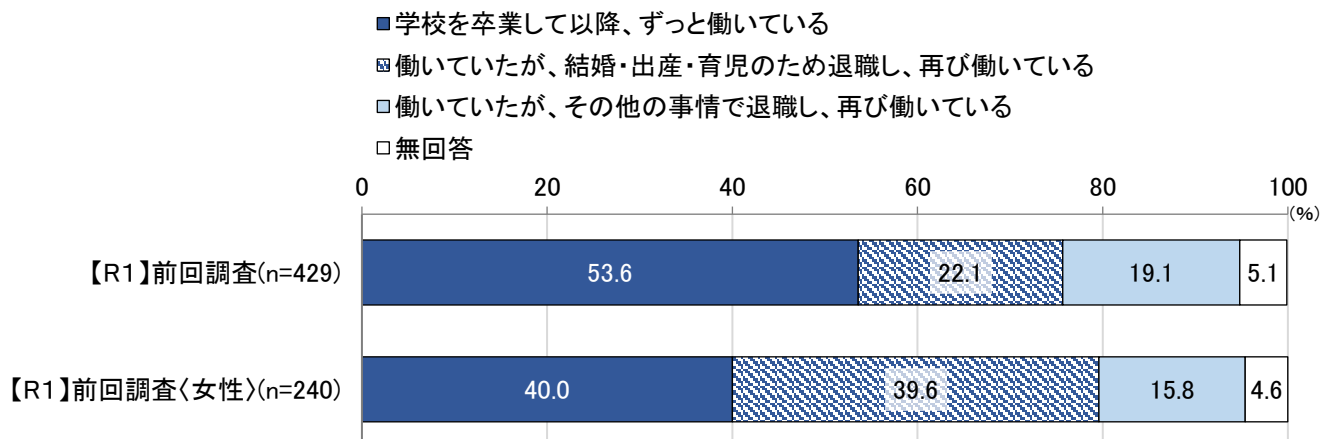
性別でみると、「学校を卒業して以降、ずっと働いている」では女性が39.5%、男性が66.7%と男性の方が27.2ポイント高く、「働いていたが、結婚・出産・育児のため退職し、再び働いている」では女性が38.3%、男性が0.7%と女性の方が37.6ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、前回も同じ傾向となっており、大きな変化は見られません。

就労の状況（性別）



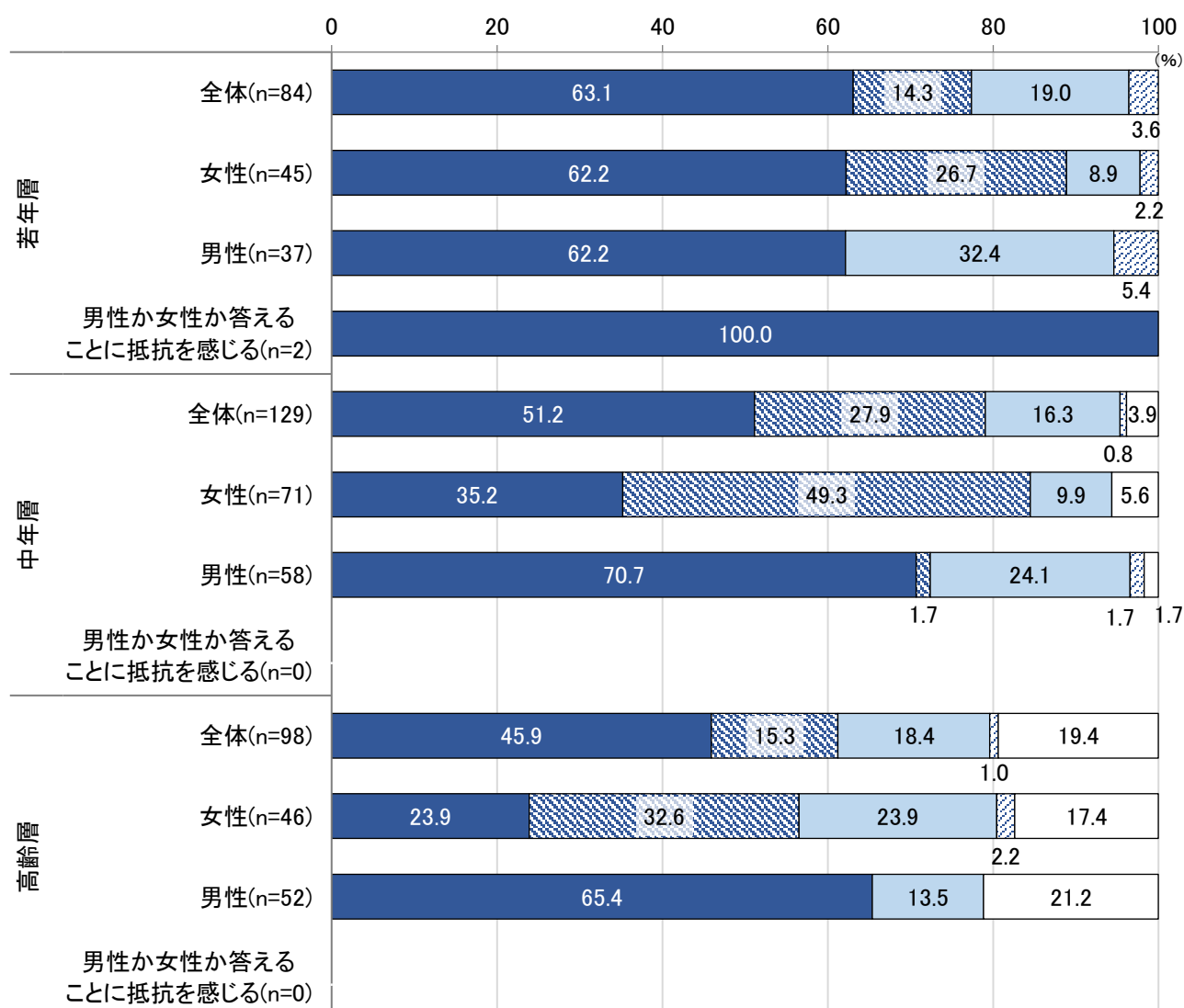
【参考】就労の状況（前回調査）



年齢層別でみると、中年層と高齢層の女性では「働いていたが、結婚・出産・育児のため退職し、再び働いている」の割合が最も高く、中年層では 49.3%と約半数を占めています。また、いずれの年齢層においても、「働いていたが、結婚・出産・育児のため退職し、再び働いている」の割合は男性より女性の方が高くなっています。

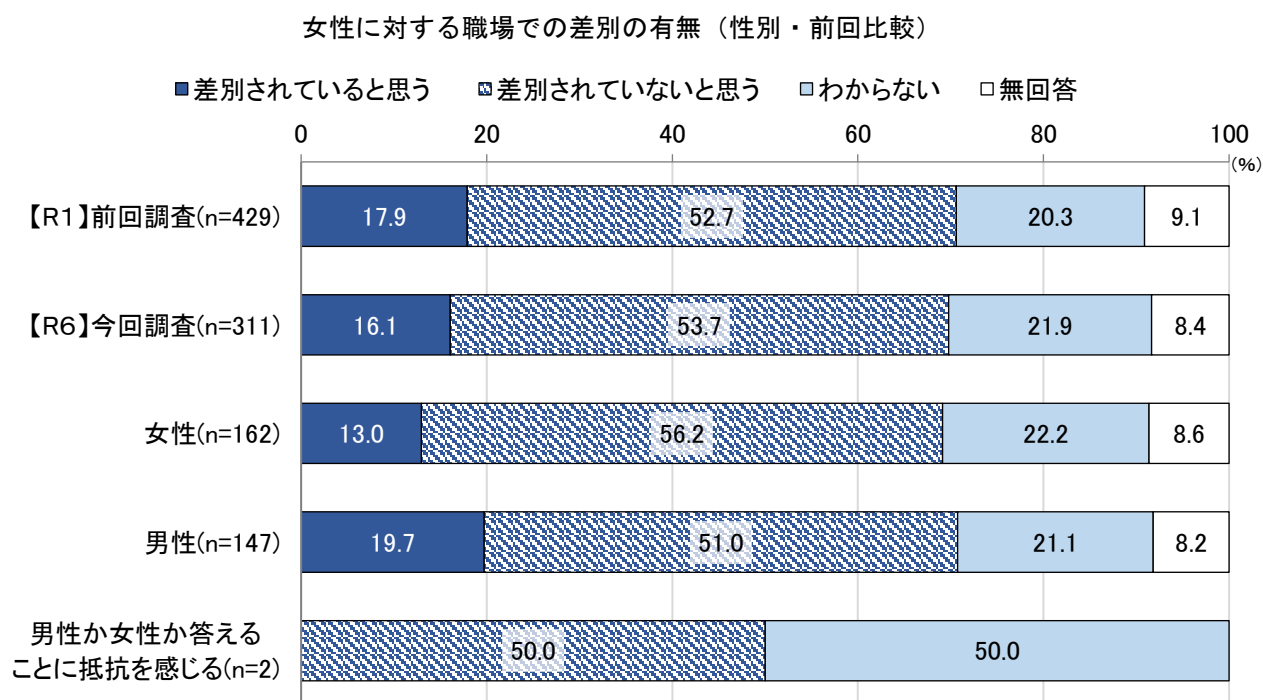
就労の状況

- 学校を卒業して以降、ずっと働いている
- ▨ 働いていたが、結婚・出産・育児のため退職し、再び働いている
- 働いていたが、その他の事情で退職し、再び働いている
- ▨ その他
- 無回答



問 1 2 あなたの職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。

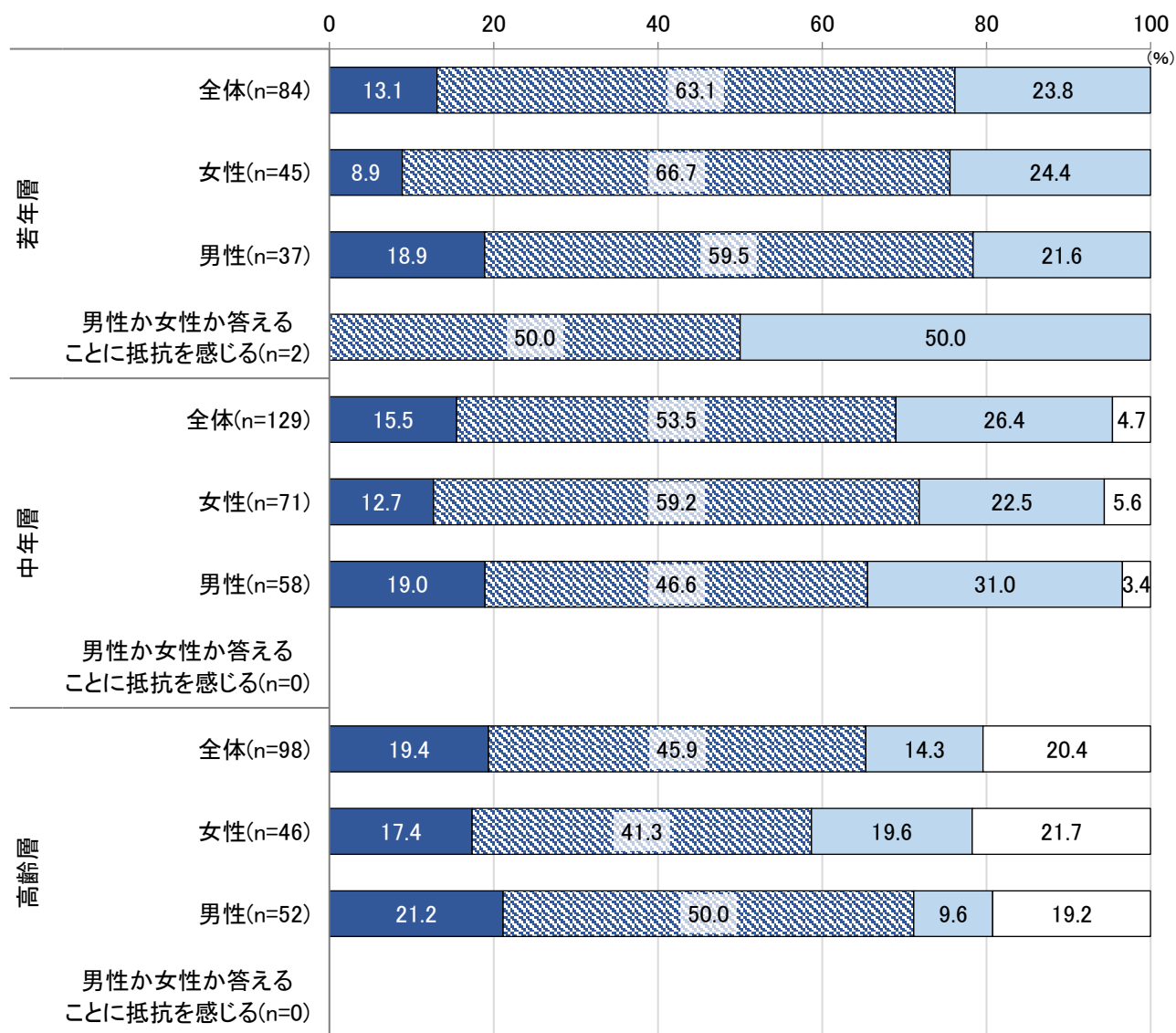
女性に対する職場での差別の有無について、全体でみると、「差別されていると思う」が16.1%、「差別されていないと思う」が53.7%、「わからない」が21.9%となっています。性別でみると、「差別されていると思う」は女性より男性の方が高くなっています。前回調査と比較すると、「差別されていると思う」は1.8ポイント減少しています。



年齢層別でみると、いずれにおいても「差別されていないと思う」の割合が最も高くなっていますが、年齢が上がるにつれて「差別されていると思う」の割合が高くなっています。

女性に対する職場での差別の有無（年齢層別）

■ 差別されていると思う ■ 差別されていないと思う ■ わからない □ 無回答



<問 12 で「差別されていると思う」と答えた方におたずねします。>

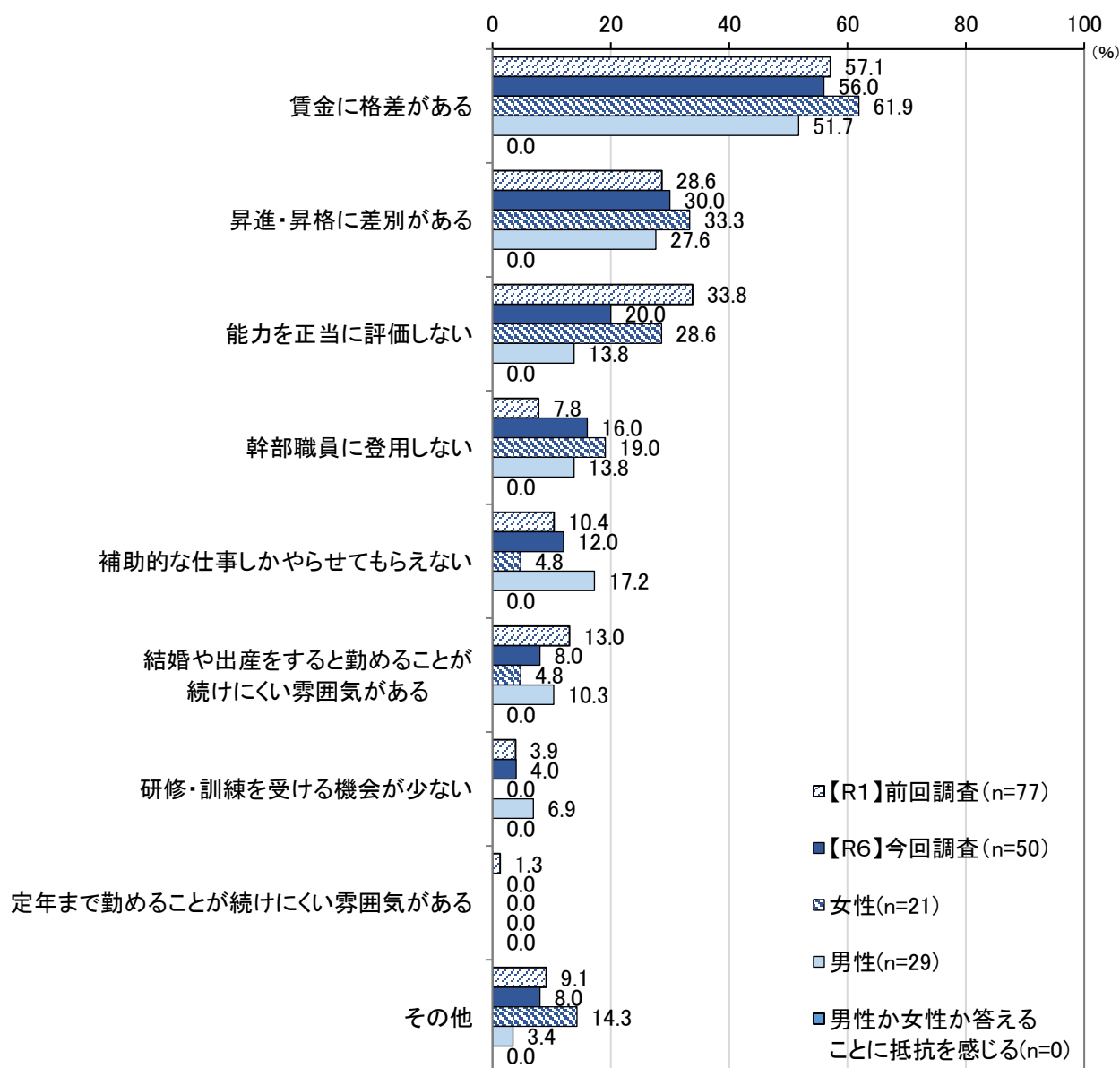
問 12—1 それは具体的にどのようなことですか。(〇は2つまで)

差別の内容について、全体でみると今回調査では「賃金に格差がある」が 56.0%と最も高く、次いで「昇進・昇格に差別がある」が 30.0%、「能力を正当に評価しない」が 20.0%となっています。

性別でみると、「能力を正当に評価しない」では、女性が 28.6%、男性が 13.8%と女性の方が 14.8 ポイント高く、「補助的な仕事しかやらせてもらえない」では女性が 4.8%、男性が 17.2%と、男性の方が 12.4 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「能力を正当に評価しない」は 13.8 ポイント低くなり、「幹部職員に登用しない」は 8.2 ポイント高くなっています。

差別の内容（性別・前回比較）



4. ワーク・ライフ・バランスについて

<全員におたずねします>

問13 仕事と家庭生活両立のために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ)

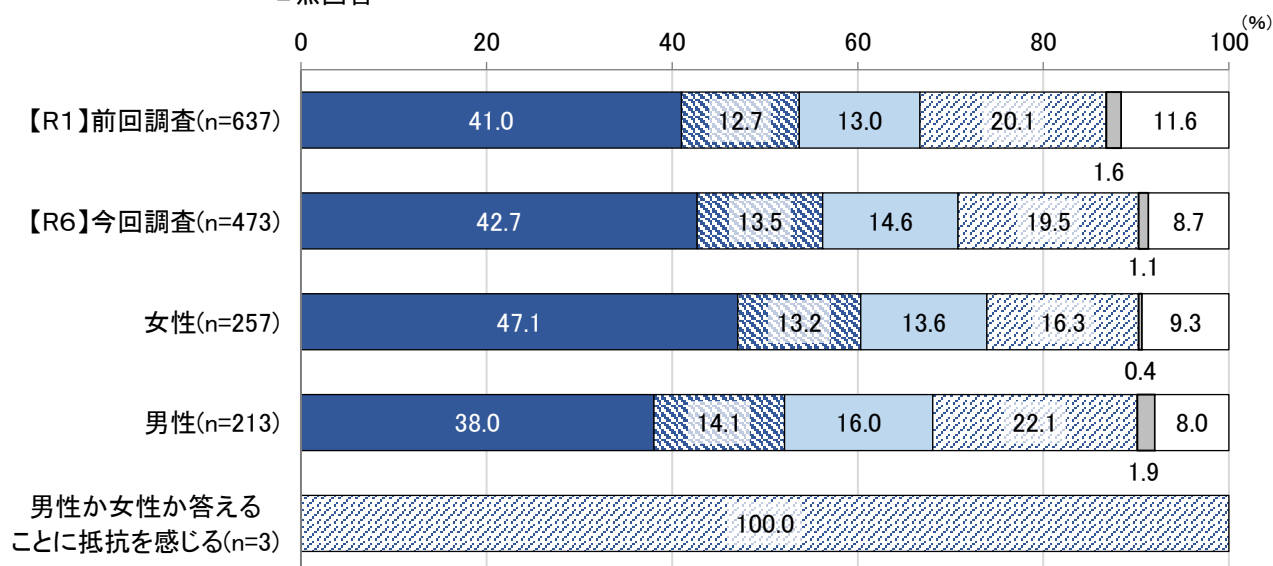
仕事と家庭生活両立のために必要なことについて全体でみると、今回調査では、「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう」が42.7%と最も高く、次いで「週休二日制や労働時間の短縮など、多様で柔軟な働き方を推進する」が19.5%、「男女が共に育児・介護休業を取りやすい環境づくり」が14.6%となっています。

性別で見ると、「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう」では女性が47.1%、男性が38.0%と、女性の方が9.1ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、同様の傾向となっており、大きな変化は見られません。

仕事と家庭生活両立のために必要なこと（性別・前回比較）

- 男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう
- ▣育児や介護のための支援施設やサービスの充実
- ▢男女が共に育児・介護休業を取りやすい環境づくり
- ▣週休二日制や労働時間の短縮など、多様で柔軟な働き方を推進する
- その他
- 無回答



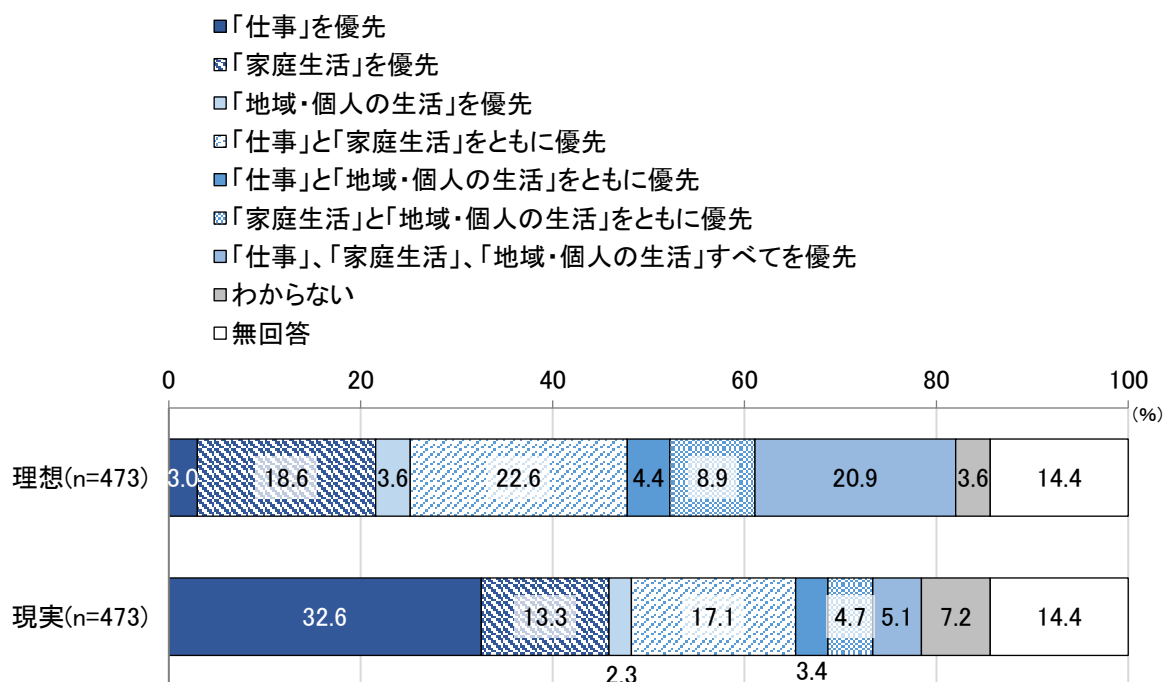
問14 「仕事」、「家庭生活」（家事・育児・介護等）、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）について、優先したいものはどれですか。

「理想」と「現実」をそれぞれ1つ選び番号を記入してください。

優先したいものについて、理想では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が22.6%と最も高く、次いで『「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」すべてを優先』が20.9%、『「家庭生活」を優先』が18.6%となっています。

現実では『「仕事」を優先』が32.6%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が17.1%、『「家庭生活」を優先』が13.3%となっています。

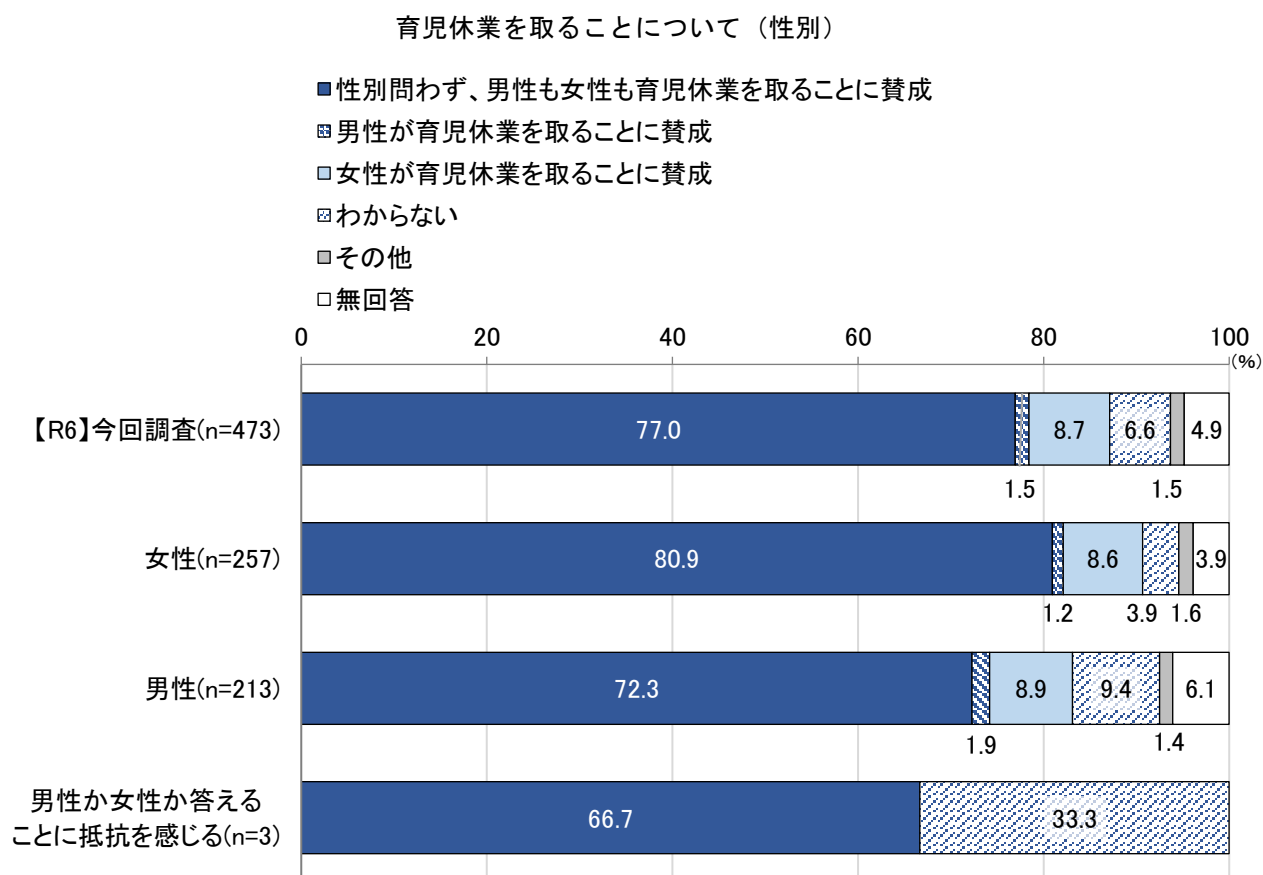
優先したいものの理想と現実（全体）



問15 あなたは、育児休業を取ることに、どのように考えますか。(〇は1つ)

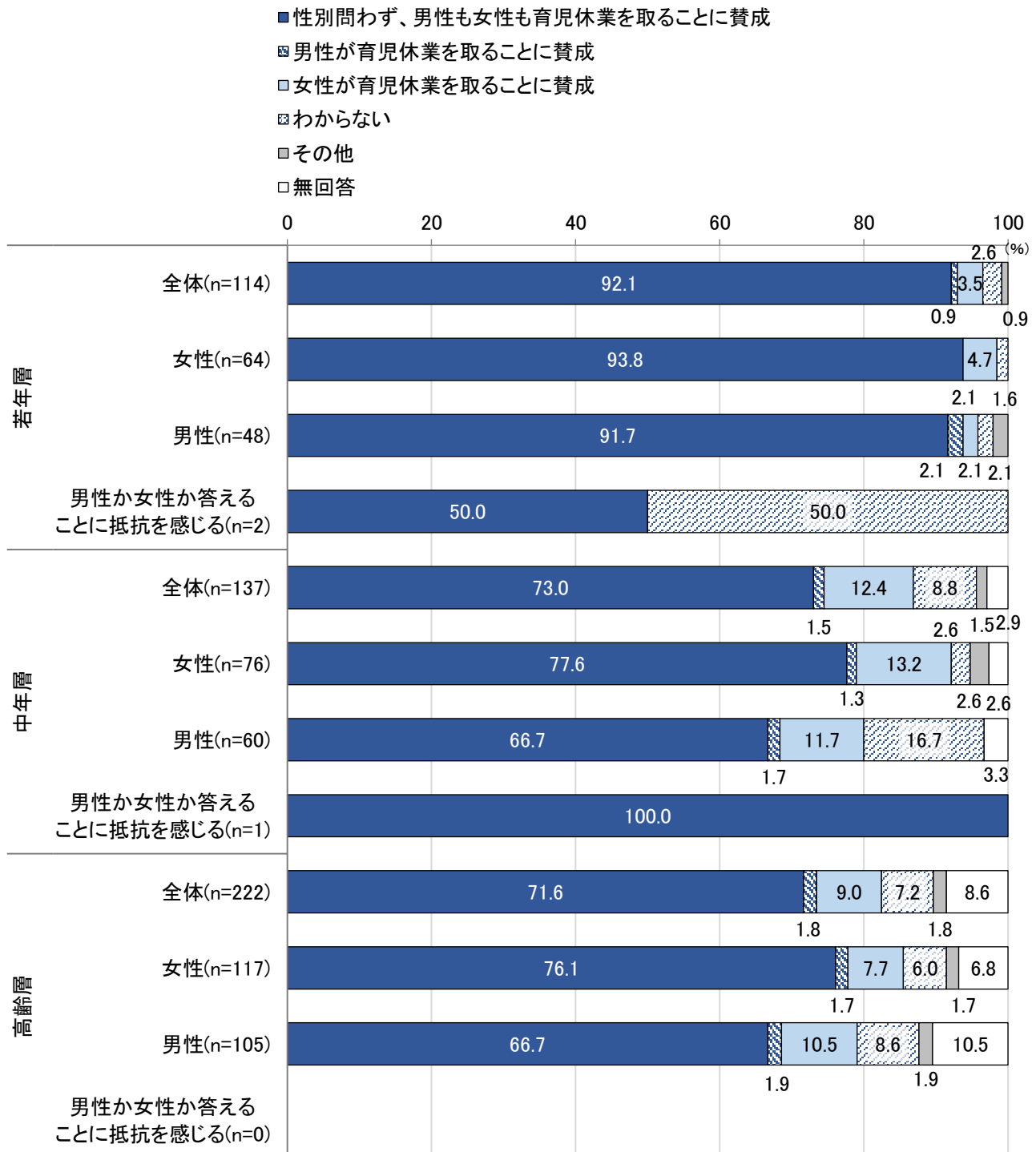
育児休業を取ることに、全体でみると、「性別問わず、男性も女性も育児休業を取ることに賛成」が77.0%と最も高く、次いで「女性が育児休業を取ることに賛成」が8.7%、「わからない」が6.6%となっています。

性別でみると、「性別問わず、男性も女性も育児休業を取ることに賛成」では女性が80.9%、男性が72.3%と、女性の方が8.6ポイント高くなっています。



年齢層別でみると、年齢が下がるにつれて「性別問わず、男性も女性も育児休業を取ることに賛成」の割合が高くなっており、若年層では女性と男性ともに90%以上となっています。

育児休業を取ることにについて（年齢層別）



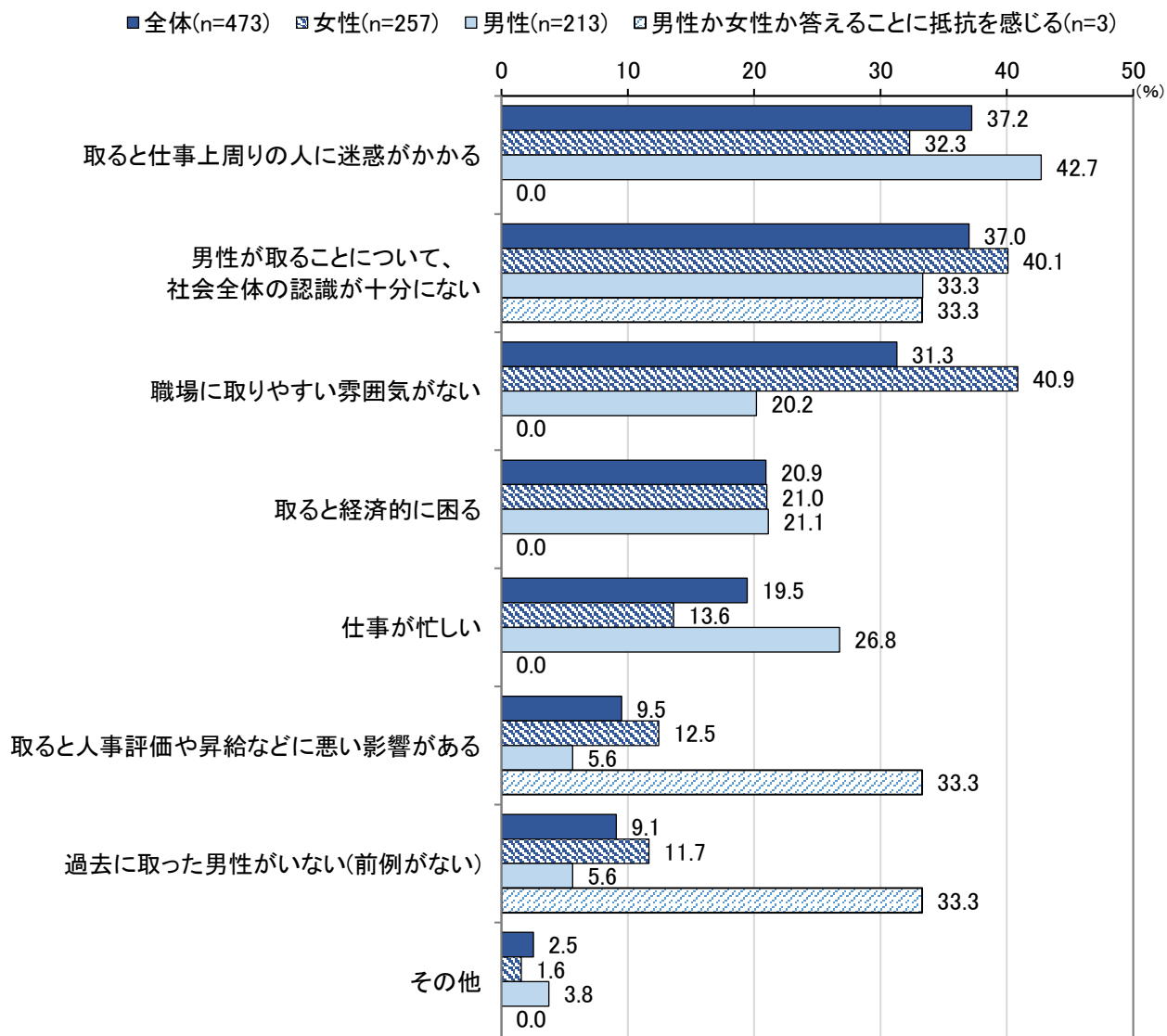
問16 男性の育児休業取得は女性と比べると低い割合です。

あなたは、男性が育児休業を取りづらい理由は何だと思いますか。(〇は2つまで)

男性が育児休業を取りづらい理由について、全体でみると、「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」が37.2%と最も高く、次いで「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」が37.0%、「職場に取りやすい雰囲気がない」が31.3%となっています。

性別でみると、女性では「職場に取りやすい雰囲気がない」が40.9%、男性では「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」が42.7%と最も高くなっています。

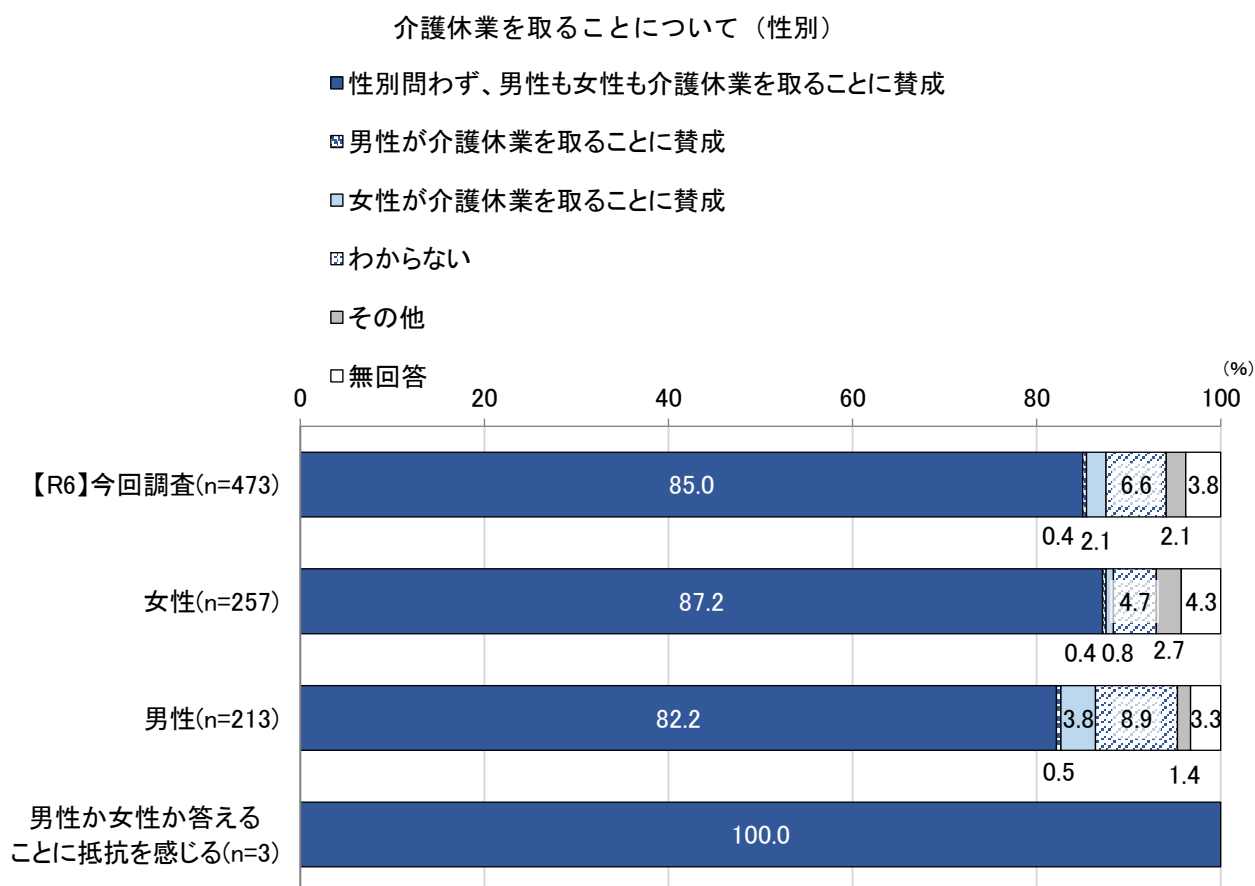
男性が育児休業を取りづらい理由（性別）



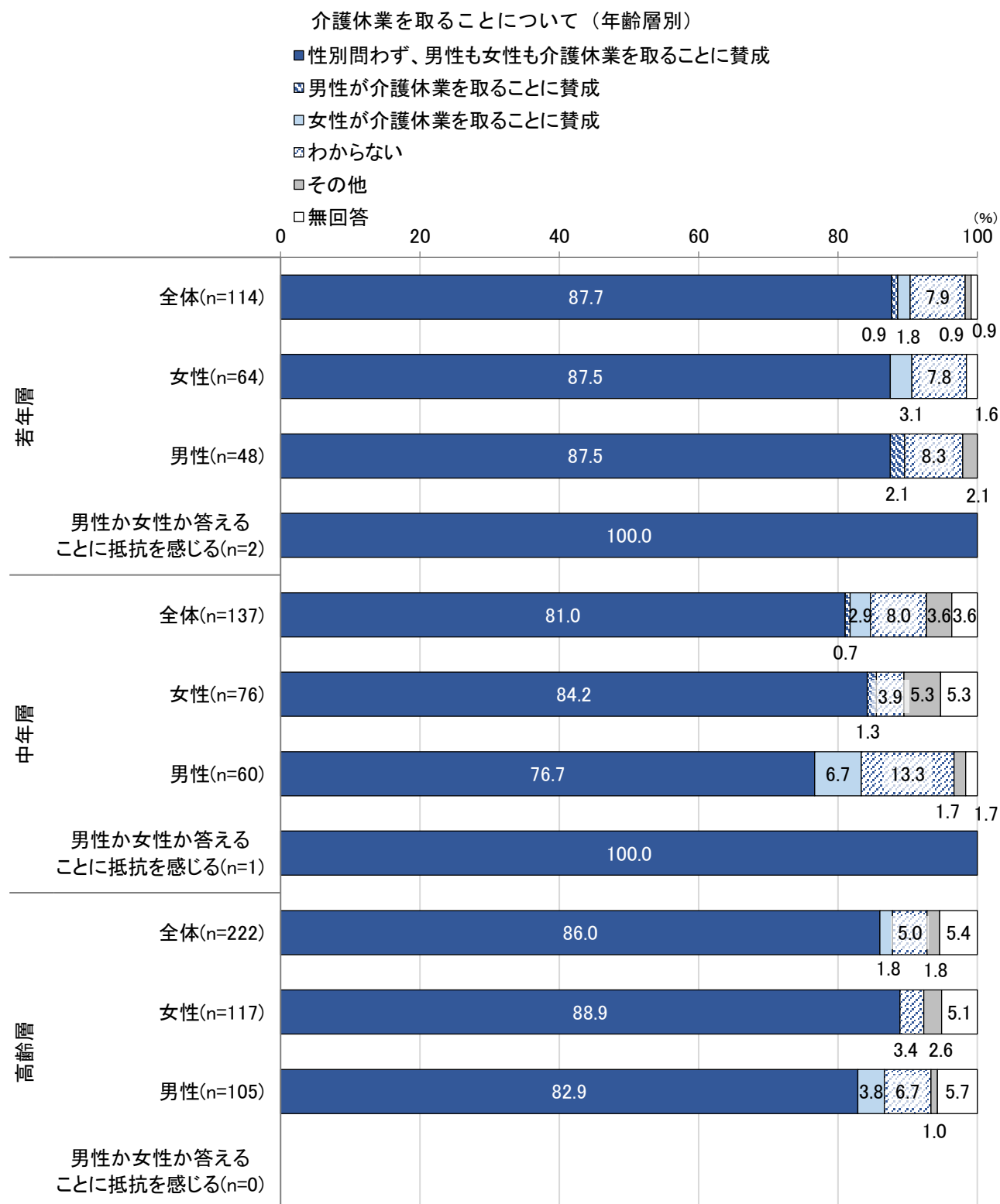
問17 あなたは、介護休業を取ることに、どのように考えますか。(〇は1つ)

介護休業を取ることに、全体でみると、「性別問わず、男性も女性も介護休業を取ることに賛成」が85.0%と最も高く、次いで「わからない」が6.6%、「女性が介護休業を取ることに賛成」と「その他」が2.1%となっています。

性別でみると、「性別問わず、男性も女性も介護休業を取ることに賛成」が女性では87.2%、男性では82.2%と女性の方が5.0ポイント高くなっています。



年齢層別でみると、いずれにおいても「性別問わず、男性も女性も介護休業を取ることに賛成」が最も高く、80%以上となっています。



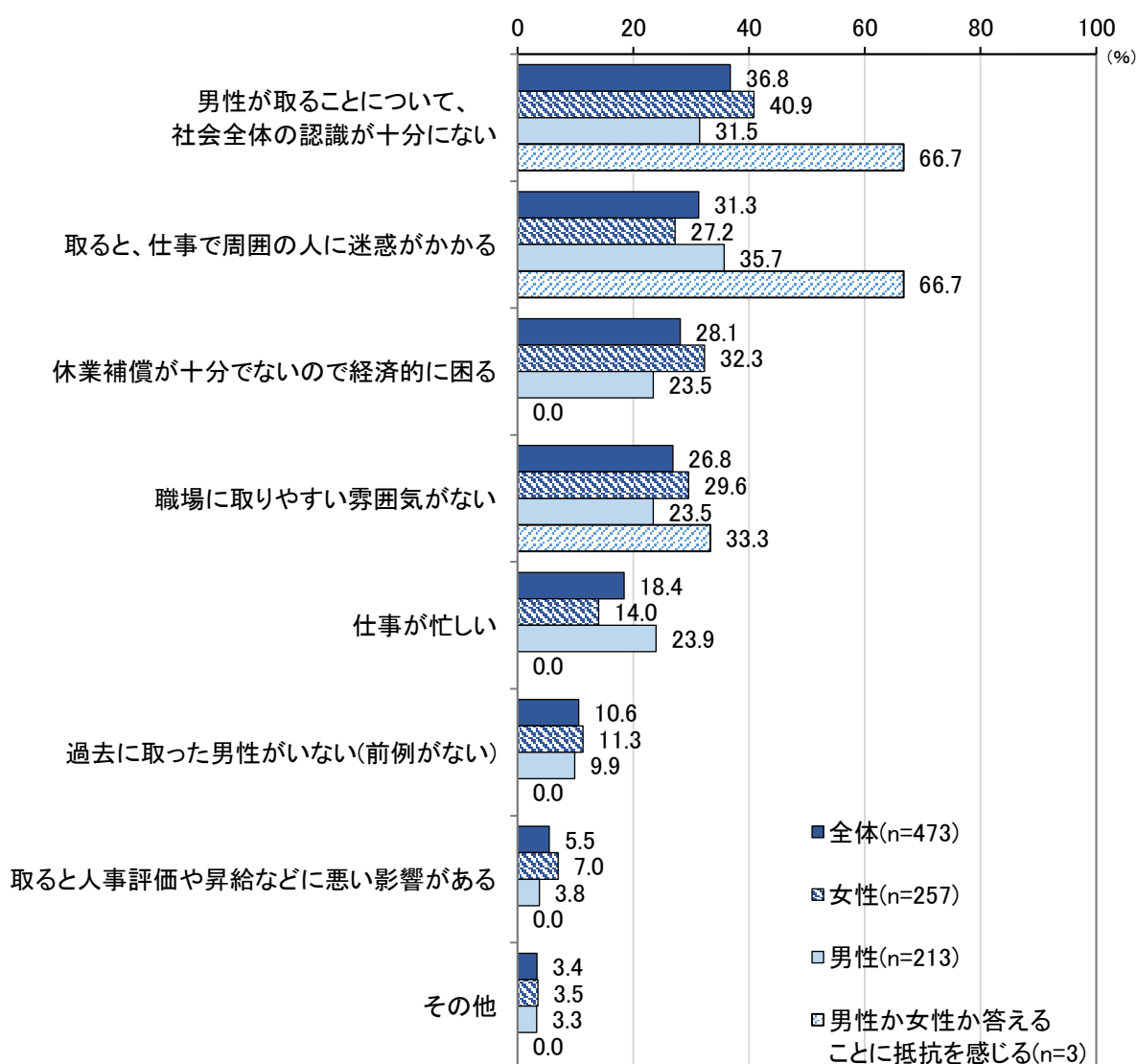
問18 男性の介護休業取得は女性と比べると低い割合です。

あなたは、男性が介護休業を取りづらい理由は何だと思いますか。(〇は2つまで)

男性が介護休業を取りづらい理由について、全体でみると、「男性が取ることにについて、社会全体の認識が十分でない」が36.8%と最も高く、次いで「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が31.3%、「休業補償が十分でないので経済的に困る」が28.1%となっています。

性別でみると、女性では「男性が取ることにについて、社会全体の認識が十分でない」が40.9%、男性では「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」35.7%と最も高くなっています。

男性が介護休業を取りづらい理由（性別）

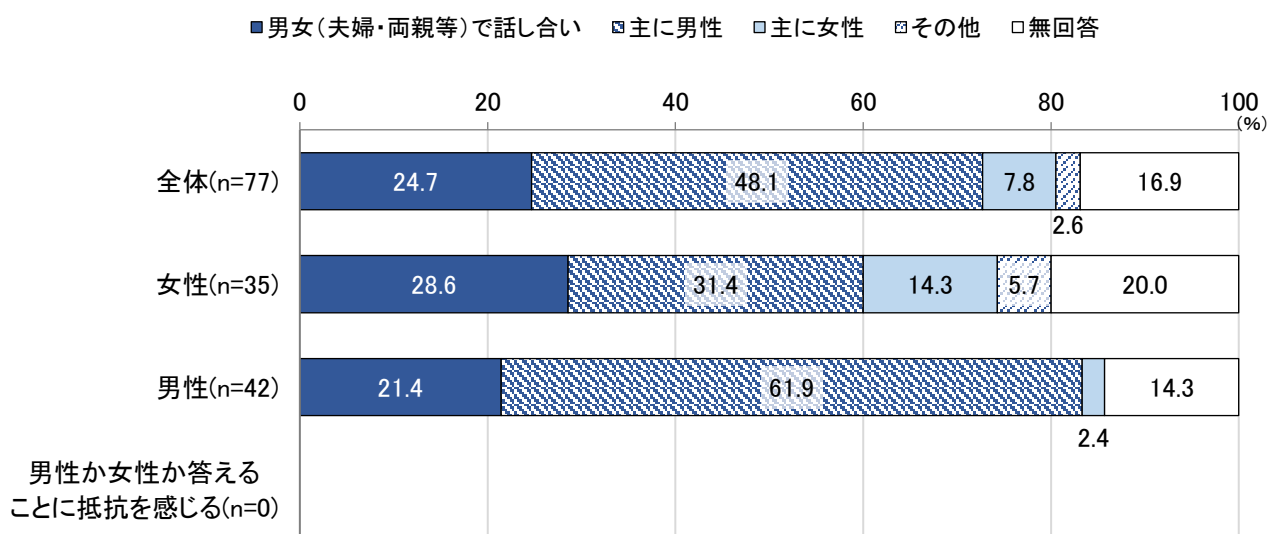


問１９ 「農林漁業・サービス業等の自営業」（問４で「自営業（農林漁業）またはその家族従業員」、「自営業（商工業・サービス業・建設業・開業医等）またはその家族従業員」と答えた方）に従事されている方におたずねします。事業経営の方針などは誰が決定していますか。（○は１つ）

事業経営等の方針等の決定者について、全体でみると、「主に男性」が 48.1%と最も高く、次いで「男女で話し合い」が 24.7%、「主に女性」が 7.8%となっています。

性別でみると、「主に男性」は女性では 31.4%、男性では 61.9%と男性が 30.5 ポイント高くなっています。

事業経営の方針等の決定者（性別）

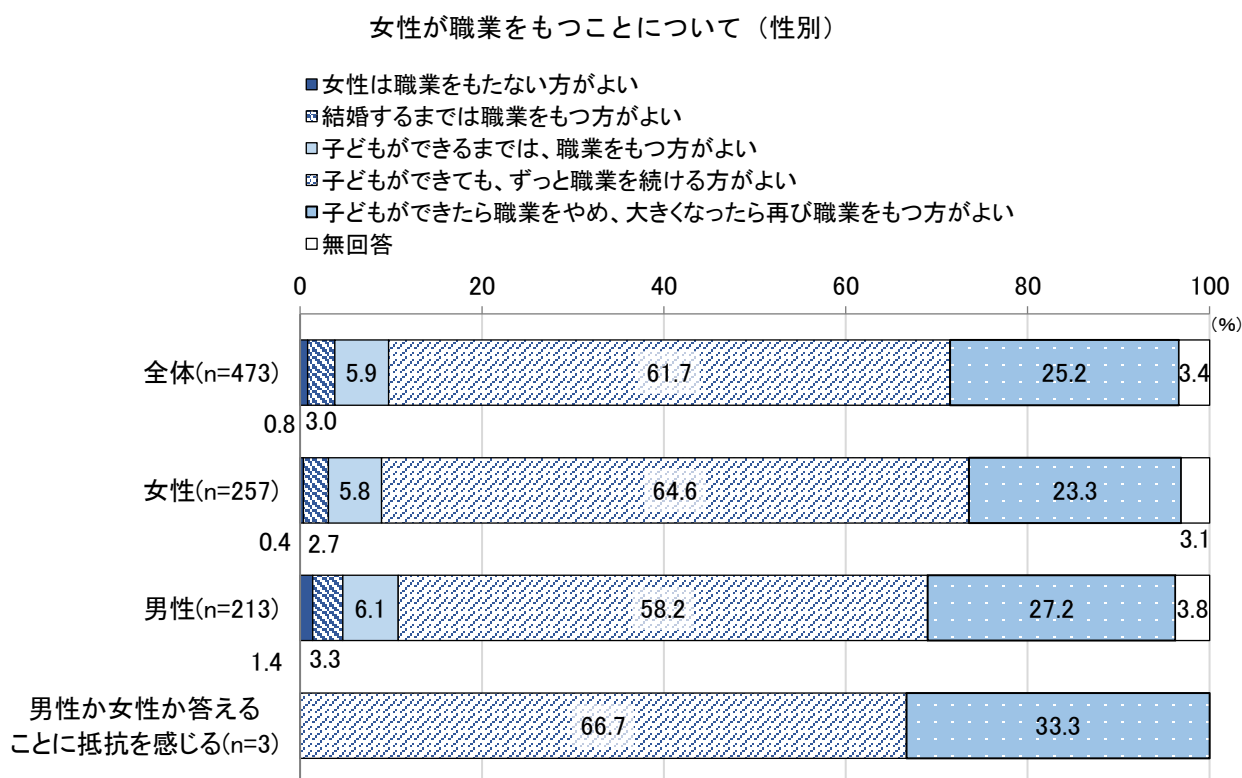


5. 女性の活躍について

問20 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

女性が職業をもつことについて、全体でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が61.7%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が25.2%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」が5.9%となっています。

性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では女性が64.6%、男性が58.2%と、女性の方が6.4ポイント高くなっています。



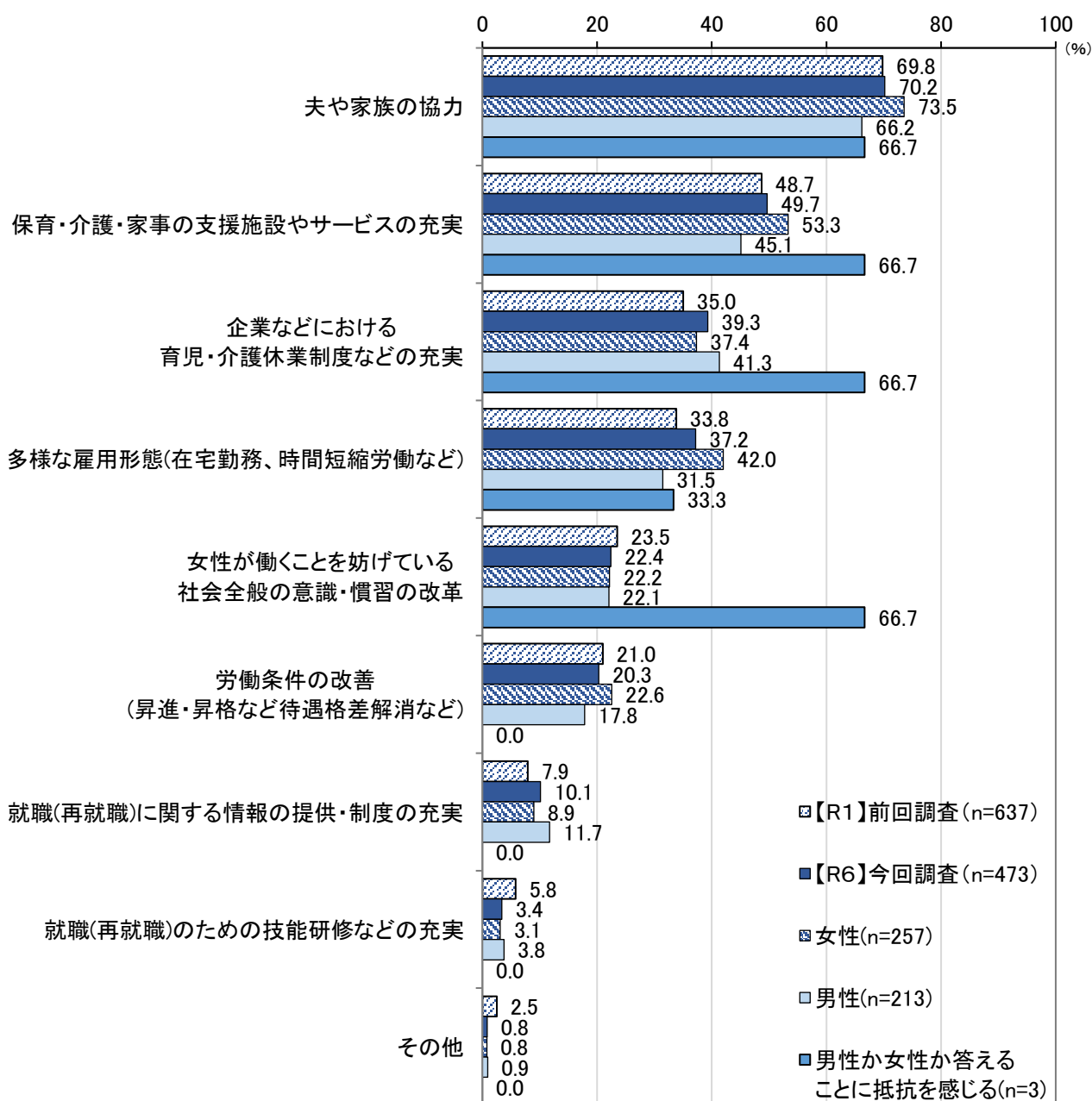
問21 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。

女性が生涯にわたり仕事を続けるために必要な支援や改善について、全体でみると、今回調査では「夫や家族の協力」が70.2%と最も高く、次いで「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」が49.7%、「企業などにおける育児・介護休業制度等の充実」が39.3%となっています。

性別でみると、「多様な雇用形態」では女性が42.0%、男性が31.5%と、女性の方が10.5ポイント高く、「企業などにおける育児・介護休業制度などの充実」では女性が37.4%、男性が41.3%と、男性の方が3.9ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「企業などにおける育児・介護休業制度などの充実」が4.3ポイント高くなっています。

女性が生涯にわたり仕事を続けるために必要な支援や改善（性別・前回比較）

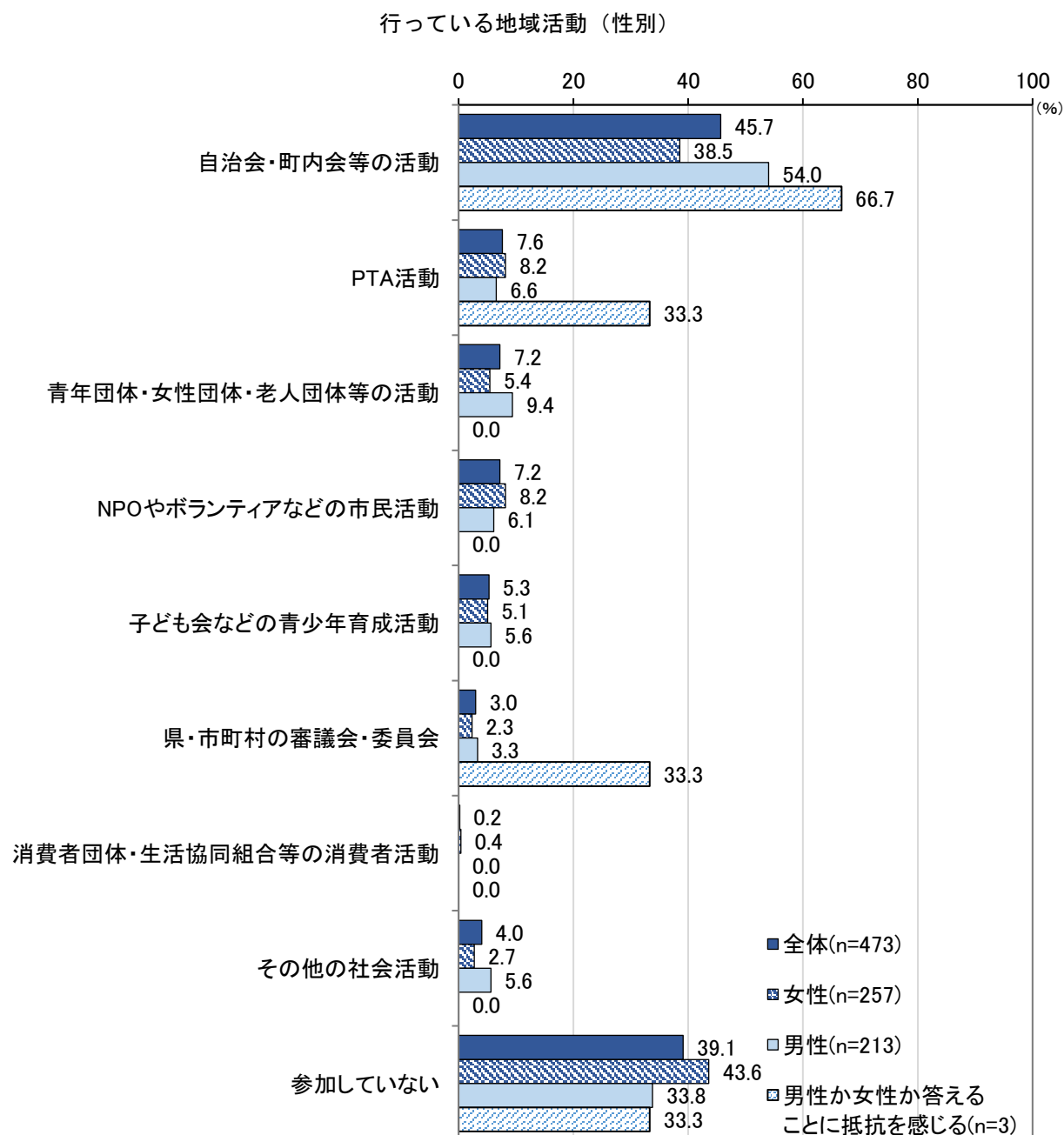


6. 地域の活動について

問22 あなたは、次のような地域活動を行っていますか。(〇はいくつでも)

行っている地域活動について、全体でみると、「自治会・町内会等の活動」が45.7%と最も高く、次いで「参加していない」が39.1%、「PTA活動」が7.6%となっています。

性別でみると、女性では「参加していない」が43.6%と最も高く、男性では「自治会・町内会等の活動」が54.0%と最も高くなっています。



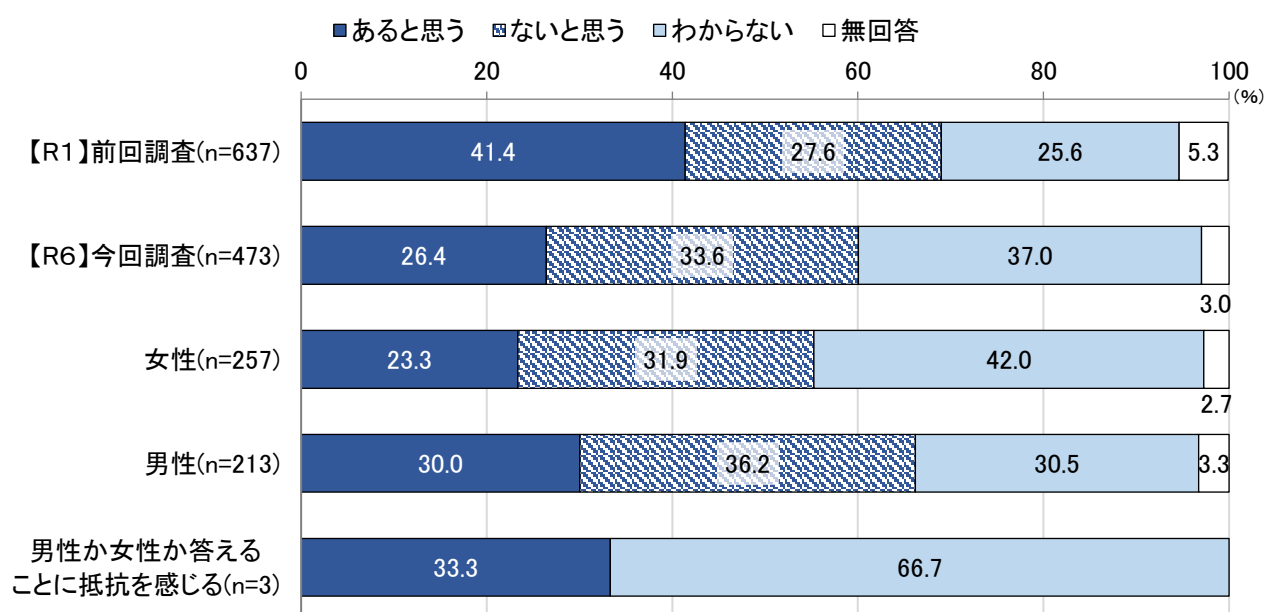
問23 地域活動等(集まりや作業)の中で、男女共同で参加しにくいという雰囲気や状況があると思いますか。(〇は1つ)

地域活動等において男女共同で参加しにくい雰囲気や状況の有無について、全体でみると、今回調査では「あると思う」が26.4%、「ないと思う」が33.6%、「わからない」が37.0%となっています。

性別でみると、「あると思う」では女性が23.3%、男性が30.0%と、男性の方が6.7ポイント高くなっています。

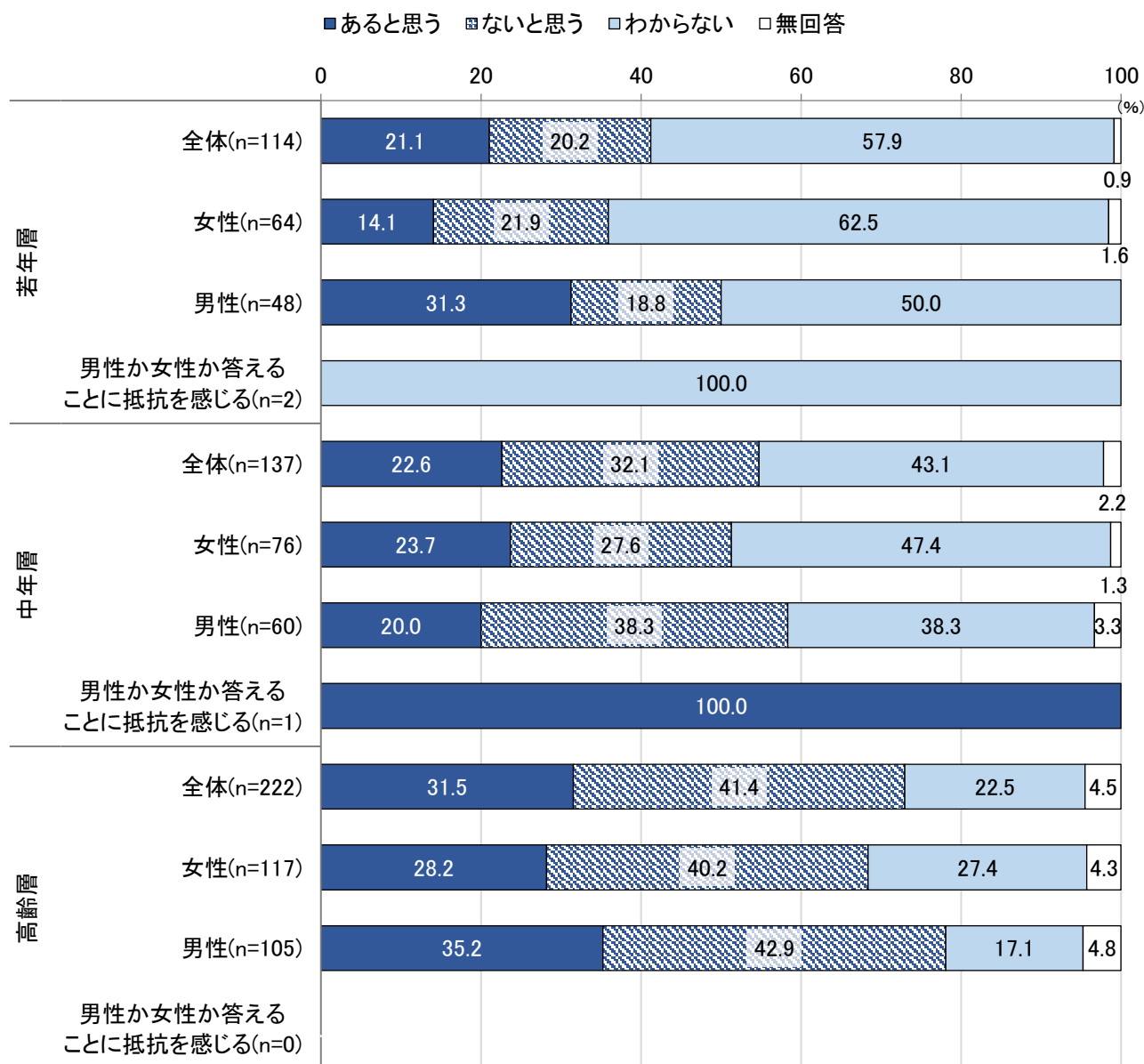
前回調査と比較すると、「あると思う」は15.0ポイント減少し、「ないと思う」は6.0ポイント増加しています。

地域活動等において男女共同で参加しにくい雰囲気や状況の有無（性別・前回比較）



年齢層別でみると、若年層と中年層では「わからない」、高齢層では「ないと思う」の割合が最も高くなっています。「あると思う」と「ないと思う」は年齢が上がるにつれて高くなっており、「わからない」は年齢が上がるにつれて低くなっています。

地域活動等において男女共同で参加しにくい雰囲気や状況の有無（年齢層別）



<「あると思う」と答えた方におたずねします。>

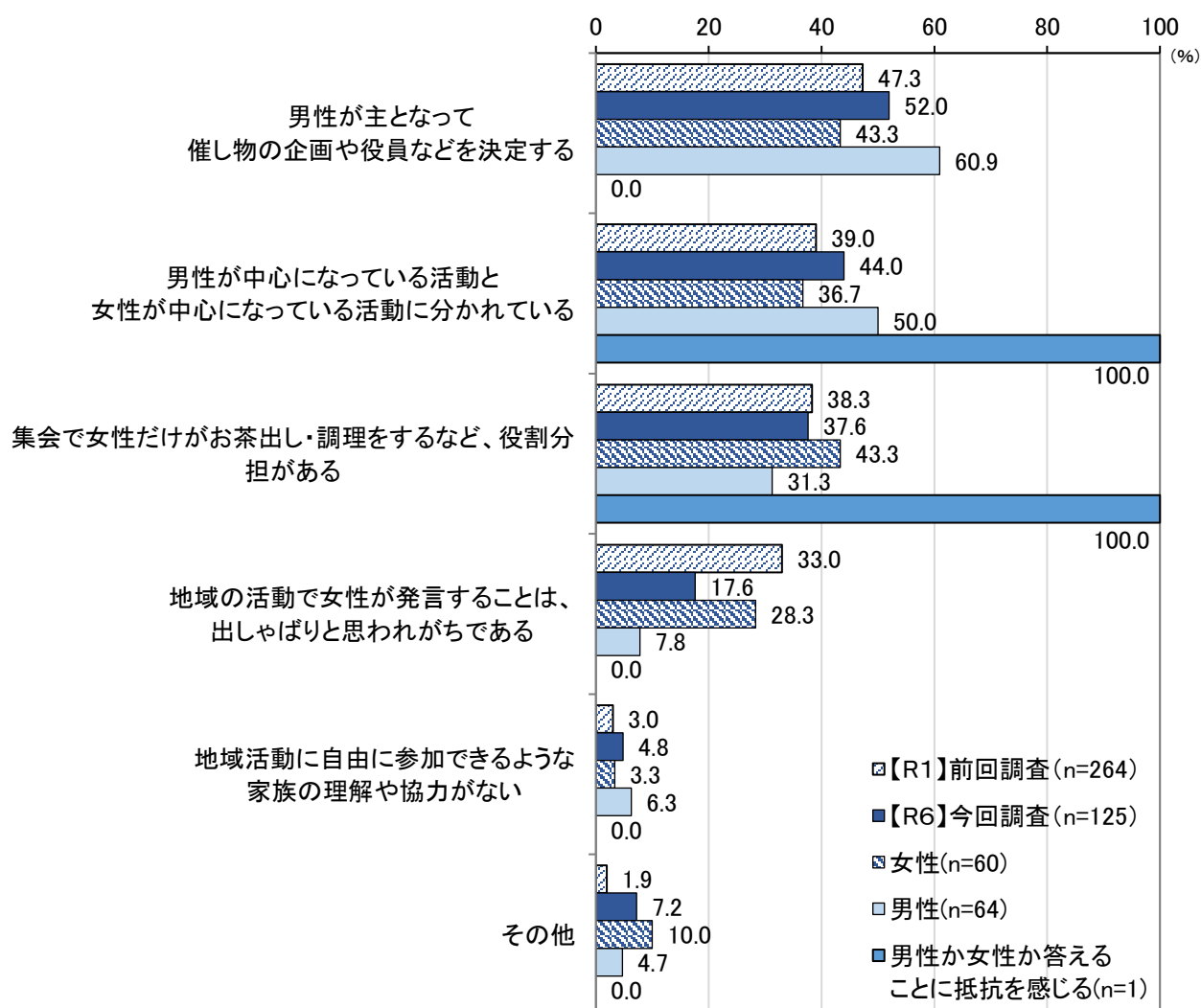
問23ー1 それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。(〇は2つまで)

地域活動等において男女共同で参加しにくい雰囲気や状況について、全体でみると、今回調査では「男性が主となって催し物の企画や役員などを決定する」が52.0%と最も高く、次いで「男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」が44.0%、「集会で女性だけがお茶出し・調理をするなど、役割分担がある」が37.6%となっています。

性別でみると、「男性が主となって催し物の企画や役員などを決定する」では女性が43.3%、男性が60.9%と男性の方が17.6ポイント高く、「地域の活動で女性が発言することは、出しゃばりと思われがちである」では女性が28.3%、男性が7.8%と女性の方が20.5ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「地域の活動で女性が発言することは、出しゃばりと思われがちである」が15.4ポイント減少しています。

地域活動等において男女共同で参加しにくい雰囲気や状況（性別・前回比較）



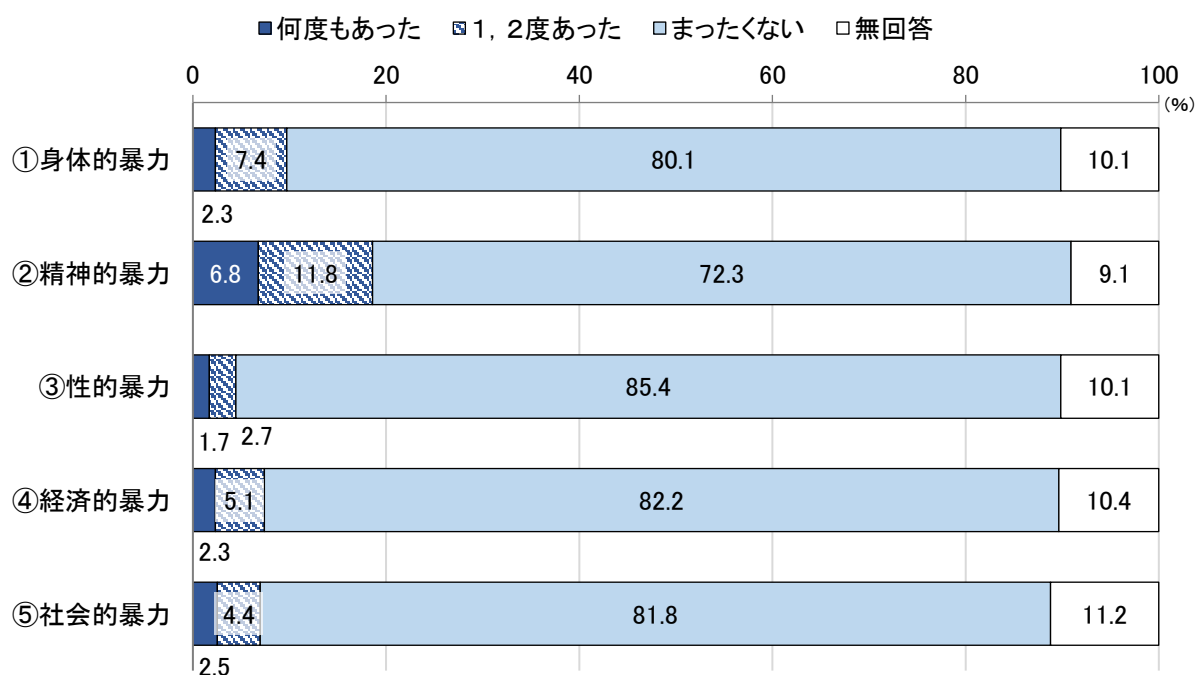
7. DVについて

※DV…性別にかかわらず、配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振られる暴力

問24 あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親密な人間関係にある人との間で、次の①～⑤のようなことを受けたことがありますか。(○は1つずつ)

DVを受けた経験について、いずれの項目においても「まったくない」が最も高くなっていますが、②精神的暴力については「何度もあった」と「1, 2度あった」の合計が18.6%と比較的高い割合となっています。

DVを受けた経験の有無（全体）



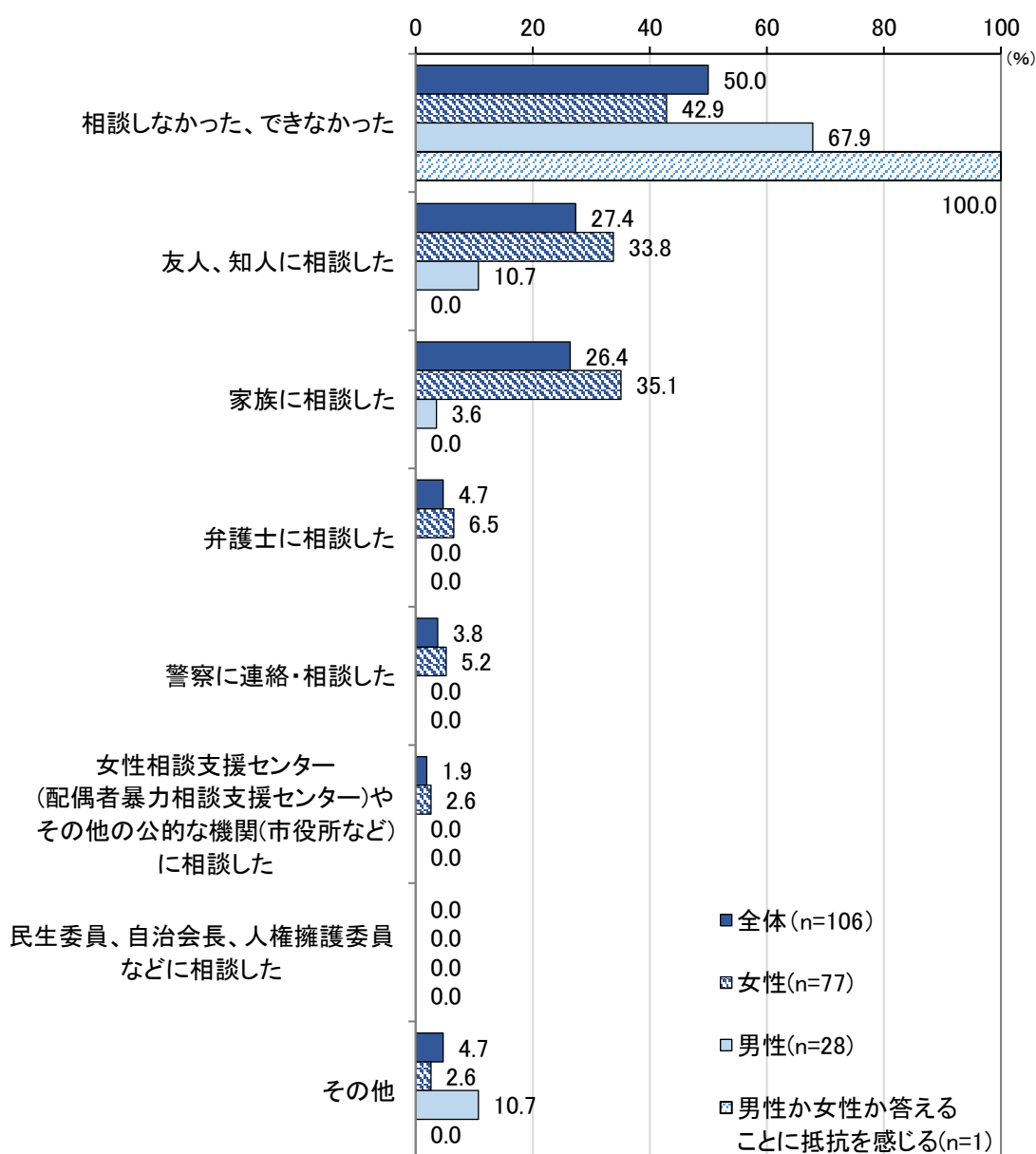
＜問24で1つでも「されたことがある」と答えた方におたずねします。＞

問24-1 あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものの全てに○）

DVの相談状況について、全体でみると、今回調査では「相談しなかった、できなかった」が50.0%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が27.4%、「家族に相談した」が26.4%となっています。

性別でみると、「相談しなかった、できなかった」では女性が42.9%、男性が67.9%と、男性の方が25.0ポイント高くなっており、「家族に相談した」では女性が35.1%、男性が3.6%と、女性の方が31.5ポイント高くなっています。

DVについての相談状況（性別）



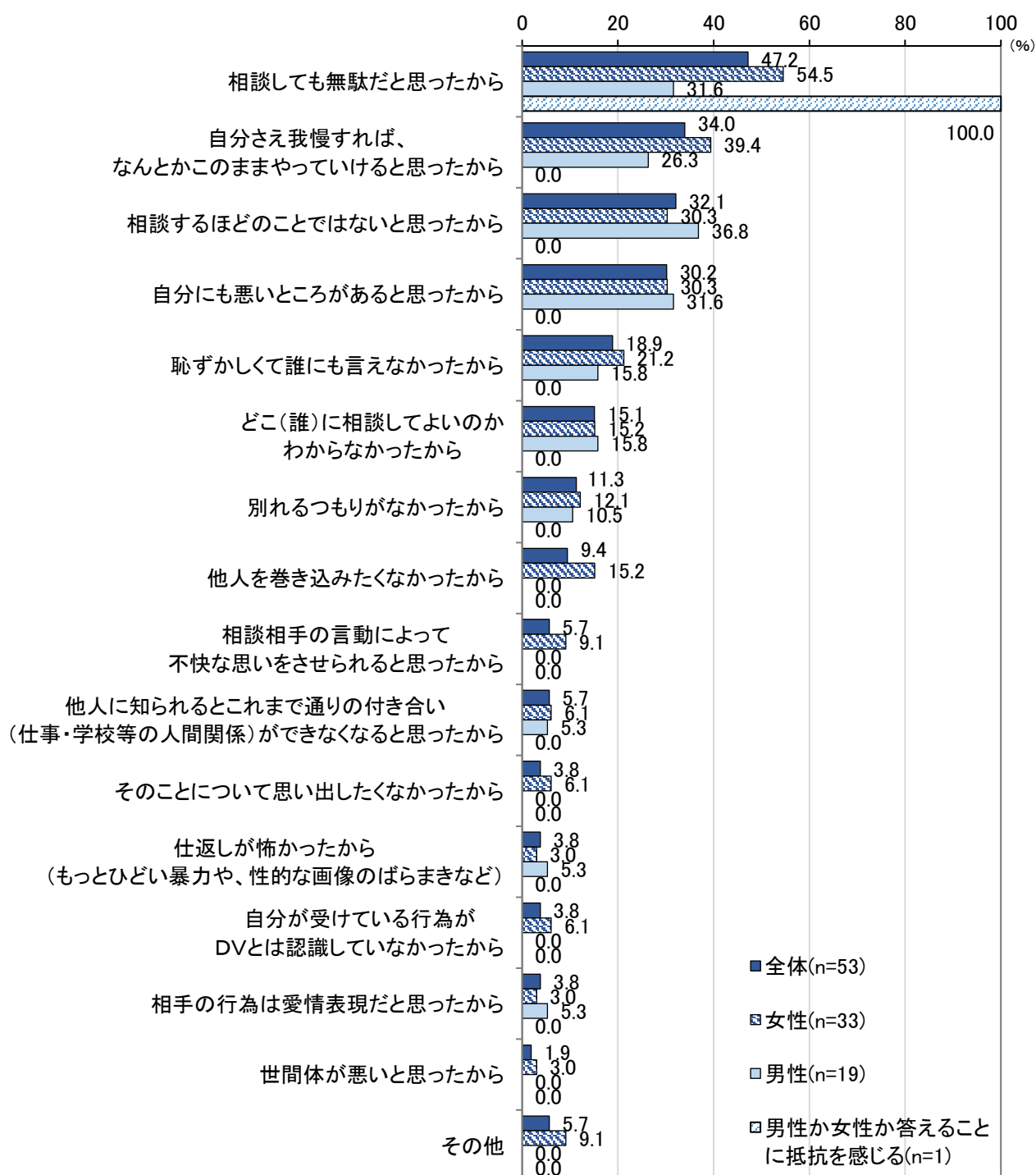
<問24-1で、「相談しなかった、できなかった」と答えた方にお聞きします>

問24-2 どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるもの全てに○）

相談しなかった理由について、全体でみると、「相談しても無駄だと思ったから」が47.2%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が34.0%、「相談するほどのことではないと思ったから」が32.1%となっています。

性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が54.5%、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が36.8%と最も高くなっています。

相談しなかった理由（性別）

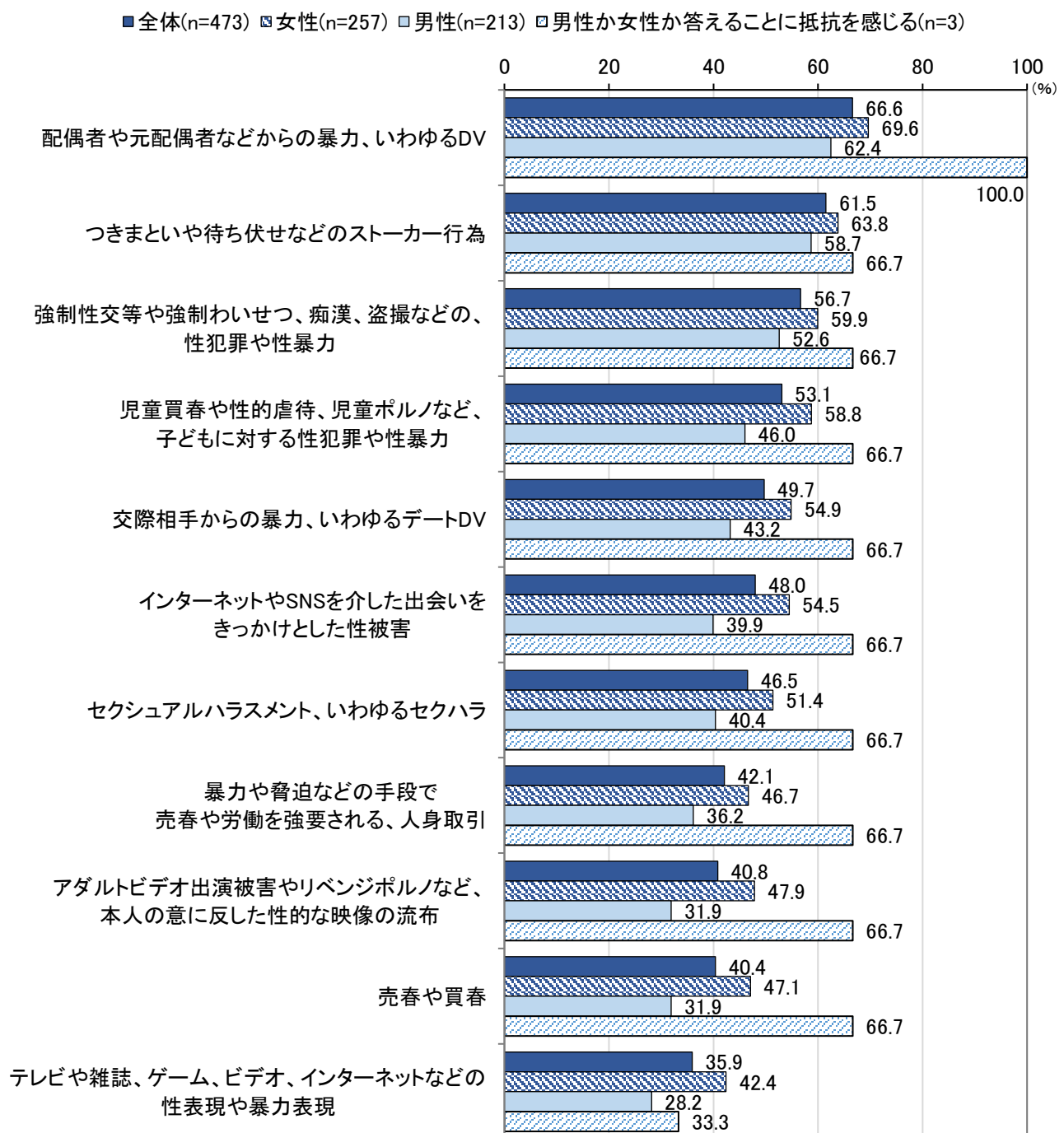


問25 女性に対する暴力の根絶を図るため、あなたが対策が必要だと考えるのはどれですか。
(〇はいくつでも)

女性に対する暴力根絶のために必要な対策について、全体でみると、「配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV」が66.6%と最も高く、次いで「つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為」が61.5%、「強制的性交等や強制わいせつ、痴漢、盗撮などの、性犯罪や性暴力」が56.7%となっています。

性別でみると、すべての項目において女性の方が男性より高くなっており、特に、「アダルトビデオ出演被害やリベンジポルノなど、本人の意に反した性的な映像の流布」では、女性が47.9%、男性が31.9%と、女性の方が16.0ポイント高くなっています。

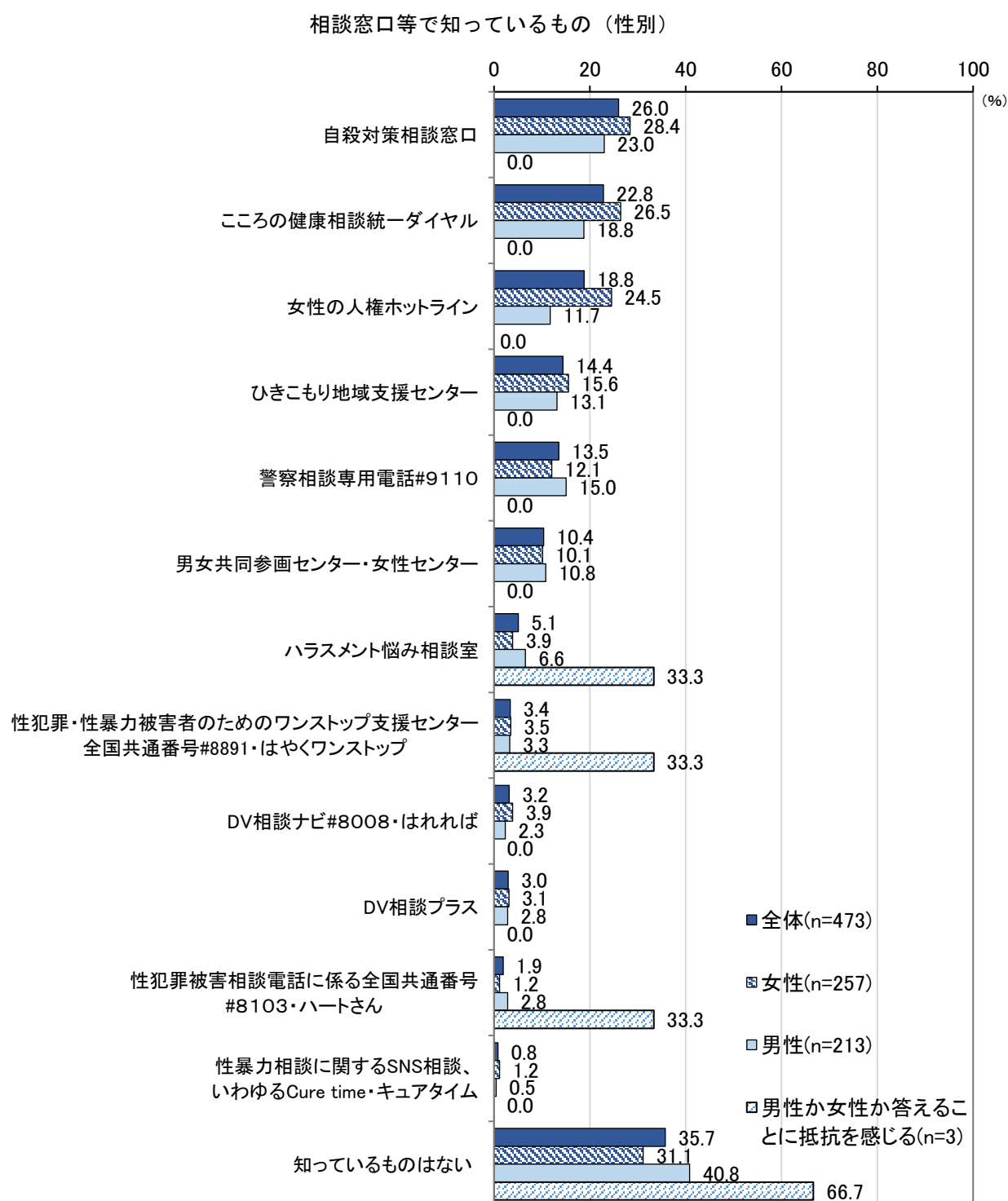
女性に対する暴力根絶のために必要な対策（性別）



問26 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、あなたが知っているものをあげてください。(〇はいくつでも)

相談窓口で知っているものについて、全体でみると、「知っているものはない」が35.7%と最も高く、次いで「自殺対策相談窓口」が26.0%、「こころの健康相談統一ダイヤル」が22.8%となっています。

性別でみると、「知っているものはない」では女性が31.1%、男性が40.8%と、男性の方が9.7ポイント高く、「女性の人権ホットライン」では女性が24.5%、男性が11.7%と、女性が12.8ポイント高くなっています。



8. 政策決定の場への女性の参画について

問27 本市では、令和7年度までに審議会等の女性登用率35%を目指していますが、令和5年4月1日現在は26%という状況です。あなたは、審議会委員の男女比率についてどう思いますか。

※審議会…市の政策や運営方法についての意思決定にあたって設置する諮問機関。

例：日田市男女共同参画審議会、日田市都市計画審議会

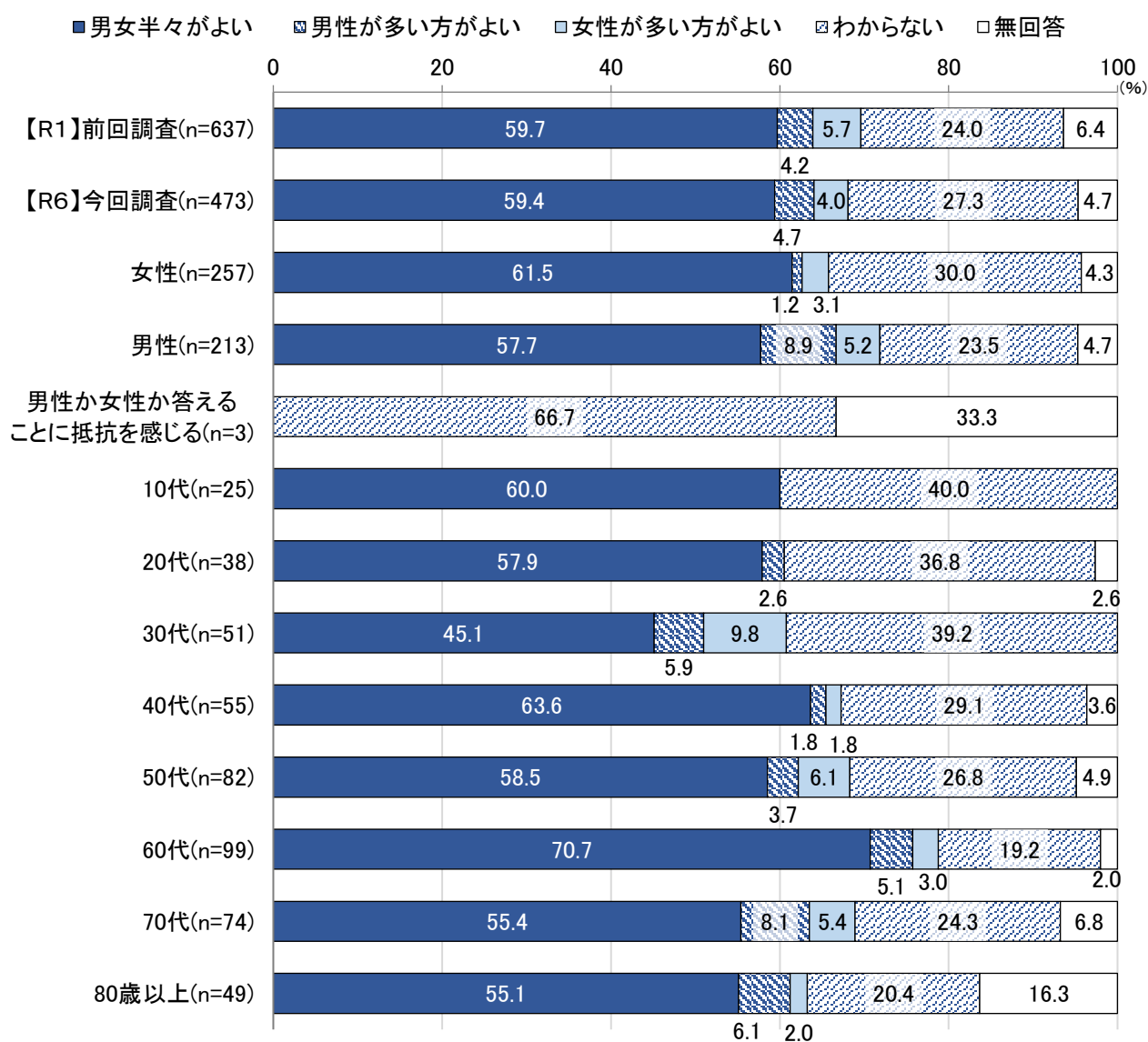
審議会の男女比率について、全体でみると、今回調査では「男女半々がよい」が59.4%と最も高く、次いで「わからない」が27.3%、「男性が多い方がよい」が4.7%となっています。

性別でみると、女性と男性ともに「男女半々がよい」が最も高くなっていますが、「男性が多い方がよい」は女性より男性の方が7.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女半々がよい」は60代の70.7%、「男性が多い方がよい」は70代の8.1%、「女性が多い方がよい」は30代の9.8%が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「女性が多い方がよい」は1.7ポイント減少しています。

審議会の男女比率について（性別・年齢別・前回比較）



問28 あなたは、審議会等に女性委員が少ない理由は何だと思いますか。(〇は2つまで)

審議会等に女性委員が少ない理由について、全体でみると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が43.1%と最も高く、次いで「男性になる方がよいという社会通念がある」が28.3%、「行政に関心のある女性が少ない」が24.7%となっています。

性別でみると「登用に対して女性の認識や理解が足りない」では女性が14.0%、男性が7.0%と、女性の方が7.0ポイント高く、「家族の理解・協力が得られない」では女性が6.2%、男性が11.7%と、男性の方が5.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、いずれにおいても「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高くなっています。また、10代では「会議や決め事に女性が関わる機会が少なく慣れていない」、20代では「男性になる方がよいという社会通念がある」も同率で最も高い割合となっています。

審議会等に女性委員が少ない理由（性別・年齢別）

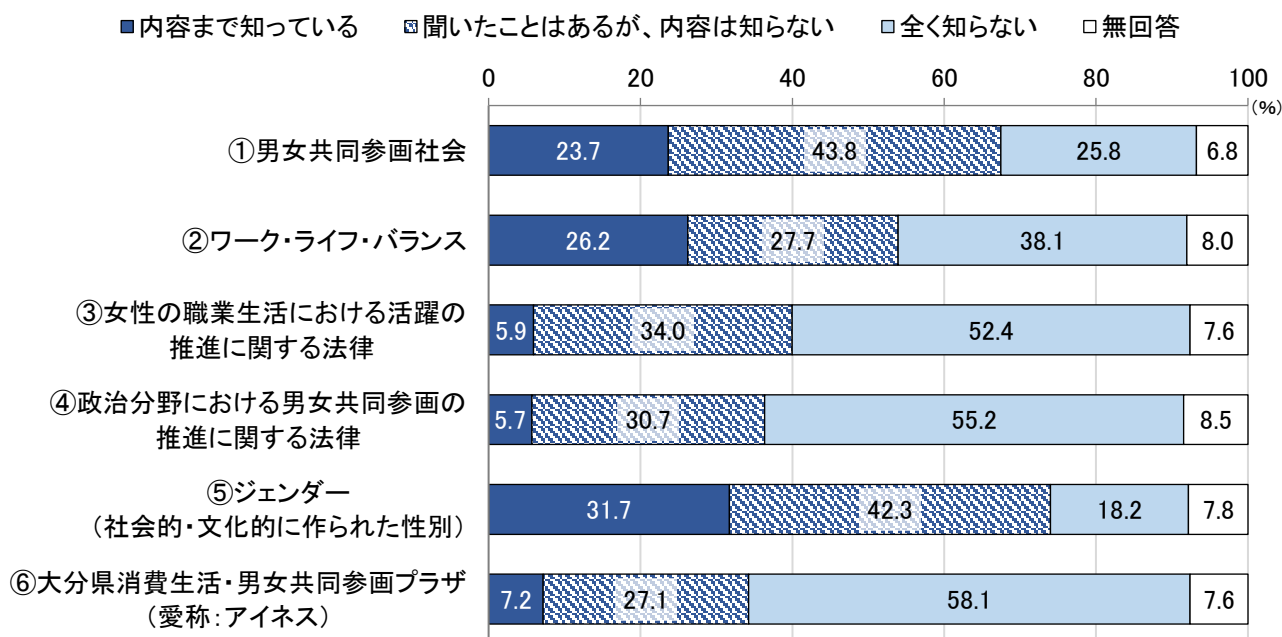
※上段は人数 ※下段は割合		母数	男性優位の社会の仕組みや制度がある	と男性が社会通念がよい（なるものだ）	会議や決め事に女性が関わる機会が少ない	行政に関心のある女性が少ない	登用に対して女性の認識や理解が足りない	家族の理解・協力が得られない	少ない・経済団体の代表者に女性が	その他
全体	全体	473	204	134	93	117	51	41	103	15
			43.1%	28.3%	19.7%	24.7%	10.8%	8.7%	21.8%	3.2%
	女性	257	119	67	49	60	36	16	56	7
			46.3%	26.1%	19.1%	23.3%	14.0%	6.2%	21.8%	2.7%
	男性	213	85	66	43	55	15	25	47	8
			39.9%	31.0%	20.2%	25.8%	7.0%	11.7%	22.1%	3.8%
男性か女性が答えることに抵抗を感じる		3	0	1	1	2	0	0	0	0
			0.0%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10代	25	8	5	8	7	4	1	3	2
			32.0%	20.0%	32.0%	28.0%	16.0%	4.0%	12.0%	8.0%
	20代	38	20	20	6	7	1	1	7	1
			52.6%	52.6%	15.8%	18.4%	2.6%	2.6%	18.4%	2.6%
	30代	51	21	18	8	11	5	7	12	4
			41.2%	35.3%	15.7%	21.6%	9.8%	13.7%	23.5%	7.8%
	40代	55	28	17	6	22	2	7	11	2
			50.9%	30.9%	10.9%	40.0%	3.6%	12.7%	20.0%	3.6%
	50代	82	40	24	21	17	7	5	20	1
			48.8%	29.3%	25.6%	20.7%	8.5%	6.1%	24.4%	1.2%
	60代	99	40	29	17	22	20	13	22	2
			40.4%	29.3%	17.2%	22.2%	20.2%	13.1%	22.2%	2.0%
	70代	74	29	11	21	16	5	4	18	3
			39.2%	14.9%	28.4%	21.6%	6.8%	5.4%	24.3%	4.1%
	80歳以上	49	18	10	6	15	7	3	10	0
			36.7%	20.4%	12.2%	30.6%	14.3%	6.1%	20.4%	0.0%

問29 あなたは次の項目について知っていますか。(各項目〇は1つ)

- ①「男女共同参画社会」とは、「男だから」「女だから」に関係なくお互いに人として認め合い、支え合いながら、自分のやりたいこと、好きなことができる誰もが自由で生き生きと活躍することができる社会のことです。
- ②「ワーク・ライフ・バランス」とは、生活の充実によって仕事がかどりうまくなる。仕事がかどれば私生活も潤うといった生活と仕事の相乗効果のことです。(仕事と生活の調和)
- ③「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」とは、仕事をしている(しようとしている)女性が、自らの意思を大切にしながら仕事と家庭生活や地域での活動を両立しやすいように設けられた法律です。
- ④「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」とは、衆議院、参議院および地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指したもので、国や地方公共団体、政党の責務、努力が示されたものです。
- ⑤ジェンダーとは、男性・女性であることに基づき定められた社会的属性や機会、女性と男性、女兒と男兒の間における関係性、さらに女性間、男性間における相互関係を意味します。
- ⑥大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」は、消費生活や男女共同参画社会づくりに関する活動をはじめ、県民の皆さんの自主的な社会貢献活動を支援する大分県が運営する施設です。

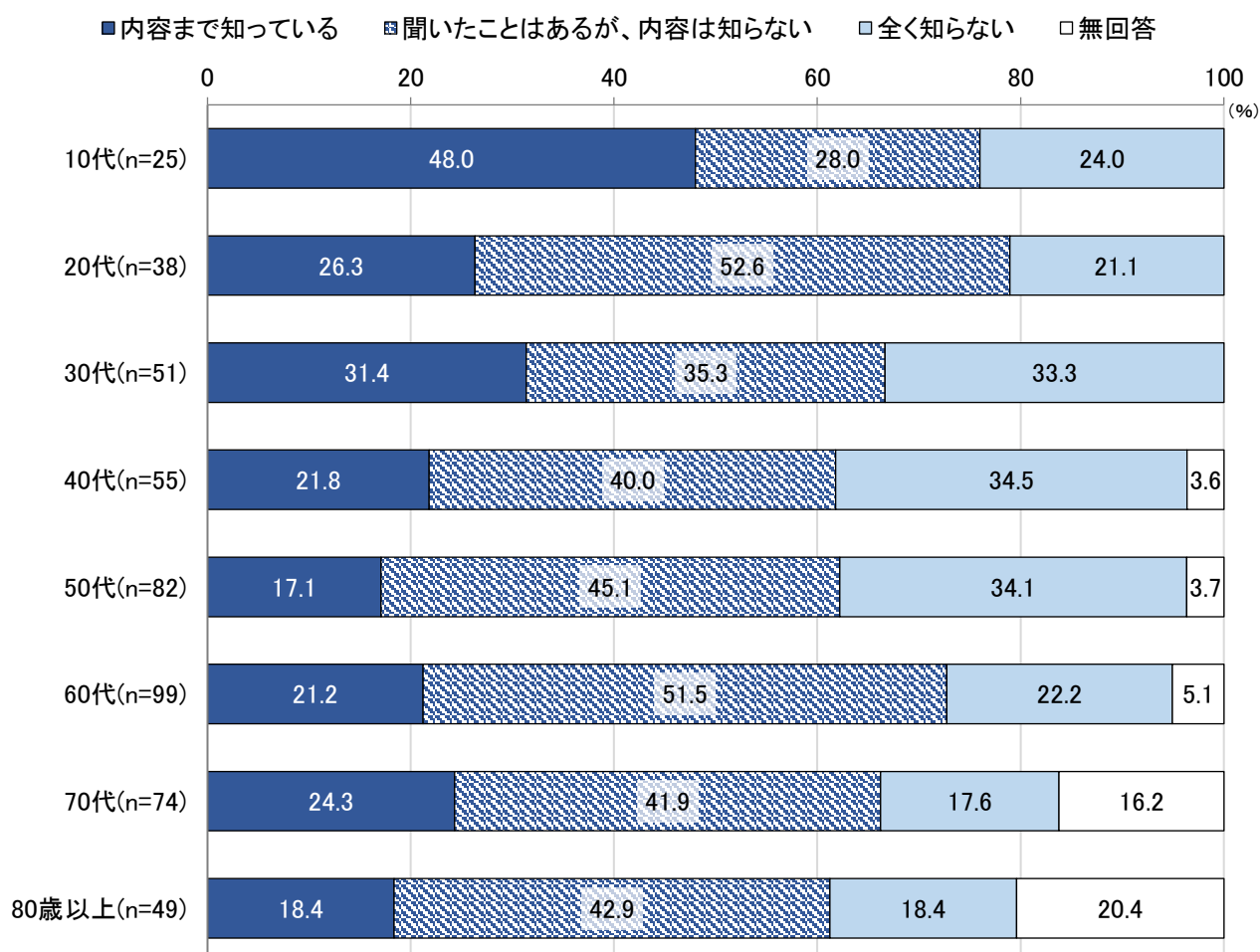
各項目を知っているかについて、「内容まで知っている」の割合が最も高いのは「⑤ジェンダー」の31.7%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が最も高いのは「①男女共同参画社会」の43.8%となっています。一方で「全く知らない」の割合が最も高いのは「⑥大分県消費生活・男女共同参画プラザ」の58.1%となっています。

各項目について知っているか(全体)



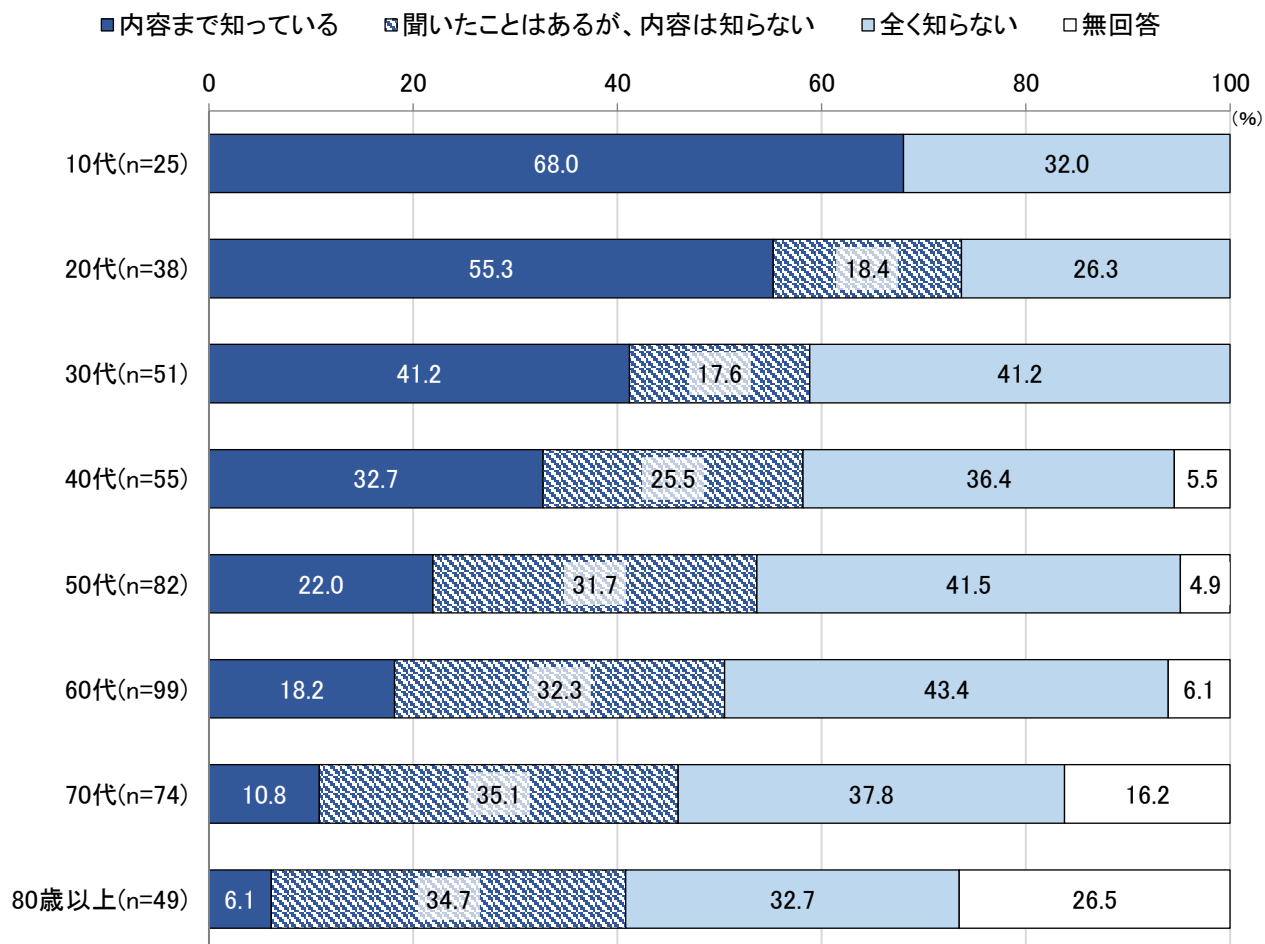
男女共同参画社会について、年齢別でみると、「内容まで知っている」が最も高いのは10代の48.0%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が最も高いのは20代の52.6%となっています。一方で、「全く知らない」が最も高いのは40代の34.5%となっています。

男女共同参画社会（年齢別）



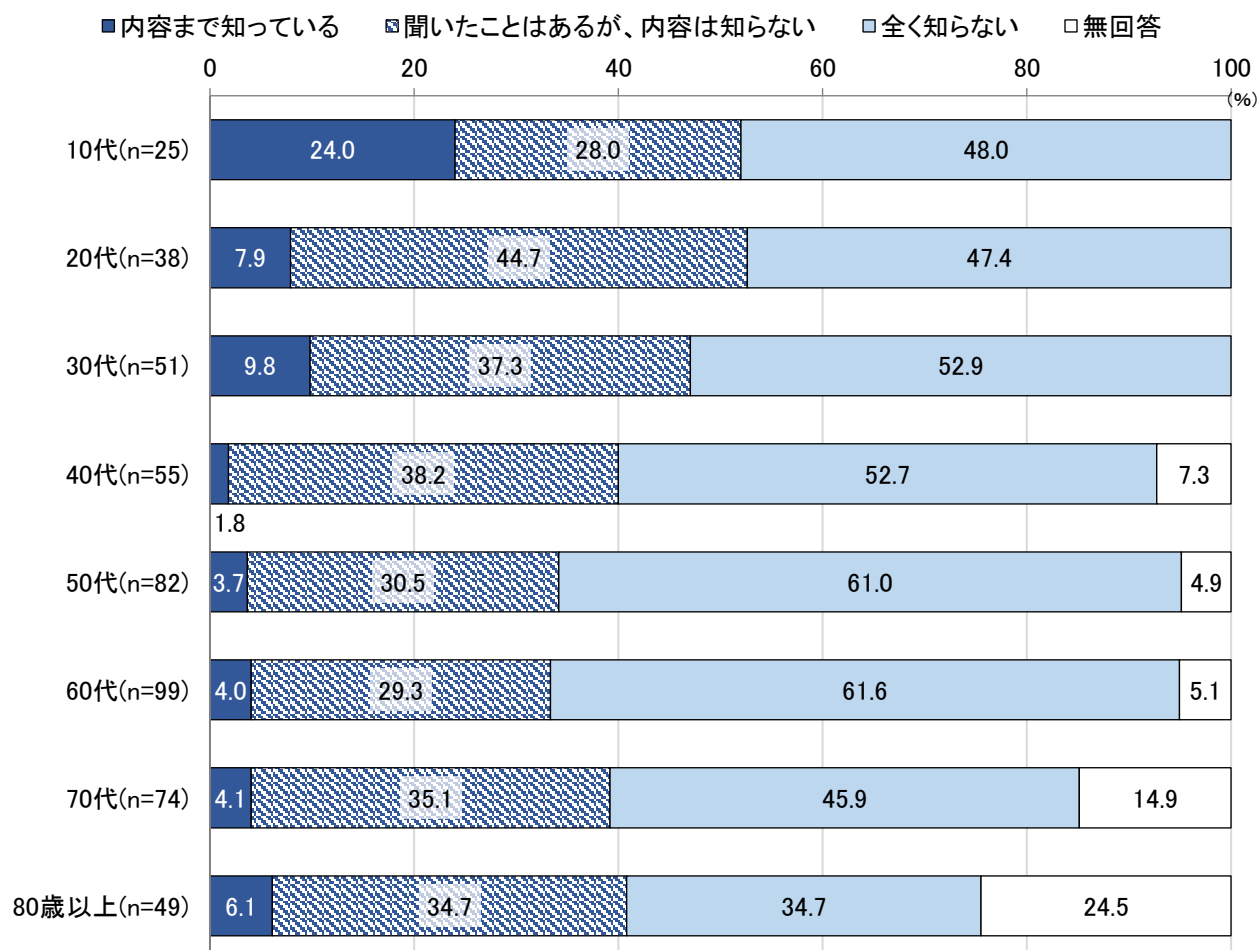
ワーク・ライフ・バランスについて、年齢別でみると、年齢が下がるにつれて「内容まで知っている」の割合が高くなっており、10代では68.0%となっています。また、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が最も高いのは70代の35.1%、「全く知らない」の割合が最も高いのは60代の43.4%となっています。

ワーク・ライフ・バランス（年齢別）



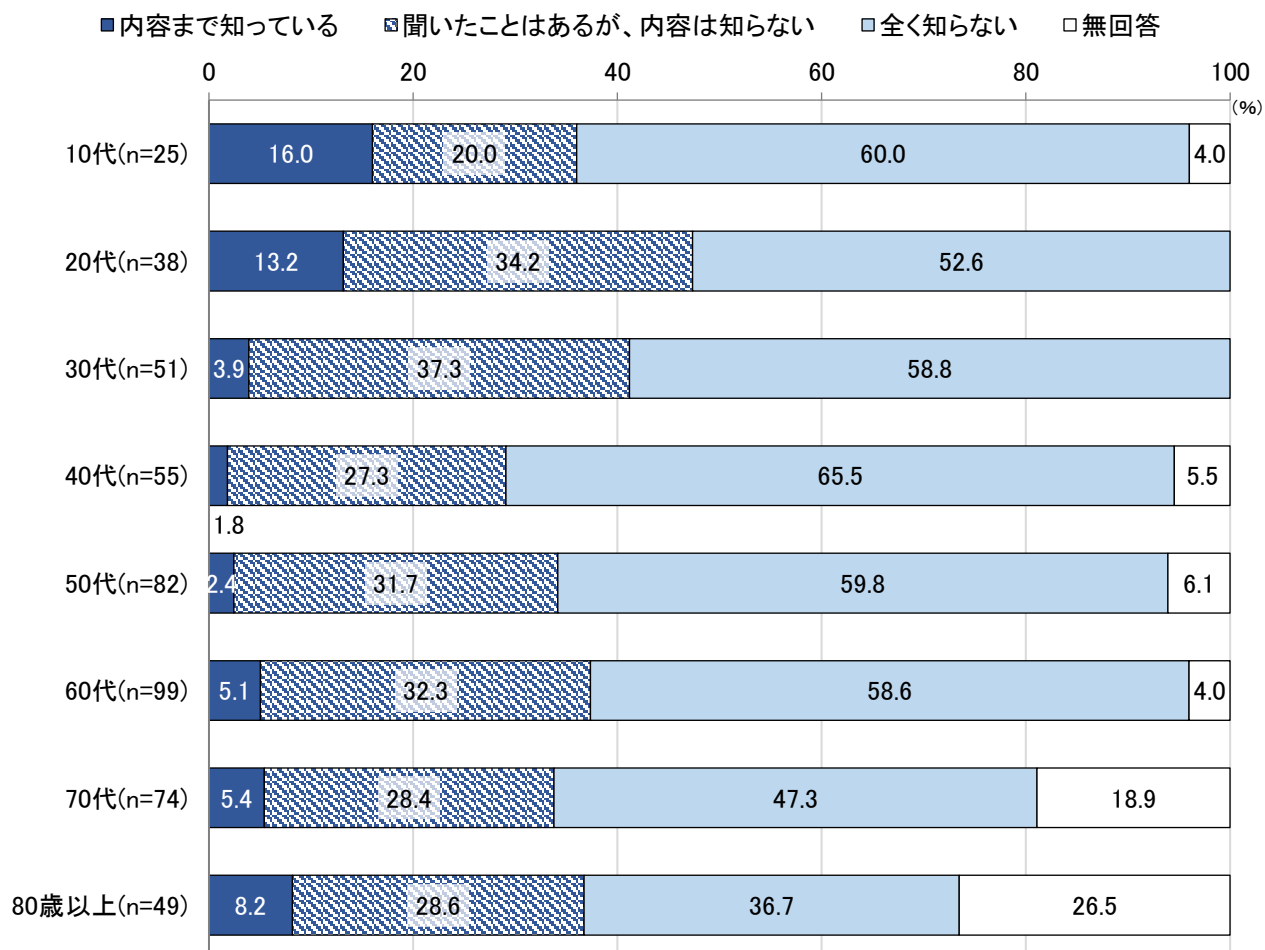
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律について、年齢別でみると、80歳以上を除いた全ての年齢で「全く知らない」の割合が最も高くなっています。「内容まで知っている」の割合が最も高いのは10代の24.0%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」割合が最も高いのは20代の44.7%となっています。一方で、「全く知らない」の割合が最も高いのは60代の61.6%となっています。

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（年齢別）



政治分野における男女共同参画の推進に関する法律について、年齢別でみると、いずれにおいても「全く知らない」の割合が最も高くなっています。「内容まで知っている」の割合が最も高いのは10代の16.0%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」割合が最も高いのは30代の37.3%となっています。一方で、「全く知らない」の割合が最も高いのは40代の65.5%となっています。

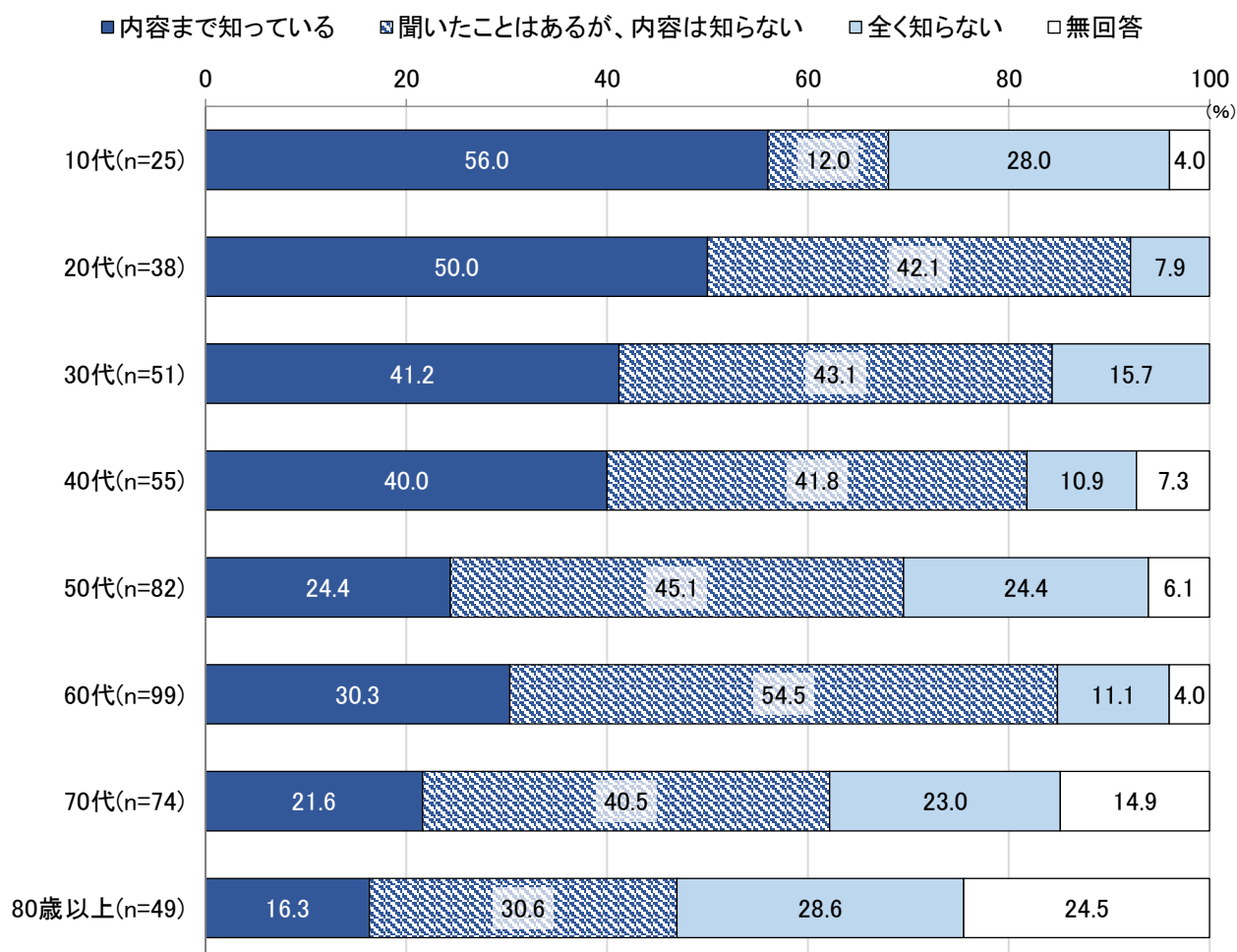
政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（年齢別）



ジェンダーについて年齢別でみると、年齢が下がるにつれて「内容まで知っている」の割合が高くなる傾向にあります。

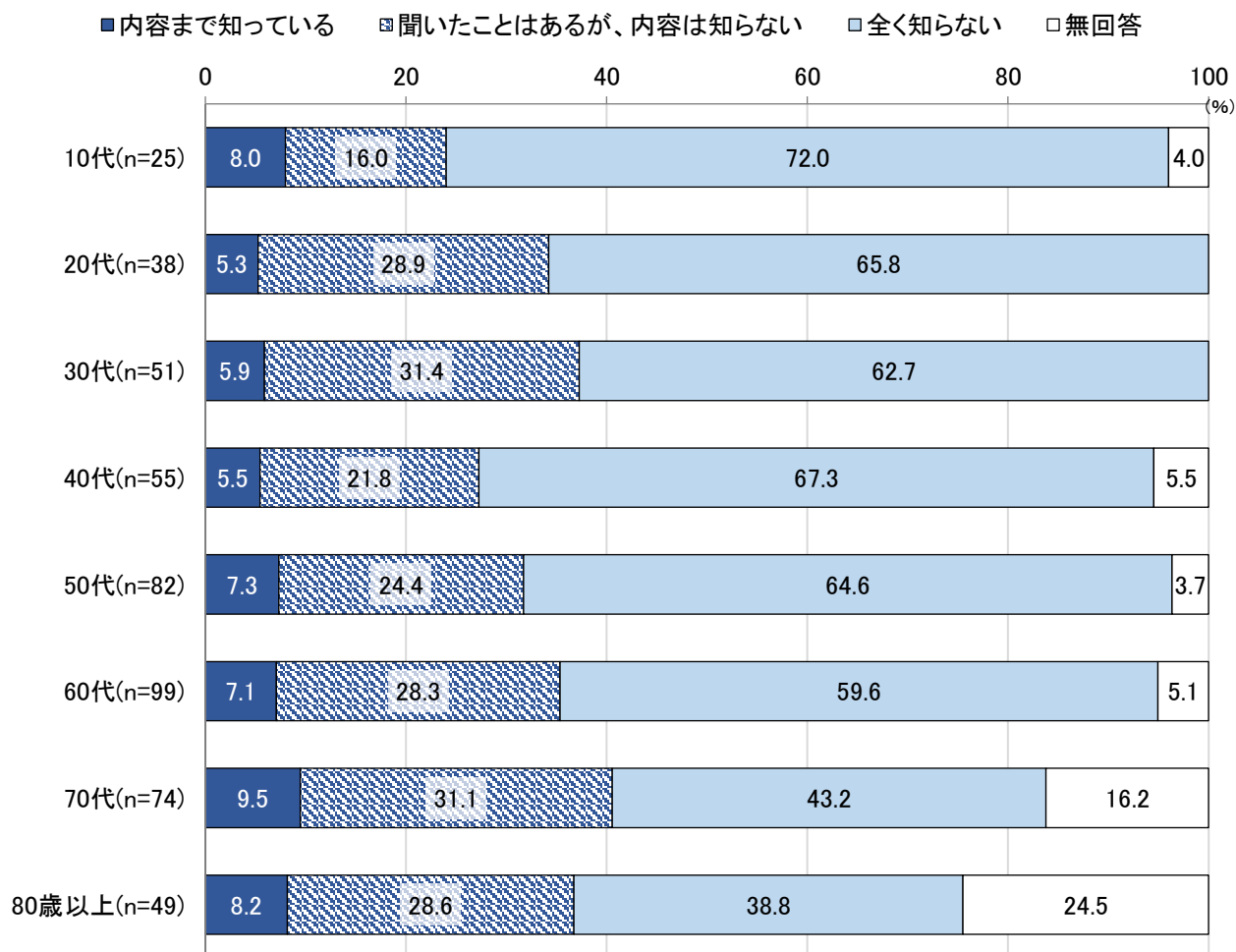
「内容まで知っている」の割合が最も高いのは10代の56.0%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が最も高いのは60代の54.5%となっています。一方で、「全く知らない」の割合が最も高いのは80歳以上の28.6%となっています。

ジェンダー〈社会的・文化的に作られた性別〉（年齢別）



大分県消費生活・男女共同参画プラザについて、年齢別でみると、いずれにおいても「全く知らない」の割合が最も高くなっています。「内容まで知っている」の割合が最も高いのは70代の9.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が最も高いのは30代の31.4%となっています。一方で、「全く知らない」の割合が最も高いのは10代の72.0%となっています。

大分県消費生活・男女共同参画プラザ〈愛称：アイネス〉（年齢別）



問30 あなたは、男女共同参画社会の実現のために、今後どのような取組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女共同参画社会実現のために必要な取組について、全体でみると、今回調査では「男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援」が45.2%と最も高く、次いで「男女が共に家庭や地域で活動しやすい環境づくり」が41.9%、「男女の男女共同参画に対する意識改革の促進」が37.8%となっています。

性別でみると、女性では「男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援」が52.5%、男性では「男女が共に家庭や地域で活動しやすい環境づくり」が43.2%と最も高くなっています。年齢別でみると、10代～30代では、「男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援」の割合が最も高くなっています。

男女共同参画社会実現のために必要な取組（性別・年齢別）

※上段は人数 ※下段は割合		母数	意識改革の男女共同参画に対する促進	女性の能力向上のための学習・研修の充実（女性力リダーの育成）	女性の就業支援のための情報提供や職業訓練	被害者に対する暴力の根絶と救済対策	男女が共に家庭や地域で活動しやすい環境づくり	男女が共に仕事と子育て・介護などを両立できる支援	男女が共に働きやすい環境づくり	子どもの頃から男女平等教育の推進	定期的な性別役割分担意識を解消するための学習・研修の充実	企業や行政機関等に女性の登用を促進、各審議会委員等女性の職や管理職を推進	その他
全体	全体	473	179	80	63	65	198	214	169	96	51	68	6
			37.8%	16.9%	13.3%	13.7%	41.9%	45.2%	35.7%	20.3%	10.8%	14.4%	1.3%
	女性	257	95	37	30	36	104	135	89	60	32	32	2
			37.0%	14.4%	11.7%	14.0%	40.5%	52.5%	34.6%	23.3%	12.5%	12.5%	0.8%
男性	男性	213	83	43	33	29	92	77	78	35	19	36	4
			39.0%	20.2%	15.5%	13.6%	43.2%	36.2%	36.6%	16.4%	8.9%	16.9%	1.9%
男性か女性が答えることに抵抗を感じる	男性か女性が答えることに抵抗を感じる	3	1	0	0	0	2	2	2	1	0	0	0
			33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10代	25	10	1	4	5	10	13	12	4	2	2	1
			40.0%	4.0%	16.0%	20.0%	40.0%	52.0%	48.0%	16.0%	8.0%	8.0%	4.0%
	20代	38	17	5	5	3	17	18	17	7	4	2	2
			44.7%	13.2%	13.2%	7.9%	44.7%	47.4%	44.7%	18.4%	10.5%	5.3%	5.3%
	30代	51	14	8	11	10	24	30	24	6	6	8	1
			27.5%	15.7%	21.6%	19.6%	47.1%	58.8%	47.1%	11.8%	11.8%	15.7%	2.0%
	40代	55	16	10	5	9	28	27	23	13	5	8	1
			29.1%	18.2%	9.1%	16.4%	50.9%	49.1%	41.8%	23.6%	9.1%	14.5%	1.8%
	50代	82	34	16	15	17	26	33	25	17	5	12	0
			41.5%	19.5%	18.3%	20.7%	31.7%	40.2%	30.5%	20.7%	6.1%	14.6%	0.0%
	60代	99	37	15	13	10	43	44	35	25	16	17	0
			37.4%	15.2%	13.1%	10.1%	43.4%	44.4%	35.4%	25.3%	16.2%	17.2%	0.0%
	70代	74	32	9	6	8	33	32	18	13	10	9	1
			43.2%	12.2%	8.1%	10.8%	44.6%	43.2%	24.3%	17.6%	13.5%	12.2%	1.4%
	80歳以上	49	19	16	4	3	17	17	15	11	3	10	0
			38.8%	32.7%	8.2%	6.1%	34.7%	34.7%	30.6%	22.4%	6.1%	20.4%	0.0%

9. その他の意見・自由意見

問 4 あなたの職業

その他

会社経営、代表取締役
代表取締役
尼僧
ヘルパー
SNS インフルエンサー

問 10 男性と女性が共に家事・育児・介護・地域活動等に参加するためにはどのようなことが必要か

その他

男女差別をなくす
旧郡部なので男社会ですが、老人が亡くなり崩れていってます。
互いを思いやる。愛する人と結婚出来ればできることと思います。
話し合って決める
収入は男性が多いので、仕事は男性、家庭は女性になりやすい。
学校におけるシミュレーション教育。具体的にどのように動くのか体験させるべき。
税金負担軽減。1ヶ月1人当たり約5~6万円ひかれます。住民税やガソリン税、所得税見直されるだけで随分変わって楽になると思います。
社会レベルというよりは、個人レベルでのコミュニケーションが必要だと考える。便宜上男女と括っているのだろうが、それすらも疑問を覚える。
所得の平等、及び残業の平準化。
具体的な政策を行う前に、経済対策をするべきだと感じる。結果、お金が無ければイライラするし余裕が無いから不満が出ている。沢山のお客様の家庭環境を見ているが若い夫婦で円満な夫婦は、高収入か両親が高収入。それ以外はどんな家庭も少しの事でイライラしている。

問 11 あなたと仕事の関係

その他

途中障がい者になったため。
まだ研修生の段階
在学したまま働いている。
育児休暇中

問 12-1 職場では女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思うと答えた方で、具体的にどのようなことか

その他

力仕事が多い現場では仕方がないと思うが。
掃除は女性という意識が強い。
男性はすぐ正社員になるが女性は正社員にしない。

問 13 仕事と家庭生活両立のために、どのようなことが必要か

その他

支援施設の申込み、すぐには入れない。料金の高さ。
田舎のため、まだまだ女が家の負担が強すぎるので 50～60 代の方の固定観念をどうにかしてほしい。
高齢者や社会的弱者に保証が手厚過ぎて、平均層はお金の面で苦労し過ぎている。どんな政策をしようが収入面を解決しないと何をしても無駄だと感じる。
社会的風土、風潮の変革の推進。
質問の設定が、公務員・大手企業の社員のようで、低所得者には向いていない。

問 15 育児休業を取ることにについて

その他

育児休業も有休の内であれば、いくらでも取って良いと思う。もちろん職場に迷惑のない程度。
休業者の周囲の人への負担軽減も考える必要があると思う。
育児する人がいない。
男性が育児休業をとっても育児をあまりしないただの休暇となった人を知っている。
全ての業界において人材不足な現状で企業にその責任を押し付けても解決しない。それよりも企業で働きながら企業で子育てを出来る環境を整備するべき。
男性が育児休業を取って育児するなら問題ないが何もしないなら取らない方がいい。
育児休暇を検討できない世帯を無視している。

問 16 男性が育児休業を取りづらい理由

その他

女性に比べ家庭での役割がどうしても少ないからでは。
仕事を怠けている、さぼっていると思われる風潮がある。
母乳を与えるためには母親が育休を取るのが効率的。
取っても役に立たないこともある。
男性の仕事と家庭生活、育児の優先意識。
政治体制の問題。法律を具体的に作り、経済的に問題ない割合で作れば良い。8～9割にすれば増えると思う。
まず情報がない。企業等にポスター配布などをした方が良いと思います。
そもそも収入が低い人が取れる訳がない。社会や企業が一体となっていないと無理だと断言出来る。今の若者に全てを押しつけて行く考えがよく分からない。
育児休暇を検討できない世帯を無視している。
男性は子どもが生まれた後の方がどちらかといえば大変だと思うが、女性は妊娠中から人をもう一人抱えて生活をするなど、育児は女性の方が色々大変なのではという（潜在）意識があると思うから。
男性本人がそもそもとる必要が無いと考えている。

問 17 介護休業を取ることにについて

その他

介護保険を上手に使って行政、介護サービスに助けてもらえば良いと思う。
休業手当が出るのならば取することに賛成。
自営業は休業出来ない。
介護は先が見えないので老健施設が充実してほしい。

介護はプロに任せたい。自営業には難しいと思う。
そもそも給与補償がないなら無理。職場にないため現実には難しい。
介護休業の内容について知らない。
理想は性別問わず取るのが良いが、それにより雇用側の売上、人材が確保できれば。
親の介護をしている人は、金銭面も精神面も疲労困憊している。その様な状態を推進して行く政策は愚策だと思う。年金や保証を行うくらいなら介護や特老などの企業に手厚い補助を行った方が雇用の創出出来るし介護鬱にならずに済むと思う。また高齢者特区や現役世代特区で区画して管理すべきだと思う。
介護休業を検討できない世帯を無視している。

問 18 男性が介護休業を取りづらい理由

その他

介護として何をするかなど、日頃からしていないと休んでも意味なし。
男性自身が自分でなく妻などに任せてしまっていると思う。自覚がない。
男性が介護できないのでは。
経験が少ないので専門の人に比べ大変。
男性の仕事と介護の優先意識
介護できる能力がないから。
育児休業と同じで政治体制の問題。法律を具体的に作り、経済的に問題ない割合で作れば良い。8～9割にすれば増えると思う。
女性が取得することが当たり前になっている。
今ならバイトなのでとれる。
介護ができる男性が少ない。介護休業は出産、育児に比べて予想できず予定もはっきりしない。加えて事前に予定しなければならないので介護休業自体が取りにくいと思います。
男性が食事の世話や下の世話の経験や世話することへの抵抗感がある。
仕事のせいにして介護をしたくない。
介護休業が必要な世代は企業の主力。その主力に休暇を与えると中小企業は倒産するのは目に見えている。
介護休暇を検討できない世帯を無視している。
休んで介護に専念し過ぎると、結果的に身体的心理的負担が多くなる(いわゆる「介護疲れ」)ため、時短勤務などを制度設計し、働きながら介護ができる環境整備が必要だと考える。育児も同様。例えば、昼間はデイサービスや訪問介護(昼食支援)を入れることで、10時～16時などの時短勤務が可能。

問 21 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要か

その他

子供に何かあった時や風邪などの時の休みやすい職場環境作り。
利用制限のない祝日や時間の決まりのない保育園。現在困っています。産休による賞与への影響もなしにしてもらいたい。現実的にお金もないともっと苦しい。時間もないのに。そうなる男がもっと働かなくてはいけなくなる。すると女性が家に残り負担が増える。必然的に男は外で女が中での構図が出来上がってしまいます。公務員が金銭的にも権利的にも優遇されすぎです。有休だけでは子どもの体調に合わせられないので企業任せではなく、給与保障されるような対策をほしいです。看護休暇は中小企業では無休対応が多く役に立たない制度です。
子育てですぐ頼れる人が身近にいないと仕事に就いて、続けることはかなり難しい。病気のために休むことの理解を社会全体でしていただく。古い価値観の方の学びなども必要。温かい眼差しが足りない。
企業に対して働きながら会社で子育てできるような政策の支援を行えば必ず実現出来る。

問 22 どのような地域活動を行っているか

その他

本の読み聞かせ
祇園等
近所の草刈り
退職校長会
祇園祭等
スクールガード
交通安全協会、スポーツ団体の活動
町内ボランティア
消防団
同じ病院の人が集まる日楽灯会
町内での高齢者のサロンに参加。会計をしている。
個人的に近隣の清掃
地域のすずめの学校、放課後子供広場等のサポーターの公民館活動。
社会体育活動
民間の地域活動

問 23-1 男女共同で参加しにくいという雰囲気や状況があると思うと答えた方で、どんな雰囲気や状況だと思うか

その他

男女の集まり具合によって参加しやすかったり参加しにくかったりすると思う。
大人の男性（年配）がいない家庭は軽く扱われ、多数決で決め事ができてしまう。意見を言っても全く聞く耳持たない。我慢するか転居するしかない状況。セクハラ、パワハラであることを全く気付いていない。
そもそも男性がそういった活動に積極的でないイメージがある。
町内行事の後に必ず直会があり、ほぼ男性達の酒席の場となっている。
老人のパワー。若者の発言力の無さ。
価値観のずれ。新しいことを受け入れられない。
男性であれ、女性であれ平等に考え行動する人が少ない。
1 人の人の差別から全員に見放されてる。ボランティア等したいのに出れない。

問 24-1 配偶者や恋人など親密な人間関係にある人との間で、暴力をされたことがあると答えた方で誰かに相談したか

その他

そこまで意識してなかった。
我慢した。
時代的に DV など思っていなかった。
なぜ暴言を言ったか、自分の行動と言葉を反省し、自分に非があれば謝る。
専門家に相談、受診した。

問 24-2 配偶者や恋人など親密な人間関係にある人との間で、暴力をされて相談できなかったと答えた方で相談しなかった理由は

その他

自分が悪いかのように言われた。
いつか痛い目に合わせてやと思っていた。
相談できるような精神状態ではなかった。

問 28 審議会等に女性委員が少ない理由

その他

指名する人に認識がない。男性中心。
女性は家事が忙しい。
審議会のメンバーに必ず男女半々になるように規定を設けていないから。
よく分からないが女性の手上げが少ないのでは。
審議会の体制と行政のしがらみ。全部クリーンにすれば良いのでは？
必然的に男は外で女は中での構図が出来上がっているから。
能力がない。
もっと外の世界(他の地域)に触れるべき。沢山出会い沢山話沢山経験すれば社会のおかしな点に気づくし頑張って居る女性や男性が居ることを知るべき。
でしゃばっていると見られるから。
審議会自体の委員の世間情報の不足。低所得者委員が皆無。
適任者に女性が少なかった。

問 30 今後どのような取組が必要か

その他

女性に対する過度な支援。
平等は出来ないと思う。
周知
どれも当てはまらない。
もっと自由に生きる事。
国民・市民で、経済的貧困者の実態を無視したもので、現実を無視した質問設定。

「男女共同参画社会」を実現するための意見

【自由記述】

回答は全部で 104 件ありました。記述内容のカテゴリを以下のように分類し、件数の多かったものから並べています。内容が複数のカテゴリにわたって記載されている場合は、初めに書かれている内容で分類しています。

並び順	記述カテゴリ	件数
1	男女平等について	24
2	教育について	12
3	職場について	9
4	女性や若者の登用について	7
5	子育てについて	6
6	アンケートについて	5
7	支援について	4
8	情報提供・広報・相談窓口について	3
9	家庭について	3
10	その他	31
計		104

1.男女平等について：24 件

男性だから女性だからという偏見をなくすことが最優先だと思います。逆にそういったことを意識しすぎて適切な場所に適切な人材が選ばれない事があっても平等とは言えないと思うので、一人一人の理解が必要だと思います。	10代・女
女性、男性という括りで見ってしまうのがそもそもこの男女平等が実現しないひとつの理由だ。特に九州では女性が男性を全てお世話するのが当たり前でお盆や正月の集まりでは男性はずっと席を立たない。そういうのすごくモヤモヤするし、わたしも座っていたら女なんだから手伝え、片付けろとよく言われます。わたしは男でも女でも手伝うのに女性だから家事やって当たり前で感謝もされない。男性はお酒飲んでたりして楽しそうにグラグラ笑っているのにわたしたちは一生懸命片付けしててすごくなんとも言えない気持ちになる。それに男性がおい、お前お義母さん手伝ってやれよ、と命令して自分は動かないことが多い。女性が家事全般をすることが当たり前という頭になってしまっているの で男女平等にはならないのかなあとも感じます。わたしは今すぐに男女平等の実現は難しいと思うから今高校生の私たちが大人、高齢者になった頃に世代が入れ替わるので変えるチャンスなのかなとも思います学校でも男性には当たりの強い教員がいるし女子生徒には頭や肩等触ってくる教員もいる。そういうことほんとに気持ち悪いからやめて欲しい。	10代・女

田舎は特に古い考えがまだまだ多いと思う。風潮的に男性の育児休暇などは取りにくい環境であるのと、部活のコーチなどをしてる人は1ヶ月休みがないこともよくあり、女性が家事育児を必然的に行うことになる。そうすると、やはり女性が働き方を社員ではなくパートに降り今まで通りには働けなくなるところからやはり、男女平等ではないと感じる。必ず1週間に1回は休みをとらせるなど、今後も工夫が必要だと思う。	20代・女
あまり女性に対して気にせず、自然と生活していく中で男女平等になればいいと思う。	20代・男
単純に能力、実力主義で人選できるところはそれで進めるなど、過剰に「差別だ」、「男（女）だから」とならないような思考をすることで男女共同参画社会に近づくのではと思います。	20代・男
私の職場は最も楽しく男女平等です。こういう職場が増えてほしいです。私の職場は男女差別がありません。	30代・女
男性だからこうしなければならない、女性だからこうしなければならないという考えではなく、一人ひとりの個性や能力を活かし、仕事、家庭など様々な場面で互いに協力していくという意識を持ち、行動していくことが必要であると考えます。社会通念やこれまでの伝統すべてを否定するわけではありませんが、自治会や審議会の委員は男性が明らかに多いと感じています。自分が暮らす地域は性別や年代にとらわれず、自分たちが作っていくものだという認識をもっと多くの人が持てば委員の比率も今後変わっていくのかなと思いました。場合によっては行政側から推薦等して女性登用率を増やすことも一つの方法と考えます。	30代・女
性格形成が行われる幼少期の頃から男女平等の考えを持たせていくことが大事。	30代・男
私は男だから、女だからと差別を受けたことがない。ただ、「男としての役割や男だからできる事」、「女としての役割や女だからできる事」はあると思う。中には男以上に男っぽい女、女以上に女っぽい男はありますが。だから性別を意識せず個性を尊重し合う家庭、世の中だったら良いと思う。また、社会で働いていると女性の方が仕事出来ない時言い訳が激しい様に思える。男性の方が言い訳なく聞き入れてくれる様に思える。その性格の違いが女性進出を妨げている様に思える。	40代・女
日田は男尊女卑の感覚が強い。冠婚葬祭などで特に感じる。	40代・女
「男だからこうあるべき」、「女はこうでなくては」など、性別のくくりで物事を見ないようにしていく認識が必要。ただ、男性に得意な仕事もあれば、女性に得意な仕事もあります。何でもかんでも平等、平等と言わず男性女性が各々力を発揮できるようお互いを尊重できるのが男女間の差別をなくしていくことだと思います。	40代・男
女性に対する性差別だけがクローズアップされがちだが、男性に対する逆差別も多い。「男性ならこう有るべき」という間違った意識の改革も図る必要がある。	40代・男

そもそも男性だから女性だからということで決める事自体が差別を作っているような気がします。男女ではなく一人の人としてこの題材にはこの人の能力や技術、思考がふさわしいという判断が出来る社会になると嬉しいですね。料理が得意で子育ても好きな男性は家庭を支えても OK。仕事をストレスで無理して男性だから外で働かなければならないという時代はもう終わりですね。得意なステージで各々が魅力を発揮して男女ともに認め、輝く人生を創っていきるといいですね。そんな時代になることを願って私も頑張っています。	50代・女
女性が、男性がと言うような言葉を使わなくなる世の中にならないといけない。まだまだ男性優位社会であるし、女性自身がチャンスをつかむ環境が少ないと思います。行政へ関心を持たせる意識改革をしていけたらと思います。	50代・女
改めて色々考えました。難しいですね、男だから女だからというのではなく、私らしく生きて行ければいいのかな。	60代・女
俺が俺が、の男が多いし、それがリーダーシップとされているのが今の世の中、女性がでしゃばると反感をかうので控え目にしているのが女らしいと思われるのが癪にさかります。子供のころから性別に関係なくすべて平等という教えをしていないと変わっていかないような気がします。	60代・女
まずは男女平等。男女比等が同等になったら、男女ではなく個人の意志を尊重できれば良い。	60代・男
なんでも男女平等と言うけれど、男性にしかできないこと。女性にしかできないこともあります。	60代・男
男女お互いが尊敬する事。	60代・男
田舎の男性と女性の差がある。若い人達が地域に関わらず高齢者に行事や役を押し付けるので、同じ人物が関わっているので若い人が頑張って地域を盛り上げてほしい。中年は働き盛り、夫婦が元気な時期まで働くのでなかなか難しいとは思いますが結局仕事もしてない年金者に役が回ってくる。町内の草刈り等もある程度の年齢までと行政で決めてほしい。80歳過ぎても村の行事に参加させるのはどうかと思いますが…。作業が出来る事は元気な証拠でもあるから何とも言えないかな。	70代・女
若い頃、仕事に行っている時、女性だから…と差別を特別に受けた記憶も感じていませので分かりません。	70代・女
一線を退いた私には男女(女男)共同参画は勉強不足もあり現実的に受け取れない。内閣府が市民(企業その他)に問う前に、皇室の問題、長男のこともではなく、男系でなければならないなどこれこそ大問題である。令和6年度版男女共同参画白書を公表したようですが、困難な問題を抱える一人ひとりのニーズに応じた支援。相談支援センターや自立支援施設の機能強化。相談支援員の人材の要請、処遇改善、民間団体と地方公共団体との協力などを推進。女性とか男性とかではなく、人物、評価、勉強会などの開催。誰がどれを選べる社会に。性別ではなく自分の色で未来を描ける社会へ。そして男では?女では?だからなんでしょう?もうやめましょう。	70代・女

まずは家庭から男女平等、共同参画を実行していく。躰は家庭で身につけないと本物にはならない。	70代・男
男女平等、同権という真の意味を理解することが大切だと思います。そのため の手段は数多くあると考えられるので、機会があるごとに勉強、学習していく 必要があるのではないのでしょうか。	80歳以上・女

2.教育について：12件

小さい頃から男女の壁を無くすべき。例えば、学校で「女の子は〇〇だ」「男の子は〇〇だ」ということを教員が言わない。制服をスカート・ズボンで分けない。小さい頃からこのような習慣が着いているとそれが当たり前になってしまうのでできるだけこのような男女の見えない壁は取り払うべきだと思う。	10代・女
学校の授業などで取り扱ってみてもいいかなと思います。	20代・男
シニア世代の女性に対する固定概念が強いと思う(ジェネレーションギャップは仕方ないと思うが)。シニア世代にも男女共同参画社会について教育した方が良いのでは。そもそも政治家に男性が多く、彼らの女性軽視の言動を見る限り参画社会はかなり難しいと思う。	30代・女
学校で生徒が各々の意見や考え、気持ちを話せる場や機会を設けるのはどうだろうかと思う。そして、その場で気持ちや考えを話せない生徒の為に、こういうときは「~と思う」などと言うようにすると良いなど先生方がアドバイスを送る、専門の人を呼んで授業を行うと良いのではと思う。そうすると個性や能力も出やすくなるし、出すことを悩む人は少なくなり、何より暴力などの行動に走る人は少なくなるのではと思う。	30代・女
子育て世代をバックアップするために時間や祝日、正月などに制限がない保育園に開設、運営をととても強く望みます。現役世代が長くなったこと。60代の親は大体働いています。家に残る人もおらず医療や介護は年中無休が多いのに祝日や正月で対応を変えられるとせっかく正社員として頑張っても続けられない大きな原因になります。対応してくれる園には助成金を出す等、市でも促進に貢献できる対応をお願いしたいです。一般市民は土日祝日、正月関係なく働いている人もとても多くいるので、又、マンパワー不足の原因にもなっています。若い人材を求めている中小企業の現場のことももっと想像してもっと理解してください。家庭も大事ですがお金も大事です。	30代・男
子供の頃からの教育。	50代・女
子供の頃から家庭内や学校での教えが必要だと思います。影響を受けやすく人格形成を行っていく過程にて、日常的に、自然に、取り組んでいくことが大事だと考えます。	50代・女

男性の特性、女性の特性は全く違うという事を子供の頃から学びの場を設けて伝えていく。それぞれの特性を生かし協力するという事をまず家庭から夫婦生活を通して子供に教えていく必要があると思う。そのためには経済的にも、社会的にも、医療においても子育て世代から介護する世代全般的にサポートを充実して欲しい。人との関わりが希薄となっているため、コミュニケーションを取れる場をもっと増やす事も大事ではないかと思う。	50代・女
男性、女性である以上ある程度の差別はあって当たり前。それに救われている人もいます。ただ、今の子供達がお金のない事などで持っている力を発揮出来ないのはかわいそうだと思います。能力を育てる環境、設備があればと思います。	60代・女
男性の家事、育児、介護などの参加を進める。子どもの頃からの教育や参加が必要だと思いますし、参加していない、やった事がないという男性が多すぎると思います。	60代・女
教育の面で障がいについて色々な種類の行動を学習してほしい。	60代・男
小さい頃からの教育	60代・男

3.職場について：9件

もし職場などでハラスメントを受けていて相談できる人はいいが相談する勇気のない人はどうしたらいいか？相談できない人でも相談できるような対策の施策を市がしてほしい。	20代・男
適材適所	30代・女
公務員や大企業ではどんどん切り込んでいけると思う。けれども日田の中小企業の中身はひどいものです。連れはパワハラ、モラハラの日々ですが、退職金のためにと耐えています。そのような中で家事や育児を強く願うことはできません。中小企業への制度がしっかりなされると良いです。早急に。	40代・女
職場では、まだまだ管理職と言われる方は男性が多い。もっと女性が活躍できる能力を発揮できる場を作って欲しい。また、労働賃金の差が男女にはある社会です。女性でもこれまでの男性が出世している企業作りも行うべきであると思います。	40代・女
女性が働きやすい職場環境づくりが大事だと思う。	50代・男
長く職場にいるから昇進するというのではなく、能力で上に行けるように上司の能力が問われていると思う。	60代・女
女性が働けば未婚、晩婚、少子化が進む現状にある。週休二日制、男女共に休みが取りやすい職場環境の推進、意識改革が必要と思う。	60代・男

職場では配偶される所が本人の希望と能力が発揮できる人事をすること。男だから女だからという偏見と男性優位という考えを正す社員や担当者の教育。学校では苦手、得意を認め合う道徳教育の重視。人のあらさがしや人を見下して自分優位という思考を作らせない。教員の資質や人間性向上の研修の実施。地域では男性と女性の参加行事の中で仲良く役割分担する。気配りを役員やお世話係にお願いする。家庭では料理の片づけなどの炊事、洗濯、掃除を分担して行うようにパンフレット等の配布。男女だけでなく、子ども、年寄りにもできる所を分担し、一人に負担がかからないようにすることが大切ということを周知していく。	60代・男
男性のいる職場で働いた事はないですけど、やっぱり男性が上司であってほしいです。男の仕事、女の仕事は昔からあると思います。今の世の中には通じないけど。	70代・女

4.女性や若者の登用について：7件

結婚や子育てを経験された女性が上に立つことが出来れば「男女共同参画社会」が実現できる気がします。市民も話しやすいし、意見を言いやすいです。	30代・女
意識改革は十分浸透していると思います。意識は変わっても、年配の方が急に今までの生活を変える行動をすることは難しいので時間が必要だと思います。男女共同参画社会の実現を判断する材料として企業の役職、審議会等の男女の比率は分かりやすいので女性の比率を増やした方が良いと思いますが、やりたいと思っている女性が少ない印象をもっています。女性にスポットがあたりがちな取り組みなので男性の料理教育や家事、育児セミナーなど日田市であってもいいと思います。	40代・男
政治では議員、職場では管理職における女性登用の規定を設けるなどして、早期に男性と同率になるよう進めるべきだと思います。そこから社会、家庭が変わっていくのでは。	60代・女
人口比率は女性が多いのに、各職場や学校、協議会、市議会等の女性参加の少なさが問題。この点の改善を第一にする事が近道である。	60代・男
難しい問題です。例えば自治会長という役職にしても男の人が多くですね。私としては女性が増えてほしいと思ってます。自治会理事にしても男の人とは限らず女の人でもとお願いするのですが、女性の人の考えも子育て家事は女性がするものと考えている人が多いです。そこから改善していかなければと思ってますが。	70代・女
女性に対しての低い評価はまだあります。男性目線は強く残っている様に感じます。日田市長さんのような女性の方々が政治を司る事になれば世界中から戦争等は無くなるのではと思う今頃でございます。	70代・女

北欧諸国のように国会議員や地方議員の定数を男女半々になるように法律で規定する。男女半々で立候補者が出馬するまで選挙を実施できないようにする。立候補が出揃ったら男女別々に開票し、男女別々に当選者を決める。有権者は投票権が男女別々に2票持つことになる。国会や地方の議員はこのようにして男女半々の人数で議会を運営する。首長は男女問わない。政治から率先して男女共同参画議会を運営すれば企業のトップ、大学進学、色々な社会が男女共同参画社会への実現に動いていく。	70代・男
--	-------

5.子育てについて：6件

自分と人を比べるから差別がうまれる。日本人は周りの目を気にしすぎ。もっと自分ファーストでいいと思う。いい意味で空気を読まない鈍感力が大事。でもそれは子供の頃にいろんな人とコミュニケーションをとることで経験して考えることでついてくる力だと思う。子供がダメなことをする前に止めるのではなく、ダメなことをした後でどうしてダメなのか？を悟してあげるのが大人の役目。精神論みたいになってしまいましたが。職場では育児休業とか介護休業とか名前をつけちゃうから休みにくいのでは？全部有休にすればいいのに。働き方改革はなかなか進んでないイメージ。私は家事や育児が嫌で結婚したくないなと、この年まできたし、職場のゴタゴタが嫌で非正規→自営業でやってますので、実体験が伴ってない意見です。	50代・女
子供の頃からの認識が大事だと思う。それには子供を育てる大人が男女共同参画は当たり前であることを十分理解し、子供を育てること。また、学校教育においても様々な場面で男女がそれぞれ共に尊敬して協力しなくては心身共に充実した人生が送れないことを教える必要があると思う。	50代・男
子供の頃から相手の気持ちになって考える心。	60代・女
小さい頃からの子供の教育、大人がきちんとした姿を見せて、その中で育てられれば自然と男女生活できるかな。高齢者は昔の風習が抜けきらず女の役割、優しさ、支え、奥ゆかしさがなくなってしまうとも思う。今の若夫婦をみていると男の人が優しい。奥さんに気を使うと思うが仲が良くていいなと思う。子供も大人も女の人は強く元気になったと思う。	60代・女
子育てに男女が協力して取り組めるようになってきているのは、とても良いことだと思う。これからも男女が協力して子育てができるような社会をみんなで築きあげていきたいと思う。介護にしても同様です。	60代・女
各々の場で人づくりがあっていい関係がなされ、幸福という事の大切さを身につける。子供の頃から特に家庭の教育は大切だと思います。優しい思いやりのある人間づくりが大切。人の事を考える人間づくりが必要。	80歳以上・女

6. アンケートについて：5 件

男性の立場が上で女性の立場が低いということが前提でのアンケート自体が差別していると思います。思っている回答がなく、回答がしづらかったです。	20 代・女
QR コードで Web 回答出来たのは良かったが、Web アンケートによくある「進行状況」あるいは「あと何問」のような表示があると良い。正直質問数も多く終わりまでが見えないので自身も途中でやめたくなった。一時保存の機能はあるが、一時保存してまで再度開く人は居ないと思う	40 代・男
差別をなくすのはとても大切な事だと思います。ただ今の世の中、差別をはき違えて捉えている人が大半だと思います。そのギャップを取り除くには義務教育の中や以前の法令講習の全員参加の免許更新時のように必ず 1 年に 1 回とか、どこかで勉強会に参加しなければいけないような条例を作るような事をしないと個人の差別の主張ばかりして全体をみないような気がします。子どもが小学校の時、保護者の人権学習があり参加した際、知らない事や曖昧しか理解できていなかったのが当時は参加して良かったと思っていましたが 20 数年経てばやはり忘れています。1 回、2 回では実現にはほど遠く、ただへお役所の「しました。しています。」で終わるのではないかと思います。こうやってアンケートを取る手間暇、時間、お金をかけるのであれば実現してほしいものです。今回市民アンケートに選ばれ、良かったと思います。なぜならこのような取り組みをよく知らなかったからです。ここに関わる皆様の努力が報われるようお願いします。	60 代・女
過去にアンケート等調査が何度かありましたが、いつも机上（会議）だけで終わり実現した事がない。ある意味調査が無意味だと思う。	60 代・男
質問全体が、普段の暮らしで中流階級以上の者を対象とした質問設定になっている。本気でこのような制度や組織設定を考えるなら、もっと現実にあった質問設定を考える必要がある。失業者もホームレスも低所得者このような制度とは無関係に生きている。そして、このような下層階級の人国民・市民の構成者です。	70 代・男

7. 支援について：4 件

男性にも女性にも被害受けている人がいると思うので、様々な場合への支援が必要だと思います。	10 代・男
高校まで無償化にして、家庭の負担を少しでも減らすといいと思う。	20 代・男
性別、年齢、職種、年収などどうしても差は生れると思っています。それを全てフラットにすることは必要ないと思っています。自分自身に自信をもって行動できる様に、そんな社会になるためには各々尊敬し、思いやることで良い社会になるのでは。生活保護者などでもできる方を市役所で雇用し、生活保護者を減らす。お金の支援でなく、仕事を勧めるなどしているとは思いますが、生活保護者の少ない町を目指してほしい。給食費、医療費など無料ではなく、減額にすべき。夜間、休日診療者は増え、給食費も学校を休んでも 0 円だからと無駄が増えていると思う。	40 代・女

行政面の支援を受けたいが、アイネスなど交通の便が悪い。何でも大分県府中心ではなく、近県（福岡・熊本）などに参加しやすくなると良い。60代以下の方は社会や世間をご存じかと思いますが、日田の老人世代は女性軽視の傾向があります。妻が社会参加しようとする時、子供の世話は嫌がりゴルフに行く方を選んだりする。	70代・女
---	-------

8. 情報提供・広報・相談窓口について：3件

不安など相談できるようにする。女性が相談しやすいようにメディカルケア専門の女性の方で構成された組織を作り、相談しやすくするなど。	20代・男
男女が活躍できるためのサービスが必要であり、利用するために情報を発信し続けることが大事である。また会社でも働きやすい制度を整える必要がある。両方が行き渡る事で男女共同参画社会が実現できると考える。	30代・男
各分野で男女共同参画社会に向けて実践している事例等、市の広報紙等で紹介するのも一つの方法ではないかと思う。	70代・男

9. 家庭について：3件

専業主婦になりたいと思う女性が多い。それはそれで仕方ないが、現実的には難しい。仕事を通じての喜び、やりがい、収入など良い面をもっと知らせていくべきかと思います。私は子供5人を育てながら365日働いていますが、旦那様がほとんどの家事をしてくれています。男性の協力があればこそです。	40代・女
子どもが育つ環境で差別があれば自然と子供も差別をするようになると思うので、大人たちが変わるしかないと思う。このような意識調査は再認識となる為とても良いと思う。	60代・女
娘達の夫や息子は料理や後片付けをします。その姿は微笑ましい。私の夫は台所に立つ人ではありませんでした。やはり、子供のころから自然と教育し、身につける事だと思います。	70代・女

10. その他について：31件

固定概念を少しずつなくしていく。	10代・女
頑張ろう平等??	10代・女
私は今高校生で、父も母も男女格差があまりない職種に就いているため、社会でどのようなことが起きているかを直接確認することはできません。特に学生だと（私の学校では）、成績や課外活動・リーダーシップの発揮は完全に個人の能力や積極性に基づいている気がするの、待遇の差や機会の差については授業や人づてで聞くことがほとんどです。まだ大人では無い私たちですが今の社会が実際どんな感じなのか、データだけでも構わないので目に触れやすくなるといいと思いました。	10代・女
出産が女性にのみ可能なものであるため、完全な「男女共同参画社会」は困難であると感じる。それ以外の点は目立った障壁はない。一人一人が理解する事が一番大切であると思う。	10代・男

便宜上、男女で括るのはしょうがないと思うが、回答していて気持ちが悪くなるほど、男女で括られていた。現状を踏まえると、男女の平等を実現するのが目下の目標であるということはわかるが、その二元の問題ではないと思う。個人の意識が社会システムのもとに、形成されることも理解はできるが、結局は個人間の問題である。その個人レベルの要望にいかにか社会が対応できるかが、男女平等ないし介護問題など様々な問題を解決していくのではないかと考える。私は社会システムが変化すればそこに合わせようと個人の意識も変化していくと考えている。ここから先の話は、社会経験のない学生の意見であり、実際の会社のシステムが不明で想像での話になるため、実情と異なる場合は聞き流していただきたい。育児休暇に例に出して言えば、育児休暇と言わず家庭に保護者のサポートが必要な状態がある人がいる場合に、長期休暇がとれるシステムなどあれば良いと考える。育児休暇という言葉だけをピックアップするのではなく、長期休暇の理由が育児休暇というくらいで良いと思う。そのレベルからの意識改善からでも、男女を越え多様な問題への意識の変化が訪れるのではないかと信じている。	20代・女
決まりばかり規制を作るのは本末転倒な気がします。もっとやるべき事、優先すべき事が沢山ある様に感じます。収入面や生活に困窮しない状態になって初めて余裕が生まれるものだと思われ、沢山の人間に接して感じます。日本のしきたりや風習などが今の時代にそぐわないと感じます。その結果、人目を気にし、法律でガチガチに規制をしている為、よりストレスを抱えてDVや虐待に繋がっていると感じます。難しい課題ばかりですが目を逸らさず向き合う事が解決の糸口に繋がると私は感じます。ここで私がどんな事を書いたとしても何にも変わらない事は分かっていますが、とりあえず私の周りが幸せになれる様に私自身が頑張っていこうと思います。社会に頼っても無駄だと29歳ですが実感しています。決して悪口などではございません。読まれている方がいれば気分を害してすみません。お仕事頑張ってください！	20代・男
他の都道府県に比べ、日田市は男尊女卑の傾向が強く感じ、転入当初はとてもびっくりしました。お酒の席で男性だけ食事し、女性は隅の方で支度をしているなどの光景を何度か見ました。個性と能力を発揮できることももちろん大切ですが、自治体や社会における女性差別をまず無くしていくことが最優先だと思ふことが多々あります。九州、大分は特に男性優位だと感じる人が多いので、市民の皆さんが意識改革できるような取り組みを市役所でも考えて下さると幸いです。	30代・女
それぞれの本質の性格や考え方が変わらない限り無理だと思う。まだ子供が小さいと難しい。そんな理想通りいかない。有休が終わり就活しましたがすんなり見つからず、こんなに大変なんだと思いました。子供が小さく土、日、祝日が出れないとなかなか雇ってくれるところはない。社会的に難しい。もっと理解ある会社が増えてくれるといいですね。	30代・女
国政→市(県)政→地域→家庭→職場での教育。発言能力を無くなった学校などに注力せず、法と教育にて変えていくこと。日本的考え方をなくすこと。出来ない人に合わせない。競争心の復活。癒着、天下り廃止活動など。	30代・男

無理だと思う。男と女は違うから。	40代・女
社会がもう少し理解できるような環境作りに力を入れてもらいたい。	40代・女
男女差ももちろんですが、誰もが認め合う社会をつくるためにはどうすればいいかという視点でさまざまなことに取り組んだ方がいいように思う。地域でも職場でも、その人自身の経験や能力ではなく、家柄や政治、地域、年齢などで優劣を付けているように感じます。	40代・女
お互い言いたいことを口にしたい方が良くと思います。	40代・男
男女の前に、人間として日々の生活を心地よく生きる為の環境作りを一つ一つ改善していけば、今現在より少しは生きやすくなるのではないのでしょうか。	50代・女
仕事、家庭、子育てで会議等に参加する時間も取りにくいのではないかと思います。ハラスメント、DVについては広く知ってもらうことをこれからも対策は続けていく必要があると思う。	50代・女
一人一人の意識改革。同じ人間としてという意識づくりかな。	50代・女
固定観念をなくすことが必要（結婚するべき、女性は家事をするべき等）。	50代・男
私達の世代は昭和、そして戦後の戦中の苦しい時代の話をお父さんや地域、周りの人達からたくさん聞いてきた。戦争は男が行って戦う場所、女子供は家を守り家族を守るもの。そのような時代に生まれ育った世代は仕方がないと思ってしまふ。女性は結婚したら嫁に入り、妻、嫁、母と何役もこなしてきた。そのために成長できた自分もある。忍耐と言う事も覚えた。今、義両親を見送り、子供達も巣立ってくれて夫婦二人の生活。主人は何もできない、何もしない人（特に家事は）、そうしてきたのは私の責任でもあるが、今思い返した時には決して悪い事や苦しい事はばかりでもなかった。今の自分に思いを寄せられる自分はそのお陰だと思う。	60代・女
損得を抜きにして、他の人に尽くしていくというボランティア精神が必要であると思う。	60代・女
固定概念を破り、家庭や地域、職場でもすべての人が声を上げれる環境と意識をもつこと。	60代・女
40年間差別はなくなりません。空想や人格否定、長年差別を受けている者です。たった1人の人の声から全員に人格否定されるなど本当に子育てから大変でした。が今もなおそれが続いているこんな苦しいことはありません。いつも地域の事やアンケート等があるたびにいつになったら差別がなくなるだろうと思う。1人そういう人は必ずターゲットが必要なのですね。自分宅を守るために。	60代・女
男性、女性を絶対的な違いと思わず、柔軟に受け止められるようになれば良い。魚などの生物では周りの環境でオスがメスになったり、メスがオスになったりすることもあるし、貝では雄雌胴体のものもあります。男性女性の前に、個人一人一人を尊重していこうという意識を持ちたいものです。	60代・男
皆さん忙しすぎて他の活動までしたくない人が多いと思う。	60代・男
私はフランスで開催されているオリンピックでの式典を見て極端化したLGBTは新たな差別を増進する懸念があります。穏やかな変化を求めます。	60代・男

性別以外で、社会での色々な役割に年齢制限を設ける。政治を筆頭に、高齢者の現役率が高すぎて若い世代が育たない。	60代・男
仕事から離れて数年たった為に、今働いている世代の人との交流が少ないので、今の人達の求めている事が分かりません。	70代・女
どうしても自ずの意識（生活レベルや置かれる環境）がUPできるか分からない。例えば高学歴、頭脳明晰、裕福が優先で少人数の意見が通らない。悲しむだけでは駄目ですが、おかしい事をおかしいと言える、取り上げる忖度なしで。	70代・女
永い間この問題につきあってきました。変わったことと言えば子育てと介護が少し進んだかなと思っています。就職して70年位経ちますが、何の変哲もなく寂しく思っています。若い方々に頑張って頂きたいものです。	80歳以上・女
一人一人が心に余裕のある生活ができればよいのではと思います。	80歳以上・男
時代の差で高齢者から見れば相当な改革がある。	80歳以上・男
大企業、富裕層とあまりにも大きい貧富の格差をなくし、国民皆がもう少し安心して暮らせる社会になれば差別やそれぞれの個性と能力を発揮でき、男女共同参画も実現できると思います。	80歳以上・男